

社 会 科 教 室

第 157 号

平成 24 年度

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県小学校社会科教育研究会

はじめに

24年度を振り返りますと社会科を研究する者にとって数多くの成果が得られた1年だったと思います。そのいくつかを紹介させていただき24年度を振り返りたいと思います。

まずは、何といっても秋に浅野小学校で開催しました香小研研究大会があげられます。浅野大会では、県は研究テーマ「社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習」とし、浅野小学校は「社会へ参画する資質や能力につながる学び合い」として、社会的な見方や考え方を養い、身につけた知識を、概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を培っていくことを大切にしたい授業公開や実践発表がありました。また、それまでの浅野小学校の取り組みの様子が学校のあちこちに立体的に分かりやすく掲示され、まるで、社会科だけを授業しているかと思えるほど内容・量ともに素晴らしいものでした。先生方が力を合わせて、基礎・基本を大切にしながら、先進的な情報も取り入れて授業実践を進め、研究内容を作り上げてきたということが本当によく伝わってきました。また、各郡市の提案発表も、夏季研の成果を引き継ぎ、何度も集まって検討を重ね、「教材の構造化」など新しい研究内容を取り入れ、とても先進性・独自性のある提案がなされていました。ここでは、「研究大会を開催することの意味付けやそれぞれの郡市の研究協力体制の大切さ」を学んだと思います。

高知で行われた全小社研の大会では、高・大野小 轟 秀明先生が4年生「水はどこから」で提案発表してくれました。前日、夜遅くまで附属の先生方に提案の本質についてアドバイスをもらい、直前までより充実した発表にしていこうと取り組んでいました。先見性のある香社研の研究を全国に紹介できたと思います。また、今年度も徳島大会に引き続き、近県での発表ということで協力体制を示すべく、2台のバスをチャーターして参加しました。それぞれの学校の予算が厳しい中、香社研が協力するという事で研究大会を充実したものにできました。ここでは、「全国に香社研あり」ということをアピールできたと思います。

最後は、2月23日に開催しました、研究フォーラムカップ2013です。今年度より、研究の更なる一般化と専門性を高めるという視点でカップ方式導入し開催内容も変更しました。狙いの一つは、世代交代、若手の先生方の活躍の場としての取り組みです。参会者が発表を聞き、「自分もその授業を同じように実践してみたい」というような共感できる実践に投票し、最も得票数の高い素晴らしい実践発表郡市にゴールドカップを渡し賞賛するものでした。もう一つは、講師としておいいただきました安野 功先生に選考して頂き、専門性・先見性・提案性等のある深い教材研究や理論に基づく提案発表郡市にシルバーカップを贈るというものでした。開会の後、各郡市1分間のデモンストレーションがありましたが、どのグループも1分間の中に提案内容を驚くほどコンパクトに凝縮し、また踊りあり、音楽ありの豊かなパフォーマンスで内容を説明していました。3グループに分かれての15分間パネル発表でしたが、どのグループもデモンストレーションどおり、内容の濃い発表でした。結果、研究を広めるのに貢献したゴールドカップは坂・綾支部、研究を深めるのに貢献したシルバーカップは三・観支部でした。両グループとも参会の先生方から高い評価を得ていました。詳しくは本誌中の報告のページをご覧ください。ここでは、夏のフィールドワークと同様、若手先生方の「素晴らしい連携と充実した実践発表」に多くの得るものがありました。

今年度の実践を来年度に引き継ぎ、更には28年度の全国大会につないでいきたいと考えます。

終わりにになりましたが。本研究会に対しまして、深いご理解とご支援・ご指導をいただきました各教育委員会の先生方、並びに香社研の諸先輩に厚くお礼を申し上げます。

平成25年3月

香川県小学校教育研究会社会科部会

香川県小学校社会科研究会

(部) 会長 徳田 仁 司

平成24年度 事業報告

1 定例研究集会

○ 6月定例会（小豆・さ東）

1 日時 平成24年6月16日（土）9：30～12：00

2 場所 高松市銀星旅館

3 研究内容

＜小豆テーマ＞

社会認識と社会に関わる力を育てる学習

～基礎・基本を習得し、思考力を育てる社会科学学習～

＜さ東テーマ＞

「思考力の育成をめざした学習プランの開発」

～教科書・副読本の活用による社会科授業の日常化～

【小豆】3年 はたらく人たちとわたしたちの暮らし ～工場の仕事～

【さ東】3年 かわってきた人々の暮らし ～古い道具と昔の暮らし～

＜提案者＞ 高木浩彰先生（小豆島町立苗羽小学校小）

白澤一修先生（東かがわ市立三本松小）

＜司会者＞ 梅本明宏先生（さぬき市立長尾小学校）

＜記録者＞ 山下 博先生（さぬき市立石田小学校）

＜指導者＞ 永坂邦彦先生（さぬき教育委員会学校教育課指導主事）

佐藤正文先生（香社研OB）

○ 7月定例会（坂出・綾歌）

1 日時 平成24年7月7日（土）9：00～12：00

2 場所 坂出市立西庄小学校

3 研究内容

＜坂出・綾歌社研テーマ＞

分かる喜びを実感できる社会科学学習の展開

— 体験的な学習・問題解決的な学習の充実を通して —

＜提案者＞ 福家 寿夫（坂・東部小）第6学年「武士の世の中へ」

＜司会者＞ 河野 富男（坂・瀬居小）

＜記録者＞ 田中 秀年（坂・西庄小）

＜指導者＞ 寺嶋 俊秀 主任指導主事（香川県教育委員会西部教育事務所）

唐木 裕志 先生（香社研OB）

○ 9月定例会（三・観）

1 日時 平成24年9月29日（土）9：30～11：50

2 場所 観音寺市立中央図書館

3 研究内容

＜三観テーマ＞

個が育ち、生きる社会科学学習の創造 —考える力を育てる社会科学学習をめざす

＜提案者＞ 出濱大資先生（観・観音寺南小）

平口真章先生（観・大野原小）

＜司会者＞ 萬亀弘吉先生（三・下高瀬小）

＜記録者＞ 大平晃司先生（観・高室小）

＜指導者＞ 小西 寛主任指導主事（香川県教育委員会事務局西部教育事務所）

田井秀典先生（香社研OB）

○ 10月定例会（高松西）

1 日時 平成24年10月27日（土）9：30～11：40

2 場所 高松市ふれあい福祉センター勝賀

3 研究内容

＜高松市社研テーマ＞

社会科の内容・方法の再構成の学習をふまえた「社会科ノート」づくり

～教科書活用による社会科授業の日常化～

単元 6年 「今に伝わる室町文化」

＜提案者＞ 橋本 英敏 先生（高・川岡小） 瀧 義幸 先生（高・一宮小）

＜司会者＞ 轟 秀明 先生（高・大野小）

＜記録者＞ 藤沢 香居 先生（高・植田小）

＜指導者＞ 池田 茂樹 先生（東部教育事務所主任指導主事）

植松 勝 先生（香社研OB）

○ 11月定例会（丸亀）

- 1 日時 平成24年11月17日（土）9:30～11:30 受付9:00～
2 場所 丸亀市綾歌町岡田コミュニティセンター 研修室1階
3 研究内容

＜丸亀社研テーマ＞

自分づくりの社会科学習

－基礎・基本の定着と自ら学ぶ問題解決能力の育成を求めて－

＜提案者＞ 第3学年「はたらく人とわたしたちの暮らし」

＜司会者＞ 眞井 孝征 先生（丸・飯山南小）

＜提案者＞ 渡部 更治 先生（丸・岡田小）

＜指導者＞ 香川 佳和 先生（香社研OB）

2 夏季研修会

- ・ 月 日 7月27日（金）
- ・ 場所 高松テルサ
- ・ 研究主題 社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習
～教科書活用による社会科授業の日常化～
- ・ 内容 提案発表，分科会，講演等
- ・ 提案者 本部提案 大嶋 和彦（香川大学教育学部附属高松小学校）
高松市社研提案：野土 裕彦（高松市立三溪小学校）

■分科会Ⅰ 提案

- 第3学年 「昔のくらしと道具」 高松市立栗林小学校 眞鍋 長嗣
第4学年 「香川県の特色ある地域と人々のくらし」 高松市立大野小学校 轟 秀明
第5学年 「森林を守る人とわたしたち」 高松市立一宮小学校 瀧 義幸
第6学年 「世界の中の日本の役割」 高松市立一宮小学校 篠原絵里香

■分科会Ⅱ

- 「火事からくらしを守る」 三豊市立詫間小学校 近藤あけみ
「事故や事件からくらしを守る」 宇多津町立宇多津北小学校 藤田 順也
「水はどこから」 高松市立中央小学校 平井小百合
「ごみのしよりと利用」 丸亀市立郡家小学校 片岡由起子
「水産業のさかんな静岡県」 土庄町立土庄小学校 靄羽 美緒
「武士の世の中へ」 東かがわ市立丹生小学校 柴田 奈緒
「一所懸命生きた武士」～封建制度の変遷～ 琴平町立琴平小学校 渡部 岳史

- ・ 県大会に向けての提案 高松市立浅野小学校 森田留美 宮脇好美
- ・ 指導・講評 香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 川上り彩

3 研究フォーラム

- ・ 日時 平成25年2月23日（土）13:00～17:00
- ・ 場所 香川大学教育学部附属坂出小学校 体育館
- ・ 内容 第1回フォーラムカップ

13:20～13:30 準備・移動

13:30～13:55 第1ラウンド

14:05～14:30 第2ラウンド

14:40～15:05 第3ラウンド

※ ①…第1ブース（西），②…第2ブース（南），③…第3ブース（北）

◆ 研究部提案「H28年度全国大会に向けての研究の方向」

香川大学教育学部附属高松小学校 教諭 大嶋 和彦

◆ 質疑・応答

◆ 研究への助言 國學院大學教授 安野 功先生

◆ 表彰

金カップ・・・綾川町立昭和小学校 教諭 福家 実樹
青カップ・・・観音寺市立観音寺南小学校 教諭 出濱 大資

◆ 副会長挨拶 高松市立植田小学校 校長 池田 孝徳

平成24年度 香社研フィールドワーク 活動報告

平成24年度のフィールドワークも、昨年度までと同様に、香社研だけのオリジナルツアーを企画しました。1泊2日でバスを貸し切り、世界遺産の石見銀山、第6学年の古墳時代で扱われている四隅突出古墳を有する島根県を巡り、教材研究を深めたり、会員の親睦を深めたりしました。参加人数は35名と今年度も大盛況でした。今年度のフィールドワークの概要を以下に報告致します。

- 1 目的：① 教科書に掲載されている地域を巡り、教材研究を深める。
② 教科、世代、男女を問わず参加していただき、香社研の輪を広げていくとともに、教員同士の親睦を深める。
- 2 日程：平成24年8月18日（土）19日（日）

行 程										
8月18日（土）										
高松==坂出==真庭 PA==四隅突出型古墳==島根原子力館==潜戸遊覧船==										
6:20	7:20	8:50	9:00	10:20	11:30	12:10		13:20	13:50	
==松江歴史館・堀川遊覧船==ホテル==懇親会										
15:30		17:50		18:00	18:30					

ホテル 「ルートイン松江」										
住所 島根県松江市東本町 2-22 TEL (0852) 20-6211										
8月19日（日）										
ホテル==奥出雲たたらと刀剣館==荒神谷遺跡==石見銀山==坂出==高松										
8:00	9:30		10:10	11:30	12:00	13:40	16:00	20:15	21:00	

- 3 参加人数： 36名
- 4 交通手段： 貸し切りバス
- 5 各スポット

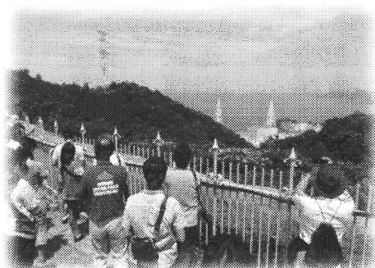
(1) 8月18日（土）

四隅突出型古墳(安来市)



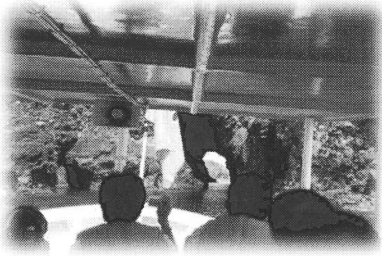
急な坂道を約100m上ると、四つの頂点の部分がヒトデの足のように数m伸びている方墳が姿を現します。弥生時代の中期～後期に作られ、山陰地方を中心に見られるそうです。実際の古墳の上を歩くことができ、大きさや周囲の景色をみることができました。

島根原子力館(松江市)



日本で5番目の原子力発電所である島根原子力発電所を望む原子力発電に関する資料館。時間の都合で滞在時間は十分取れなかったものの、スタッフの方が島根原発の現状について分かりやすく説明してくれました。

加賀の潜戸遊覧船(松江市)



リアス式の海岸線。断崖絶壁の岬の先端にある海食作用でできた洞窟があります。自然の力によってつくられた造形美を、遊覧船でめぐりました。旧潜戸では、「賽の河原」があり、船を下りて辺りを散策することができ、神秘的な 50 分間を過ごすことができました。

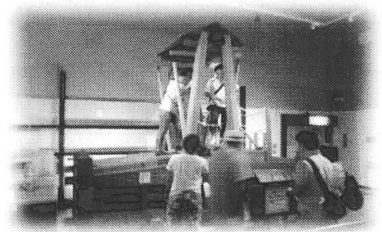
松江歴史館・堀川遊覧船.(福岡県太宰府市)



松江歴史館か堀川遊覧船を選択し、松江を自由に散策しました。堀川遊覧船では、船頭さんの街並み紹介に笑い通しで楽しく過ごしました。どちらも、松江城やその城下町の歴史を感じたり、お土産を買ったりした時間になりました。

(2) 8月19日(日)

奥出雲たたらと刀剣館(奥出雲町)



映画「もののけ姫」に登場する「たたら場」について調べることができました。館長さんが熱く当時の製鉄について語ってくださいました。ふいごの模擬体験をしたり、製鉄の仕組みを調べたりしました。

荒神谷遺跡(出雲市)



当時には発見されたことがない、358 本もの銅剣が一度に発掘された遺跡です。当時の時のようにレプリカが埋められています。現地ガイドさんがその価値や発見された当時のことを話してくださいました。

石見銀山(出雲市)



世界遺産となっている石見銀山の龍源寺間部を、現地の調査に関わった方がゲストガイドになって、詳しく説明してくださいました。自分だけで見ても気づかない価値や周りに広がる自然を十分に満喫しました。

6 旅を終えて

今回も社会科だけでなく、他教科の先生方も含めて、楽しく教材研究が深められたことが一番の成果だと感じています。たくさんの

道中には、運営委員による見学地紹介のプレゼンがあり、参加者からの一言があり、それぞれ独自のパフォーマンスで車内を盛り上げてくれました。来年は5周年を迎えることになり、年々充実した内容になっているのを感じます。来年もさらにたくさんの会員の皆さんと、さらに教材研究や親睦を深めていきたいと思います。

1 本年度の課題と年間計画

(1) 本年度の課題

教科書の文章や資料をそのまま使わずにどのような問題を作成していくか。

(2) 年間計画等

今年度、年 6 回（前期版・後期版）の編集会議。

年	平成 24 年												平成 25 年		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
作成予定	① H25 前期版作成	②	③			④ H25 後期版作成	⑤	⑥							
				H25 前期版修正・完成							H25 後期版修正・完成				

【年間計画】

	回	日 時	内 容	備 考
25 年度 前期版 作成	①	4 / 28 (土) 12:30～14:30	担当決め	
	②	5 / 19 (土) 13:30～16:30		
	③	6 / 16 (土) 13:30～16:30	最終の話合い	■ 会議の部屋とは別の部屋に、昼食を用意しております。 ■ 来られた方から食事にご案内いたします。 ■ 12:00 頃から昼食用意
	提出	6 / 29 (金) 7 / 10 (火)	世話役必着 事務局河田必着	
	④	9 / 29 (土) 13:30～16:00	担当決め	
	⑤	10 / 27 (土) 13:30～16:30		
25 年度 後期版 作成	⑥	11 / 10 (土) 13:30～16:30	最終の話し合い	■ 会議の部屋とは別の部屋に、昼食を用意しております。 ■ 来られた方から食事にご案内いたします。 ■ 12:00 頃から昼食用意
	提出	11 / 30 (金) 12 / 11 (火)	世話役必着 事務局河田必着	

編集作業では、次のように役割分担し、下記の計画にそって行います。

【役割分担】

- 指導、編集責任者 . . . 教頭先生
- 世話役（司会、原稿取りまとめ、添削等） . . . 1名
- 編集者 . . . 残りの先生方

2 編集・執筆者一覧（敬称略）

(1) 指導者

全 体	・・・	徳田 仁司	（高松市立国分寺北部小学校 校長）
第6学年	・・・	橋本 義人	（東かがわ市立丹生小学校 教頭）
		森本 宗平	（坂出市立府中小学校 教頭）
第5学年	・・・	市原 茂幹	（高松市立植田小学校 教頭）
第4学年	・・・	久保 範高	（高松市立国分寺北部小学校 教頭）
第3学年	・・・	臼杵 優	（観音寺市立柞田小学校 教頭）

(2) 編集委員

◇ 総括

河田 祥司 （香川大学教育学部附属高松小学校）

◇ 学年責任者

第6学年	・・・	山内 秀則	（香川大学教育学部附属坂出小学校）
第5学年	・・・	大嶋 和彦	（香川大学教育学部附属高松小学校）
第4学年	・・・	黒田 拓志	（香川大学教育学部附属高松小学校）
第3学年	・・・	藤本 博之	（香川大学教育学部附属坂出小学校）

◇ 執筆者

第6学年	六車 浩（東かがわ市立誉水小学校）	久保田 直寛（さぬき市立志度小学校）
	田中由賀里（さぬき市立神前小学校）	山本 香代子（坂出市立坂出小学校）
	山本 泰司（坂出市立坂出小学校）	上村 勇介（坂出市立林田小学校）
第5学年	塩見 強（小豆島町立池田小学校）	鶴羽 美緒（土庄町立土庄小学校）
	白川 由美（高松市立多肥小学校）	近江 麻子（高松市立太田南小学校）
	森川 美香（高松市立大野小学校）	佐藤 南（丸亀市立垂水小学校）
	櫻井 道芳（丸亀市立飯山北小学校）	
第4学年	瀧 義幸（高松市立一宮小学校）	坪井 孝明（高松市立鶴尾小学校）
	篠原絵里香（高松市立一宮小学校）	高尾 悠司（高松市立円座小学校）
	小野 咲絵（丸亀市立城乾小学校）	中西 昇（丸亀市立城北小学校）
	高吉直之（高松市立国分寺北部小学校）	
第3学年	真鍋 長嗣（高松市立栗林小学校）	熊野 真美（高松市立中央小学校）
	平井小百合（高松市立中央小学校）	柏 徹哉（高松市立川添小学校）
	泉宮 広也（三豊市立上高瀬小学校）	萬亀 弘吉（三豊市立下高瀬小学校）
	岸上 也寸志（三豊市立詫間小学校）	

改訂から1年。さらによりよい社会科教育を展開できるように、社会科の問題作り等に挑戦された先生方に厚く御礼申し上げます。

研究主題

社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習

～ 教科書活用による社会科授業の日常化 ～

香川大学教育学部附属高松小学校 教諭 大嶋 和彦

I 研究主題について

1 これまでの研究成果と今後の研究課題

4年前に行われた平成20年度の四国大会においては、内容研究に重点を置いて研究を行ってきた。その成果は、『「社会科ノート」による思考力の育成』として、研究図書にもまとめてきた。その後、平成21年度から平成23年度にかけては、「意欲」「思考力」「評価」といった学習方法を中心に取り組み、授業づくりの研究として成果を上げることができた。香川の教育が、学力においても教師の指導力においても全国から高い評価を得ているところである。

しかし、平成23年度になり、新学習指導要領による教育研究が進められてきたが、そこにはいくつかの課題も挙げられており、その対応が急がれているところである。いくつか課題を挙げると、①言語活動とか思考・表現の方法等の指導方法についての研究は進んできたが、内容を系統づけたカリキュラム(指導計画)の研究が十分でないこと、②子どもが意欲をもち、主体的に学ぶ学習に課題があること、③1時間の授業研究については深められてきているが、カリキュラム(指導計画)に基づく教科書を活用した日々の授業を新採・若年教員がスムーズに行うことが難しいこと、④子どもが意欲をもち、学ぶ喜びをもつ評価の研究が十分でないこと、⑤授業のまとめ・表現物により家庭・地域等へ発信し、社会参画へつなぐ授業をいかにつくるかなどである。

そこで、これら5つの課題を研究課題として解決すべく、研究主題「社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習 ～教科書活用による社会科授業の日常化～」を設定した。このことについて概要をまず述べておく。

2 研究の方向性

小学校社会科の学習は、「※地域社会や我が国における人々の社会生活を広い視野からとらえ総合的に理解することを通して、公民的資質を養う」ことをねらいとしている。ここにいう、社会生活とは「※社会とのかかわりの中での人々の生活のことであり、地域の地理的環境や組織的な諸活動の様子などとともに、我が国の国土の地理的環境や産業と国民生活との関連、我が国の歴史的背景など」を含んでいる。(※は学習指導要領解説より)

文中「広い視野からとらえる」は、社会生活について多面的・多角的な社会科的な見方を深めることであり、「公民的資質を養う」は、社会的な見方・考え表し方を深めることにとどまらず、社会人としての在り方を求めることである。これは、社会的な見方・考え表し方・在り方を互に関わり合わせ「社会参画」につないでいくことにより、養うことができるものと考えている。

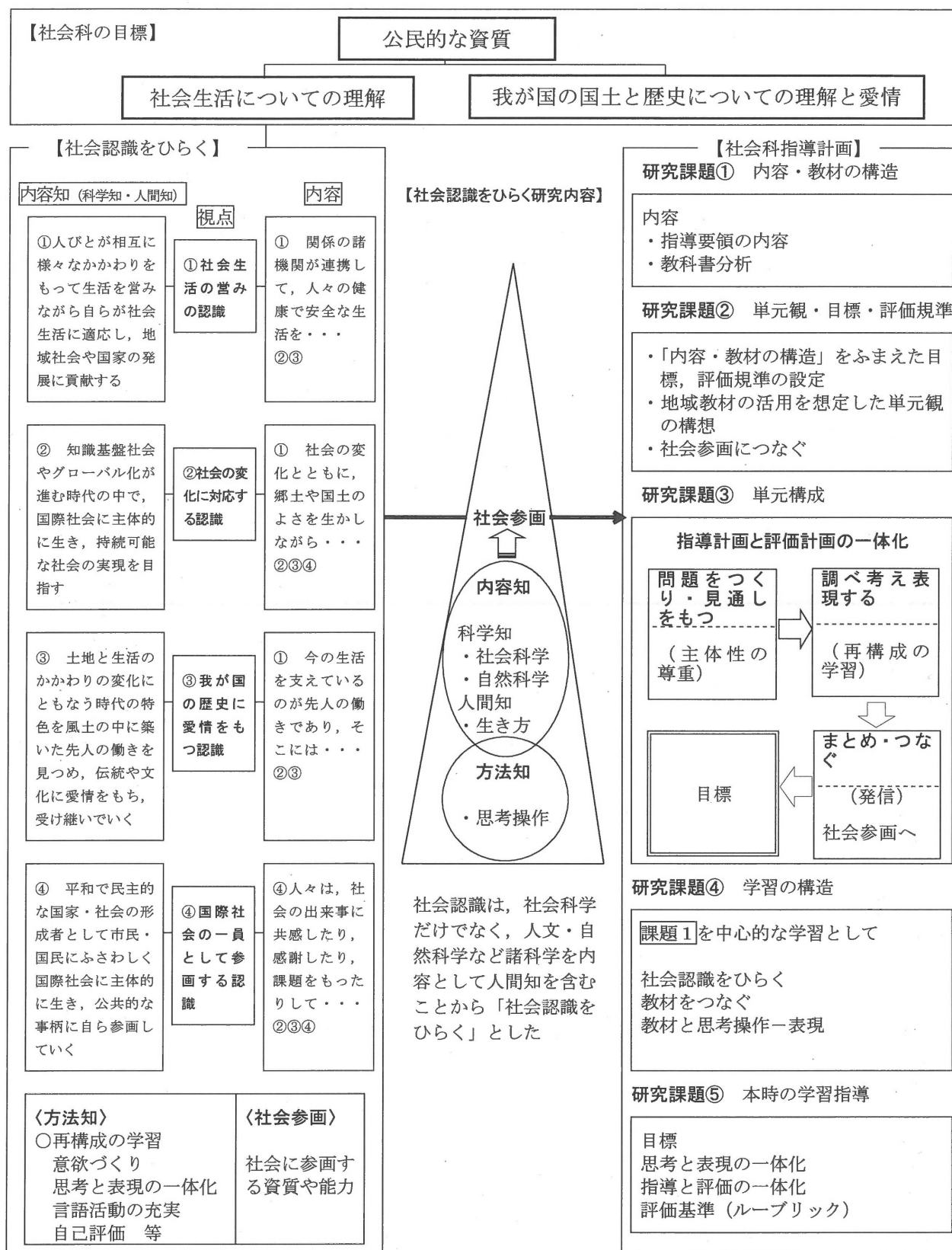
なお、社会参画については、「持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成する」として、今回の指導要領改定でも重視されているところであり、今後の授業づくりの目指す方向として大切にしたい。ここまで述べてきたように、本主題のもとに展開される学習は、社会科の内容研究を充実させ、それを思考と表現の一体化による子どもたちの学びで深め、実社会・実生活へのつながりを求める学習である。

次にサブテーマ設定の意図について述べる。平成23年1月に出された「教員の資質能力の総合的な向上方策について」中教審・報告では、新採教員の増加、校内研修における先輩教員からの伝承の困難さ等が指摘されている。また、県の学力調査から見てきた「社会科学習」がもつ課題、香川の

教育課題となっている生徒指導にかかわる課題など、その対策が急務とされている。その対応策として、どうしても「1時間の社会科授業の研究」から、社会科教育の基本をふまえた「教科書活用」を入れた指導計画に基づく日々の社会科授業の充実による学力・生徒指導対策が求められる。このことからサブテーマとして「教科書活用による社会科授業の日常化」を設定した。

Ⅱ 研究主題研究の「具体の姿」～実践編～

まず、研究の「具体の姿」の全容を述べ、次に指導計画の実践例を示すことにする。



研究課題①「内容・教材」の構造づくり

まず、指導要領と教科書分析により、単元の内容を分析し、授業づくりの基礎をつくる。

内容・教材の構造図

5年 「日本の米づくりを考えよう」

(発展的な内容)

農業分野においては、地産地消、ブランド農産物の開発、農業を行う会社をつくる等の工夫がなされているが、耕地面積の減少、農業人口の減少と高齢化、そして東日本大震災や WTO 農業交渉などの課題がある。その中で、1999 年「農業基本法」が制定され、自給率向上を目指した政策が進められている。また、一方で農業・農村の多面的機能の充実が期待されている。

(教科書)

小学生の農作業体験 虫送り、雪中田植えなどの行事 58,59P

内容(ウ)

食料生産に従事する人々は、地形や気候などの自然環境や社会的な条件を生かして、品種改良や生産の効率を高める技術改良や味や品質の向上、食の安全な確保に努めながら、生産や出荷をしている。

(教科書)

共同作業 カントリーエレベーター
農業試験場 勉強会 60,61P
農業協同組合(JA) 営農指導員 62P
農業生産技術試験場 品種改良
人工衛星やカメラを積んだヘリコプターを使った米の生育調査 63P
(地域教材)
高松南部カントリーエレベーター

内容(ウ)

農業の盛んな地域では、輸送手段や経路、出荷先や出荷量などを判断するために情報を収集し、鮮度を保ちながら生産物を早く消費地へ届ける努力をしている。このような運輸にかかわる費用なども価格に含まれている。

(教科書)

米づくりにかかる費用 57P
庄内平野の米が全国にとどくまで(図)
フェリーやトラック
米屋 スーパーマーケット
産地直送する農家のインターネットサイト 64,65P

(関連する内容)

内容(イ)

我が国の主な農産物や畜産物の生産量や主な産地、土地利用の特色は、自然環境と深いかわりをもって営まれている。

(教科書)

日本列島のいろいろな地域で米づくりが行われている 50,51P
ほ場整備、庄内平野 52,53P
庄内平野 雪解け水 季節風 用水路
防砂林 月別平均気温のグラフ
月別日照時間のグラフ 54,55P
米づくりの農作業ごよみ 専業農家 56,57P

(地域教材)

高松地域の農作業ごよみ
ため池の配水のしくみ

(基底となる内容)

農業は国民の食糧を確保する重要な役割を果たしている。生産に従事する人々が消費者の需要に応え、新鮮で良質なものを生産し出荷するため、地形や気候などの自然環境や社会的な条件を生かして生産を高める工夫や努力をしている。また、運輸の働きによって鮮度を保ちながら生産物を早く消費者に届ける努力をしているが、我が国の農業には解決しなくてはならない多くの課題が残されている。

内容(ア)

我が国の農業は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしており、主食である米をはじめ野菜、果物、畜産物などを生産している。

(教科書)

広告(食べ物のふるさと探し) 46,47P
様々な農産物の分布 48,49,98,99P
地図帳 67P

食料基地 65P

米の生産量と消費量のグラフ
生産調整 66,67P

研究課題② 単元観・目標・評価規準の設定

どのような社会認識をもたせたいのか、「内容・教材の構造」をふまえて単元観を確立する。

ア 単元観の構想

- ① 「内容・教材の構造」づくりを通して教科書を分析し、単元の方向性を考える

② 教科書内容に地域教材を取り入れ、地域の特色をもった社会認識をつかめるよう単元観を構想する

本単元における単元観の概要

本単元「日本の米づくりを考えよう」においては、問題を持ち、見通しをもつ段階において、日本の米の生産量及び消費量が年々落ち込んでいることに気づき、子どもがそれを何とかしようと見通しをもって学習に取り組むことを期待している。最終的には、自分たちで考えた方策を社会にアピールすることで社会参画につなぐ学習としたい。

また、我が国の米づくりは自然条件や社会条件と深いかわりをもって営まれていることをつかませるためには、庄内平野の米づくりだけを学ぶだけで十分ではないと考えた。地域教材である讃岐平野の米づくりと対比する思考操作を取り入れることによって、より豊かに日本の米づくりについて理解を深めることができるものと考えている。

イ 目標

- 我が国の米の生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たして国民の食生活を支えていること、米の生産は自然環境と深いかわりをもって営まれていることや、米の生産に従事している人々は地形や気候などの自然環境や社会的な条件を生かして生産を高める工夫や努力をしていること、また運輸の働きによって鮮度を保ちながら生産物を早く消費者に届ける等の努力をしているを理解する。我が国の農業には解決しなくてはならない多くの課題が残されていることを理解し、国民生活を支える米の生産の発展について考えようとする。
- 我が国の米の生産の様子から学習問題を見だし、地図、統計などの資料を活用するなどして調べたことをにまとめるとともに、米の生産の様子と自然環境や国民生活とを関連づけて考えたことを適切に表現する。

ウ 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・ 表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
① 我が国の米づくりの様子に関心を持ち、意欲的に調べている。 ② 国民生活を支えている我が国の農業の発展を考えようとしている。	① 我が国の米づくりの様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ② 我が国の米づくりは自然条件や社会条件と深いかわりをもって営まれていることを考え適切に表現している。	① 調べたことを白地図や作品などにまとめている。 ② 地図や地球儀、統計などの資料を活用して、我が国の農業の様子について必要な情報を集め、読み取っている。	① 我が国の農業は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを理解している。 ② 米づくりに従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解している。

研究課題③ 単元構成づくり

「内容・教材の構造」に地域教材を加え、指導計画に評価計画を加えた計画を作成する。

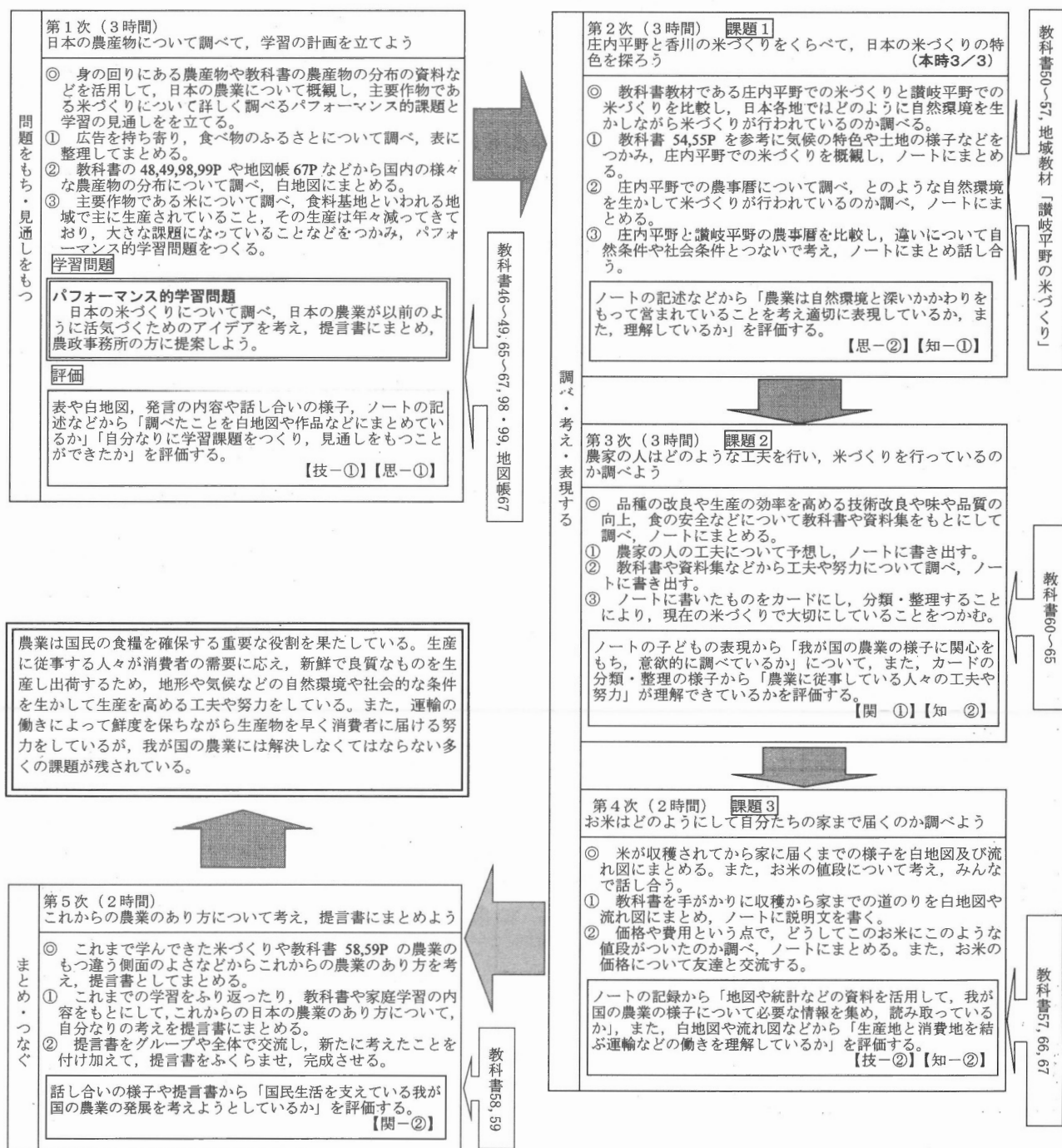
第5学年 単元名「日本の米づくりを考えよう」

1 評価規準

(表記：関①、思①、技①、知①)

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用・技能	社会的な事象についての知識・理解
① 我が国の米づくりの様子に関心をもち、意欲的に調べている。 ② 国民生活を支えている我が国の農業の発展を考えようとしている。	① 我が国の米づくりの様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ② 我が国の米づくりは自然条件や社会条件と深いかわりをもって営まれていることを考え適切に表現している。	① 調べたことを白地図や作品などにまとめている。 ② 地図や地球儀、統計などの資料を活用して、我が国の農業の様子について必要な情報を集め、読み取っている。	① 我が国の農業は国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを理解している。 ② 米づくりに従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解している。

2 単元構成 (全13時間)



研究課題④ 学習の構造づくり（地域の特色をもち「社会認識をひらき、教材とつなぐ」）
5年単元「日本の米づくりを考えよう」（13時間）

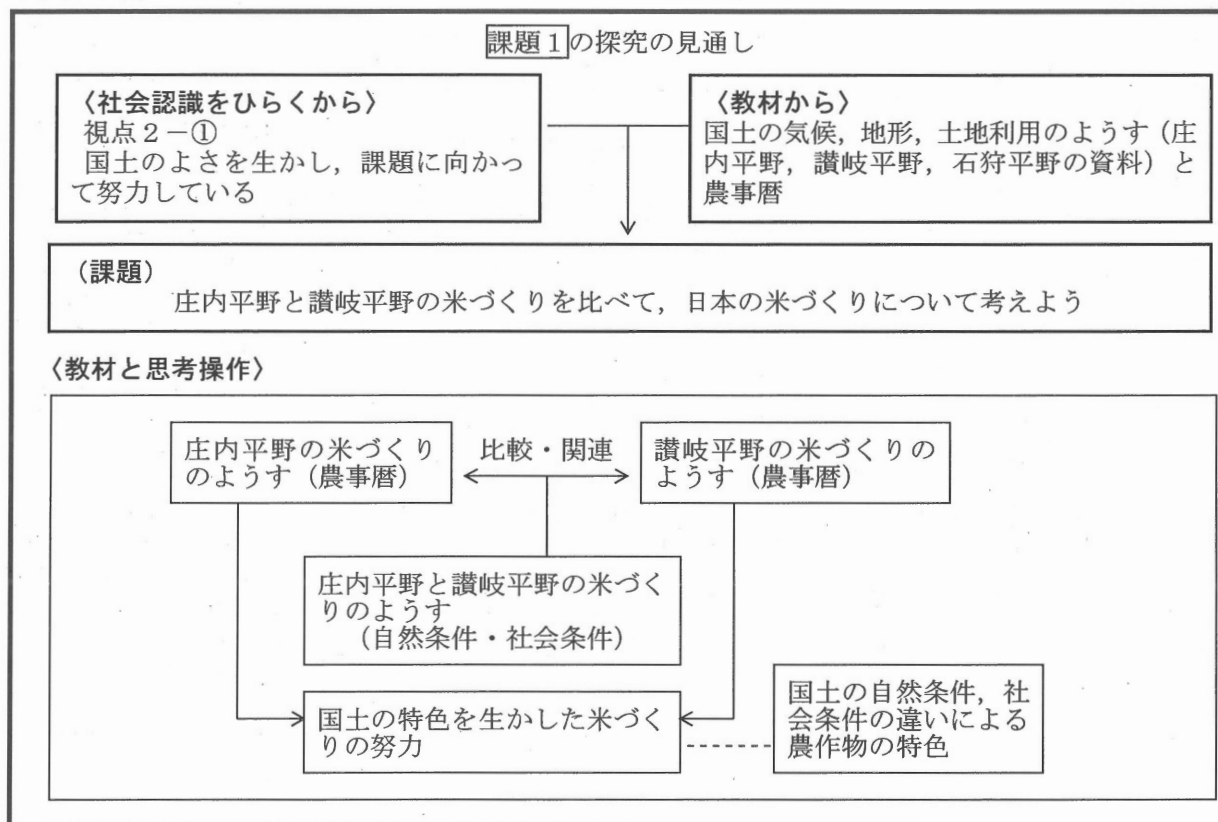
学習問題	日本の米づくりについて調べ、日本の農業が以前のように活気づくためのアイデアを考え、提言書にまとめ、農政事務所の方に提案しよう。
------	---

課題1 （3時間） ○ 庄内平野と香川の米づくりを比べて、日本の米づくりの特色を探ろう ① 教科書 54,55P をもとにして庄内平野の米づくりがさかんな条件をまとめる ② 教科書の農事暦と香川の農事暦を比較し、特色をまとめる ③ 他地域の米づくりの特色を調べる
--

社会認識をひらく	
内容知	視点2 社会の変化に対応する認識 ～変化に対応し、広い視野から考えをもつこと～ ① 社会の変化とともに、郷土や国土のよさを生かしながら、人々は生産や消費などで多くの課題に立ち向かって努力している
方法知	・ 気候や地形、土地利用図で生産の工夫をしていることを書き出す。 ・ 農事暦を比較し、他地域の特色を関連づける。

教材
地域教材の調査 ・ 香川・川島地域の農事暦と特色より、ため池からの配水とつないで米づくりを考える。 教科書・資料 ・ 教科書 52～59P

〈学習の構造〉



研究課題⑤ 本時の学習指導案づくり

思考操作により思考力の育成を図る。評価基準（ルーブリック）の設定により、指導と評価の一体化を図る。

本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 庄内平野の米づくりのようすと讃岐平野の米づくりのようすをくらべ、日本の米づくりの特色について考えることができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	児童の意識の流れ	教師の支援・援助活動
1 前時までに学習してきたことをふりかえり、本時のめあてをつかむ。	庄内平野と讃岐平野の米づくりを比べて、日本の米づくりについて考えよう。 同じ日本でも香川の米づくりと庄内平野の米づくりでは違いがあるようだ。違いのわけを考え、日本の米づくりの特色をまとめよう。	○ 庄内平野の学習の際に、郷土香川ではどのように米づくりが行われているのだろうかという課題に気付かせ、意欲的に取り組めるようにする。
2 家庭学習で調べた讃岐平野の米づくりについて交流し農事暦にまとめる。	家庭学習で讃岐平野の米づくりについて調べてきたよ。 田植えは、6月中旬に行われることが多いようだ。 田植えに使う水は、ため池と香川用水に頼っているよ。 一つ一つの田の面積は、とても小さいよ。 苗は、ビニールハウスではなくて、路地で育てているよ。	○ 家庭での聞き取りや、取材活動に積極的に取り組めるよう配慮する。
(1) 讃岐平野の米づくりについて話し合う。		○ 気付いたことをクラスで話し合わせ、1つの農事暦にまとめていくよう配慮する。
(2) 話し合ったことをもとに農事暦にまとめる。	香川の米づくりの様子が分かったよ。庄内平野の米づくりのようすと比べてみよう。	○ 庄内平野と同じように農事暦をつくるようにし、その違いに気付きやすいよう配慮する。
3 庄内平野と讃岐平野の農事暦を比較し、日本の米づくりの特色について考える。	庄内平野は5月上旬に田植えをするのに対して、讃岐平野は主に6月だ。 庄内平野は、最上川の水を利用している。土地改良区が水を管理するのは同じ。 庄内平野は圃場整備が進み、一枚の田がとても大きいよ。 苗は、4月からビニールハウスで苗を育てている。讃岐平野では6月だよ。	○ 自然条件（気候、地形等）と社会条件（1軒あたりの農地面積、専業農家率）等を用意しておき、自由に活用できるようにする。
(1) 農事暦を比較し、相違点をノートに書く。	同じ米をつくるのに、どうしてこのような違いがあるのだろうか。	（評価）【思考-②】 3 2つの平野の相違点を自然条件や社会条件とつないで考え、共通の特色を自分の力で見つけることができる。
(2) 相違点について、各平野の自然条件・社会条件とつないで、考え、ノートにまとめる。	各平野の自然条件・社会条件 讃岐平野では、二毛作で麦をつくっているから、田植えが遅くなるのだろう。一斉に田植えをするのは、水を有効に使う工夫だろう。 庄内平野では豊富な水があるのに対して、讃岐平野では、ため池や香川用水など、限られた水を有効に使って米づくりが行われているよ。 庄内平野では専業農家が多く、機械化を推し進めた結果、1枚の田が大きくなったのではないかな。讃岐平野は兼業農家の割合が高く、田が小さいよ。 庄内の気候に合わせて、最もいい時期に穂が出るよう早くから苗を植えるのではないかな。それに対して、讃岐平野では、気温が高いので時期が遅いのではないかな。	2 2つの平野の相違点を自然条件や社会条件とつないで考えることができる。1 2つの平野の相違点②は気付いているが、その背景を見つけることが難しい。 → 1つの相違点に対して、1つの自然・社会条件を提示し、つないで考えるよう助言する。
(3) 2つの平野の比較から言えることを考え、日本の農業の特色について話し合う。	日本では、各地の気候に合わせて米づくりが行われ、長い年月をかけてその土地の自然条件・社会条件に最も適したかたちになっている。そこには、地域の特色を生かして米づくりをしようと努力してきた人々の営みがある。	○ 共通して言えることをもとに、沖縄ではどうか、北海道ではどうか等、日本の他地域にも転移して考えられるよう助言する。
4 次時のめあてをもつ	農家の人は、どのような工夫を行い米づくりを行っているのか調べてみたい。	○ 次時のめあてをもたせ、意欲をつなぐ。

Ⅲ 研究主題について～理論編～

1 「社会的な見方」について

(1) 「社会的な見方」の学びを求める社会認識の内容を明らかにする。

香小研社会科部会では、平成20年度の四国大会において「社会をひらく」を研究主題とする、社会認識の内容の研究とそれに基づく社会科カリキュラムについて提案したが、内容研究の成果を十分生かせないままその後の研究が行われてきた反省がある。「社会認識を明らかにしたカリキュラムづくり」とそれに基づく「主体的な学習」を究明しなければならない。その際、新学習指導要領が示された後に出てきた次の2点についても重視したい。

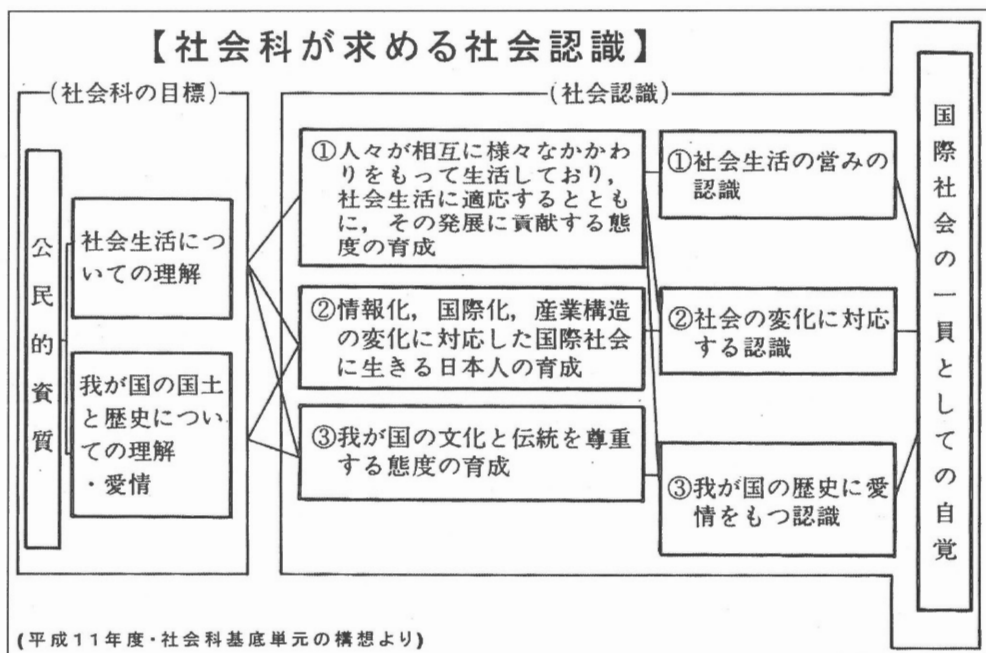
- 平成23年3月11日の東日本大震災以降、「社会生活」についての取り組みについて変革が求められるようになってきた。その1つが、「持続可能な社会」の実現を目指すことの重視、2つ目は、「日本人としての心」の再認識、3つ目は、「社会参画」につながることである。このようなことを実現するためにも、まずしっかりと社会認識をもつことが大切になってくる。
- 平成23年12月、第2期教育振興基本計画の「基本的な考え方」がとりまとめられた。昨今のグローバル化や少子高齢化、さらには先般の東日本大震災など、深刻な諸課題を抱えるわが国は、きわめて危機的な状況にあり、まずはこのような危機を国民全体が共有する必要があるとし、そのうえで、持続可能で活力ある社会を実現するために、単に経済成長のみを追求するのではない、成熟社会に適合した新たな社会モデルを構築することで、一人ひとりが生涯にわたり能動的に学び、力を養い、その成果を社会に生かすことが可能な生涯学習社会を構築していくことが必要としている。このことをふまえ、多様性を基調とする「自立、協働、創造」の三つの理念をキーワードとし、今後の教育行政の方向性について考えていくとしている。

以上のようなことも考慮して、これからの社会科教育においてどのような社会認識をもたせたらよいのか考えていきたい。

(2) 香社研の「社会認識論」

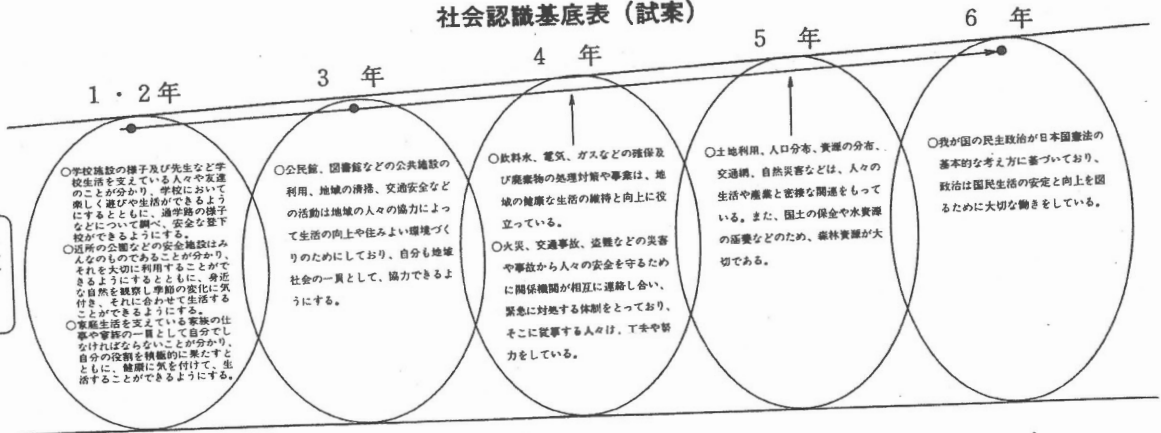
香社研は、その発足の時以来、「社会認識論」と「社会科学習構造論」を研究し続けている。その中で、現行の学習指導要領による「社会認識論」にかわるものとして、平成11年「社会科基底単元の構想」として示した下図の「社会認識」と次頁の「社会認識基底表」がある。これが、平成20年新学習指導要領のもと「社会認識をひらく」を研究主題とした研究へと発展してきている。

「社会認識をひらく」とは、従来どちらかという「社会認識」は社会諸科学の見方による内容知であったことを「社会認識をひらく」として社会諸科学だけでなく、自然諸科学、人文諸科学などの科学知・内容知と人間としての生き方・在り方の「人間知」を入れた内容知としてとらえたものであり、社会認識はこの「内容知」と「方法知」によって構成するとした主張を行った。ここに改めて、平成24年度の研究で「社会認識」を考える場合、この20年度の研究成果を十分に生かし、発展させたいと考えている。

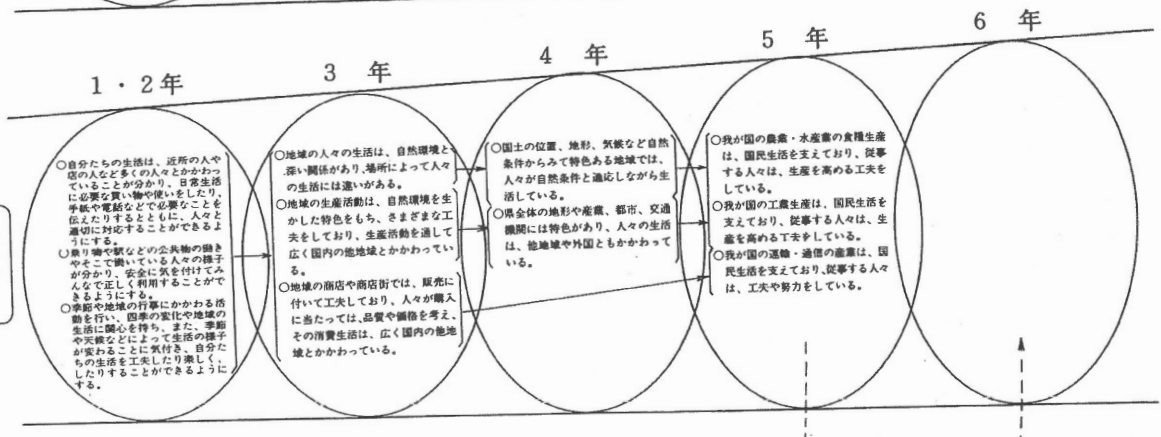


社会認識基底表（試案）

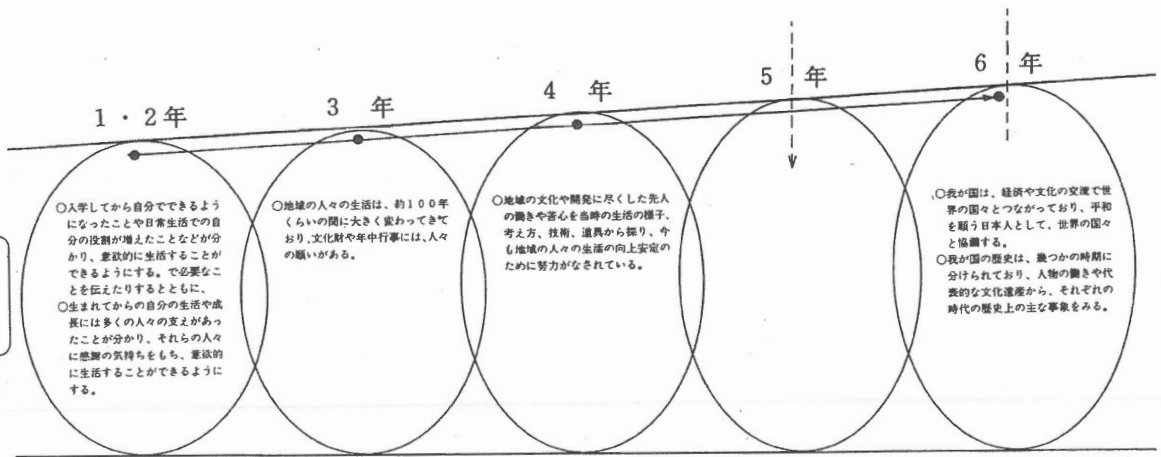
社会生活の営み



社会の変化に対応

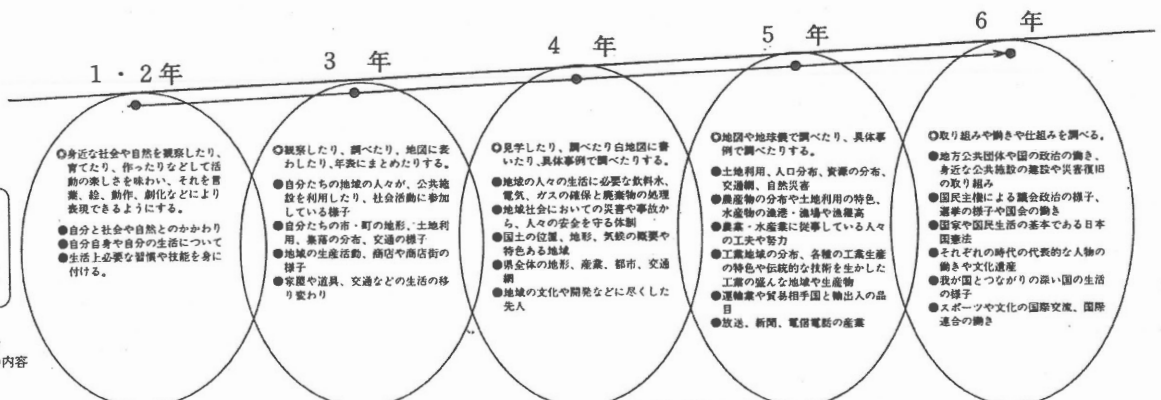


我が国の歴史に対する愛情



認知力の育成

- 調べ方
- 認知の内容



(3) 社会認識の内容を次の①～④の手順で明らかにする。

① 社会認識の柱を学習指導要領の目標におく

～文部科学省・澤井陽介教科調査官のご指導(平成23年度夏季研)をよりどころにして～

社会認識の柱を学習指導要領の目標と教科調査官・澤井陽介先生のご指導を関係付け、平成11年度作成の「社会認識」の柱を改訂する。

学習指導要領「社会科の目標」	文部科学省・澤井陽介教科調査官 「教材と社会認識の関係をとらえる」 (平成23年度夏季研)
○ 社会生活についての理解 ○ 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情 ○ 公民的資質の基礎 (小学校・中学校の各学校段階における社会科の特質を確認するとともに相互の関連を踏まえて指導に当たることが大切である。)	○ 社会的事象のつながりの認識 ○ 人間の生きる姿の認識 ○ 変化・発展の認識 ○ わたしたちの生活とのかかわりの認識 (社会生活を教材のもつ特性からみたものである)

② 社会認識の「視点」を設定する

社会認識の内容知・方法知から「社会認識の視点」を設定する。

社会科の目標	社会認識
	〈内容知(科学知・人間知)〉 社会生活についての理解 ① 人びとが相互に様々なかかわりをもって生活を営みながら自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献する。 視点1 社会生活の営みの認識 ◎ 私たちは、人や物との関わりの中で、くらし(生活)を営み、願いをかなえる努力をすること 我が国の国土と歴史についての理解と愛情 ② 知識基盤社会やグローバル化が進む時代の中で、国際社会に主体的に生き、持続可能な社会の実現を目指す 視点2 社会の変化に対応する認識 ◎ 社会の変化に目を向け、広い視野に立って自分の考えをもつ 我が国の国土と歴史についての理解と愛情 ③ 土地と生活のかかわりの変化にともなう時代の特色を風土の中に築いた先人の働きを見つめ、伝統や文化に愛情をもち、受け継いでいく 視点3 我が国の歴史に愛情をもつ認識 ◎ 先人の働きに人間としての生き方や在り方を求める 公民的な資質 ④ 平和で民主的な国家・社会の形成者として市民・国民にふさわしく国際社会に主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく 視点4 国際社会の一員として参画する認識 ◎ 国際社会の一員としての自覚をもち、社会事象のもつ意味を考える
	〈方法知〉(詳しくは、思考・表現、評価の項で述べる) 再構成の学習を「意欲」「思考操作」「評価」から組織し、主体的に学ぶ力を育成する。 再構成の学習を組織し、主体的な学習を進める中で、「思考と表現」「指導と評価」の統一を図り、言語活動の充実を目指す

③社会認識の視点と内容（試案）

視 点	事項(指導要領の内容から)	視点の内容
社会生活の営みの認識 ◎ 私たちは、人や物との関わりの中で、くらしを営み、願いをかなえる努力をすること	- 人々の健康で安全な生活を守るために、関係の諸機関が連携して政治が行われている - 地域では、人々にとって健康で安全な環境がある - 地域の人々の生活が、変化・発展しているため先人の働きがある - 地域社会に対する誇りと愛情をもつ	① 関係の諸機関が連携して、人々の健康で安全な生活を支えている ② 人々の生活が変化し発展する中で、人々の協力や先人の働きがある ③ 私たちは地域とかわり、誇りと愛情をもつことが大切である
社会の変化に対応する認識 ◎ 社会の変化に目を向け、広い視野に立って自分の考えをもつこと	- 身のまわりの生活は、地域・国土と環境とが互いに絡み合っている - 自分たちの生活は、他地域や外国とのかかわりをもちながら営まれており、人と物の流れを通して見るのが大切である - 地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える - 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について考える - 我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連、情報化の進展の意味について考える - 環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情をもつ - 持続可能な社会の実現を目指す	① 社会の変化とともに、郷土や国土のよさを生かしながら、人々は生産や消費などで多くの課題に立ち向かって努力している ② 人々はよりよい社会を築くよう、環境・情報・福祉・防災などの課題に協力・連携して取り組んでいる ③ 持続可能な社会を目指す取り組みを進めることが大切である ④ 社会事象は相互に関連しており、日常の動きに目を向け、その事象のもつ意味を考えるよう努める
我が国の歴史に愛情をもつ認識 ◎ 先人の働きに人間としての生き方や在り方を求めること	- 地域の人々の生活の変化や地域の発展は、先人の働きによるものであり、人々の願いでもある - 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産の理解を深める - 我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心をもつ	① 今の生活を支えているのが先人の働きであり、そこには人々の知恵や願いがある ② 郷土や国の発展に尽くした先人の業績や文化遺産を大切にし、受け継ぐ ③ 我が国の時代の特色をもとに歴史や伝統・文化に誇りをもつ
国際社会の一員として参画する認識 ◎ 国際社会の一員としての自覚をもち、社会事象のもつ意味を考えること	- 身の回りや地域の具体的な事例を調べ、感動したり、共感したりして、日本人としての自覚をもつ - 地域社会の一員として社会事象の意味をより広い視野から考え政治の働きに関心をもつ - 平和を願う日本人として世界の国々の人と共に生き、互いの文化を尊重し、国際社会における我が国の役割を自覚する - 公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力をもつ	① 人々は、社会の出来事に共感したり、感謝したり、課題をもったりして社会を発展させようと努力している ② 国際社会における我が国の役割の現状から地域社会の一員としての自覚をもつ ③ 平和を願う日本人として、世界の人々と共に生きることの大切さを自覚する ④ 公共的な事象に、自ら参画し、よりよい社会を形成しようとする

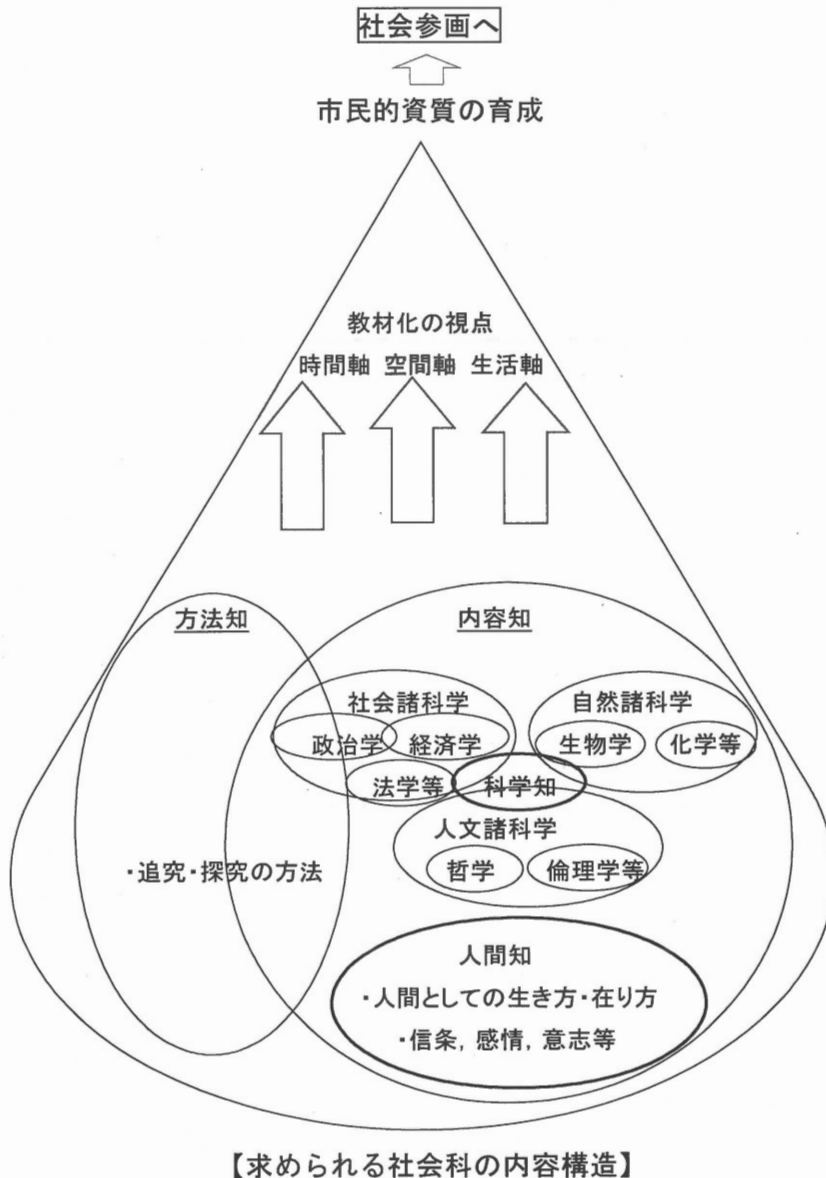
④ 社会認識の「視点」の内容（要点）を設定する

視点 1	視点 2	視点 3	視点 4
① 関係の諸機関が連携して、人々の健康で安全な生活を支えている ② 人々の生活が変化し発展する中で、人々の協力や先人の働きがある ③ 私たちは地域とかかわり、誇りと愛情をもつことが大切である	① 社会の変化とともに、郷土や国土のよさを生かしながら、人々は生産や消費などで多くの課題に立ち向かって努力している ② 人々はよりよい社会を築くよう、環境・情報・福祉・防災などの課題に協力・連携して取り組んでいる ③ 持続可能な社会を目指す取り組みを進めることが大切である ④ 社会事象は相互に関連しており、日常の動きに目を向け、その事象のもつ意味を考えるよう努める	① 今の生活を支えているのが先人の働きであり、そこには人々の知恵や願いがある ② 郷土や国の発展に尽くした先人の業績や文化遺産を大切に、受け継ぐ ③ 我が国の時代の特色をもとに歴史や伝統・文化に誇りをもつ	① 人々は、社会の出来事に共感したり、感謝したり、課題をもったりして社会を発展させようと努力している ② 国際社会における我が国の役割の現状から地域社会の一員としての自覚をもつ ③ 平和を願う日本人として、世界の人々と共に生きることの大切さを自覚する ④ 公共的な事象に、自ら参画し、よりよい社会を形成しようとする

(4) 社会認識の「内容知」の構造

社会認識の「視点」の内容を研究するには、下図に示した「内容知の構造」の研究を進めることが大切である。このことの詳しい内容は、研究図書P 39～P 43による。

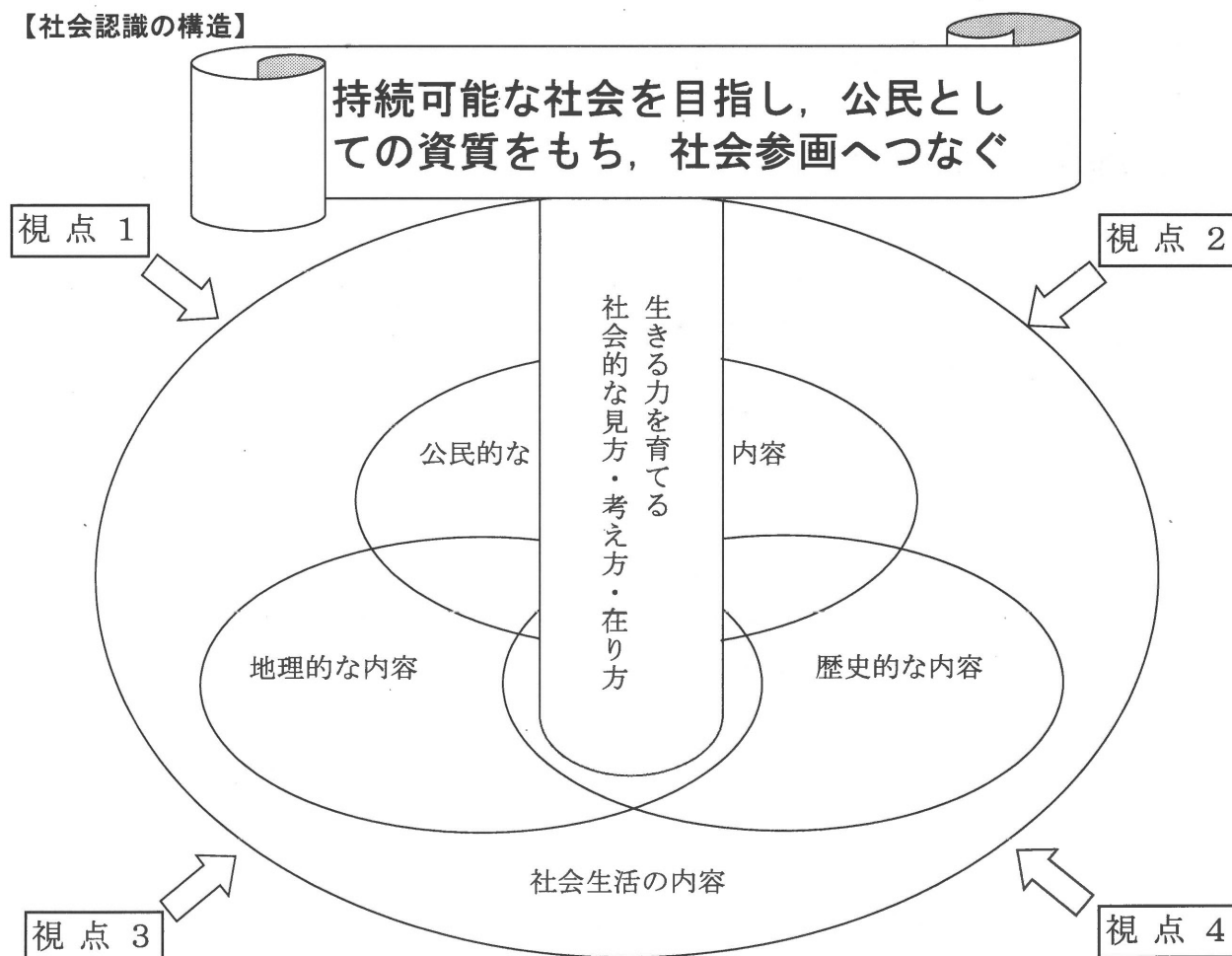
以上のような点をふまえ、香社研では、社会科における知の構造を次のようにとらえたい。



- ① この社会科の「知の構造」を基にして社会生活の課題解決に必要なと思われる情報を多様に選び出し、していくことから始めるところに社会的な見方を育てていく要因がある。与えられた情報で課題を解決していくことからの脱却が大切になる。(学習環境の形成、社会科カリキュラムの日常化)
- ② 多様に選び出した情報を「整理」し、「類別」することで、課題を明確にしつつ探究していく見通しをもつという社会的な見方を育てていく。(問題をもち、見通しをもつ段階)
- ③ 課題を明確にし、解決への見通しをもってさらなる調査・観察することを明らかにする社会的見方を育てる。(問題をもち、見通しをもつ段階、考えをまとめ、働く段階)
- (5) 「社会認識をひらく」内容を「社会的な見方」の育成に生かす

「社会認識をひらく」内容知は、「社会的な見方」を育てる具体的な認識として下図に示す地理的な内容、歴史的な内容、公民的な内容の学習として展開する。学習の特色を挙げておく。

【社会認識の構造】



①「地理的な内容」について

地理的な見方とは、地域や日本や世界に見られる諸事象を、位置や空間的な広がりや日々の生活とのかかわりで、地理的な事象として見だし、調べていく観点を見つけていくことである。そして、どこに、どのようなものが、どのように広がり、人々の生活とのかかわりをとらえて、見出し、興味と関心をもち、観察・調査したり、資料を収集したりして課題意識をもつことである。

②「歴史的な内容」の社会的な見方について

歴史的な見方とは、地域や我が国の文化の発展や人々の生活の向上に尽くした人物、文化遺産や出来事を、いつ、どこで、誰が、どうしたの視点をもって目を向け、風土的条件と文化や伝統的なかわりに社会的な見方を広げ、関心を高めることである。そして、私たちの生活のようすや生活に根ざした伝統や文化について、地域や我が国や外国の政治や社会の動向について、新聞やテレビの情報を得たり、図書館や歴史資料館などで資料を収集して調査。観察して社会的な見方を広げることである。

③「公民的な内容」の社会的な見方について

公民的な見方とは、社会生活の中で人間として値打ちのある生き方を、私たちのまわりで起こる社会事象のくらし、政治、経済、世界平和などに関することについて、日々の社会事象の変化を踏まえた様々な情報を収集しながら、適切に判断するよう、友達や親や地域に問いかけて、社会的な見方を確かめようとするものである。そして、身近な社会生活の中で、よりよい学校生活や社会生活を作るために、自分たちで何ができるか、何をしなければならないかといったことに課題意識をもつ社会的な見方ができることである。

2「社会的な考え表し方」(社会認識をひらく方法知)について

(1) 主体性を育む意欲づくり

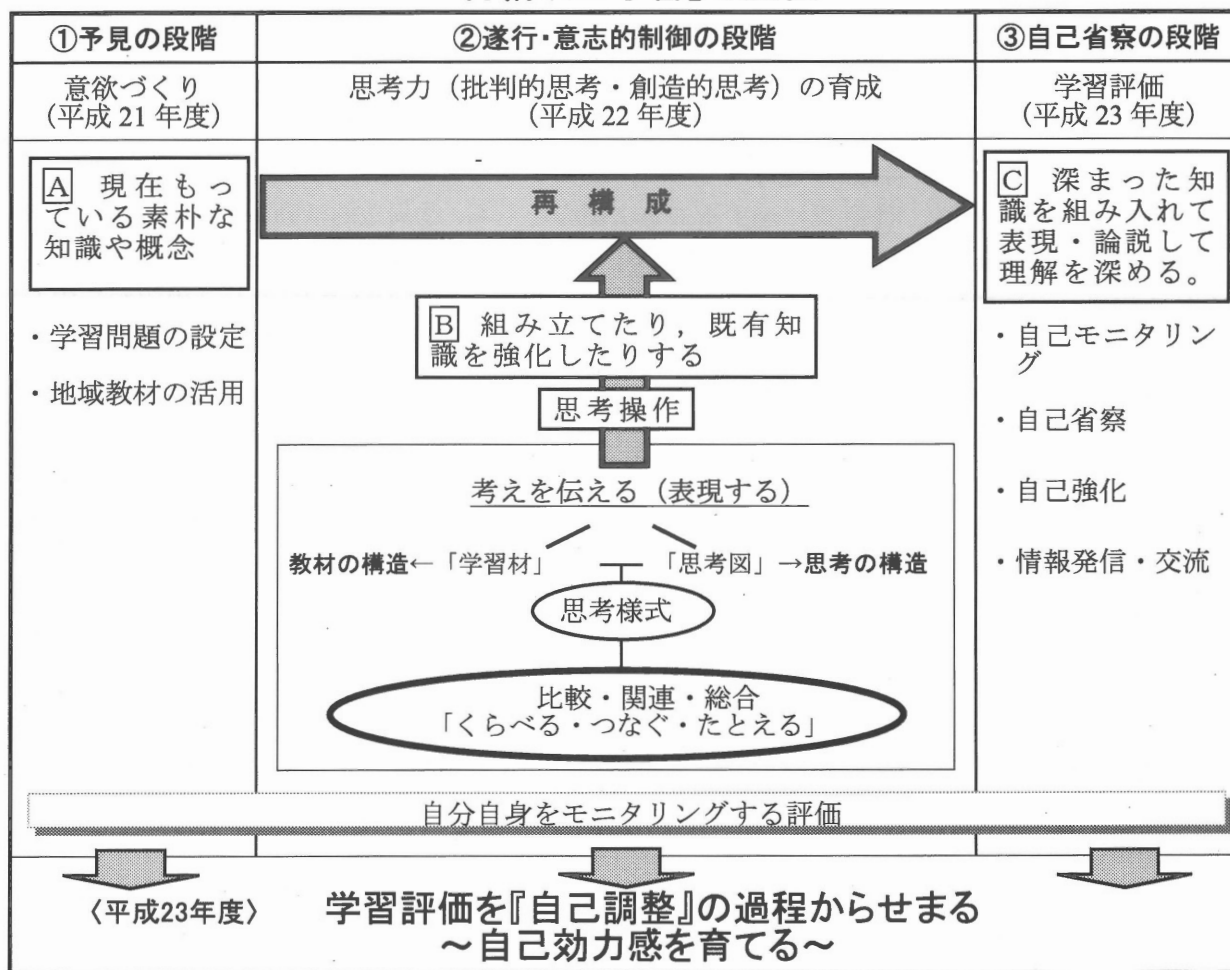
「学ぶ意欲」を高める考えを学習過程でとらえる

学ぶ意欲を高める学習の過程は、①問いをもつ、②問いを追求する、③問いを広げるといったそれぞれの段階に分けて考えることができる。

- ① 問いをもつ……子ども自らが生み出すことが大切、追求への意欲を育てることが中心
 - ② 問いを追求する……表現活動を中心に据え、学び方を援助、交流の場を工夫することが大切
 - ③ 問いを広げる……伸びを認める、社会の一員としての自覚、次の学習への出発点

(2) 思考と表現の一体化による再構成の学習

「再構成の学習」の過程



① 自己調整の過程としての「再構成の学習」

学習は、3つの段階をサイクル活動として展開する。3つの段階とは、「予見」「遂行・意思的制御」「自己省察」である。大まかに言えば、「予見」は学習場面を設定し、意欲的に取り組む計画を立てる

段階である。「遂行・意思的制御」は思考と表現の統一による再構成を図ることによって、思考力を育てる段階である。「自己省察」は、総括的な評価を入れた自己評価をする段階と言える。この3つのサイクルが自己調整の過程であり、このサイクルを通して「自己効力感」を育てていくことが重要となる。このことを視点にして、研究の概要を次の図のように考える。

予見の段階では、学習場面を設定し、取り組みの計画を立てる。自己効力感をもって目標設定、課題設定し、方略プランニングと合わせて計画するのである。遂行・意思的制御、自己省察の段階においては、自己モニタリングをしながら自己評価、自己強化をするという自己調整を図る学習を目指している。思考力は、図のように、**A**「現在もっている素朴な知識や概念」を、**B**「組み立てたり、既存知識を強化したり」して、**C**「深まった知識を組み入れて表現・論説して理解を深める」よう再構成することによって育てられる。すなわち、思考力は**A**から**C**に高めることによって育てられる。その高める過程の活動が、思考様式の活動であり、自分自身をモニタリングによって自己評価しながらの活動になる。

この思考様式による活動は、考えることと伝える・表現することと合わせて「考えを伝える(表現する)」活動である。

② 思考力の育成

ア 思考力の発達の筋道を意識する

子どもの思考力は、経験を通して得たもの、こと、人について思考を働かせて解釈し、説明する能力を獲得することで発達していく。その過程は、技術(できる・できそう)から科学(わかる・なす)への発展の過程といえる。技術(できる・できそう)は、もっぱら対象にあたって、興味と断片的な知識をもとに知ろうとし、それを利用しようとするに関心が向けられる。そこで、簡単に問題解決して目標に達すればそれで終わってしまい、その過程を説明することはない。科学(わかる・なす)は目標達成のために、対象にあたって知り、その取り組みの結果に終わらず、さらに深く解決過程を意識して説明していくことに特徴がある。

このように、思考の発達は、①目標に達することに関心をもち、②周辺の活動の段階から始まって、③具体的活動に意味を意識する段階を経て、最後に、④反省的思考にもとづいた論理によって意識的に行動する段階へとすすんでいく。これを、ピアジェは、思考の発達の筋道といい、「周辺から中心への発達」として、特徴づけている。社会科の授業においてもこのような思考の発達の筋道を意識しながら授業づくりを行っていく必要がある。

イ 思考力をいかに育てるか

思考力を育てるとは、物事を構造的に把握する態度を育てることである。構造的な把握を行うために、種類や用途、場所、時間経過などで分析したり、類別したり、関係づけたり、条件を変えたりしながら、思考そのものが特色としてまとまっていなければならない。思考力を育てることは、知識を構造化している過程としてとらえることが大切である。

思考力は、従来は、ただ、感受性、記憶、言語、数、推理などばらばらな能力のよせ集めとして、取り扱われてきた。そのため、これら個々の能力を別々に訓練することによって、思考力を発達させることができるものとしていた。だが、断片的な能力の訓練では、たとえ知識として覚えたり、技能として習熟できたものであっても、それだけで、思考力が育つことにはならない。

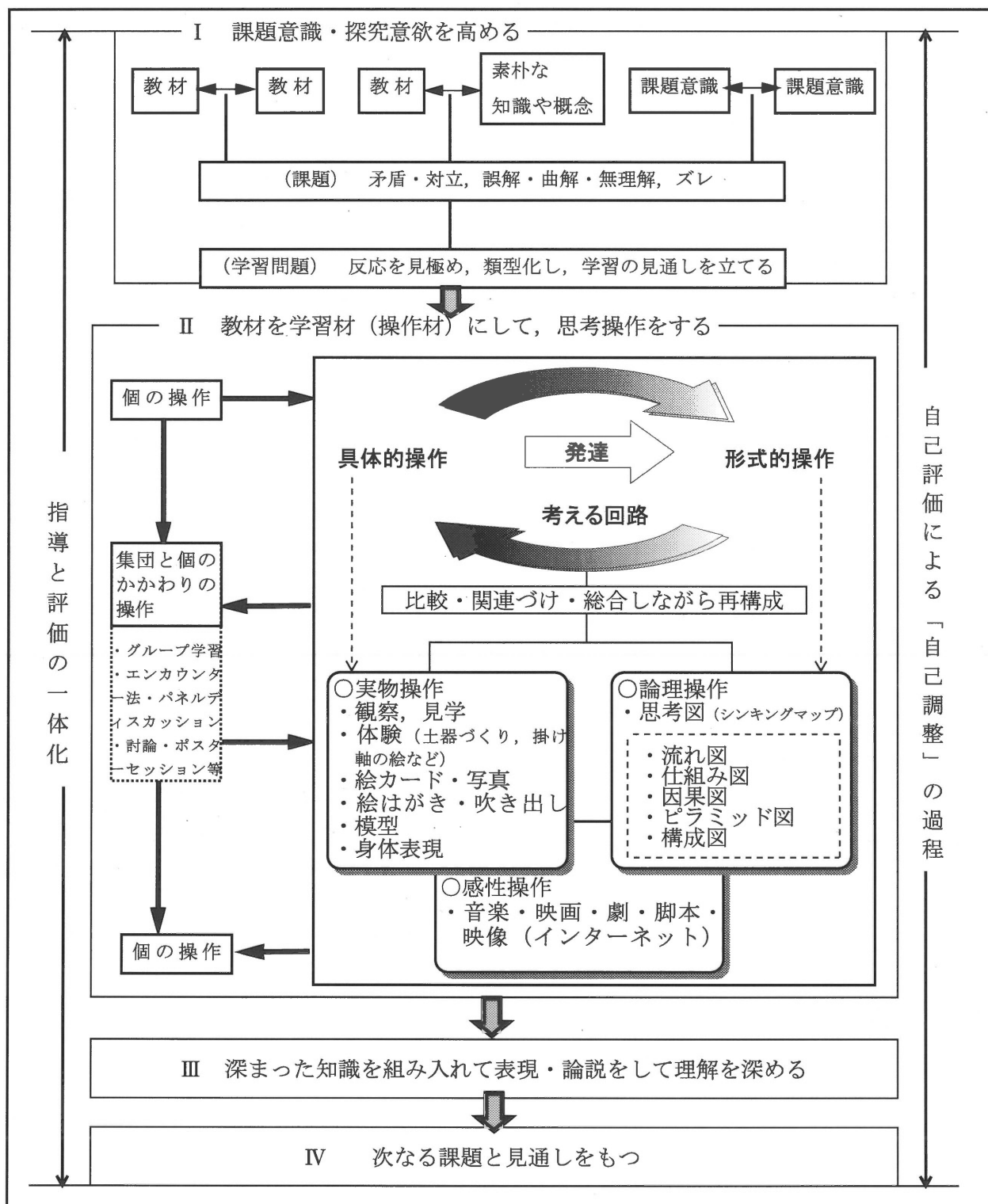
確かに、読み、書き、計算の技能は、思考力の発達の重要な道具である。しかし、その技能自体が、思考力の発達の原動力ではない。例えば、ことばが読めることと、ことばの意味を理解することとは違う。読みの技能は、習熟だけで獲得できるが、意味の理解は論理的思考の構造を前提とする。そして、この思考の構造は、子どものそれまでの成熟、経験、知識、技能などが組織的に統合されている全体なのであり、子どもの思考構造とのかかわりの中で、学習により、生きて働く思考力になるのである。

つまり、思考力を育てるために大切なのは、正しい知識の理解に当って、過ちやつまずき、意識のずれを自分で発見して、それを修正していく過程である。この自己評価を伴う活動は、思考の構造の中に確実に組み込んで、より正しく深い理解を進めていくことになる。これは「思考力の内面化」と

呼ばれている。

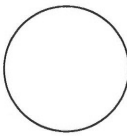
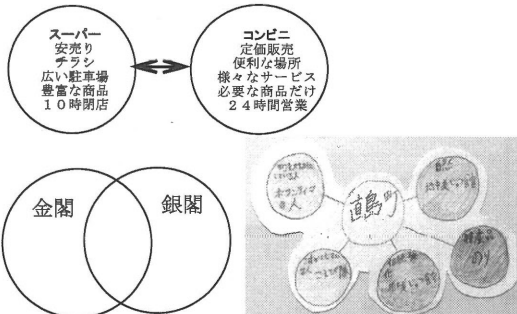
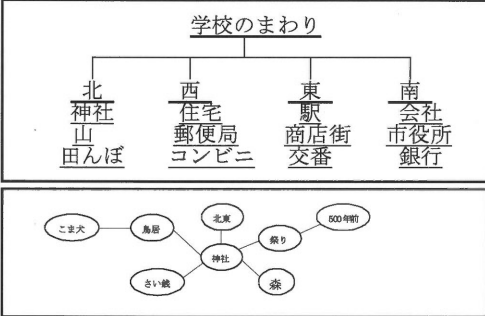
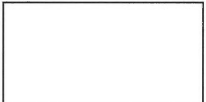
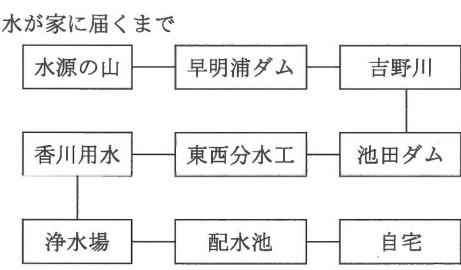
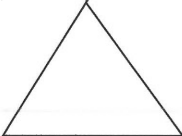
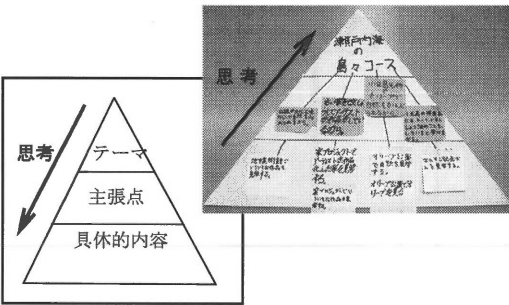
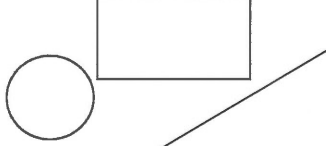
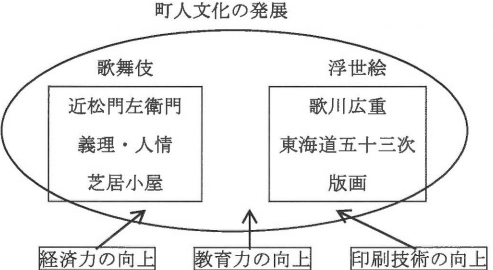
思考の質的な発達を促すためには、活動がある点でせき止められるような状況に立たせることが必要である。このせき止められる状況は、社会的事象の矛盾や対立の場面であり、課題や学習問題の設定などの学習活動に生かしていくことで、学習に意欲的に取り組むようになり、飛躍的な発展にもつながってくる。

〈子どもの思考の過程〉



そこで、学習材の開発に合わせて、「思考の構造」(子どもが思考する道筋)を明らかにすることに一昨年度取り組んできた。その中心としたのが、「思考図」(シンキングマップ)の活用である。このことによって、「思考と表現」の一体化による言語活動の充実を図りたい。

〈思考図(シンキングマップ)の5つの型〉

	名称	思考の様相	例
①	サークルマップ 丸 	分析する 比較する 仲間分けをする 自分の考えをふくらませる	
②	ツリーマップ 線 	考えを整理する 自分の考えをふくらませる 発想を広げる	
③	フローマップ 四角 	順序性を明らかにする 原因と結果をつなぐ	
④	ピラミッドマップ 三角 	自分の考えを積み上げていく 考えを概念化する 主張点を具体で述べる	
⑤	コンストラクションマップ 丸, 四角, 線等の 構成・組み合わせ 	いくつかの考えを 構造化し, 整理する	

3 「社会的な在り方」と「社会参画につなぐ」について

(1) 「社会的な在り方」は「人間的な在り方」を深める

社会科の究極的なねらいである。公民的資質の基礎を養うとは、社会生活の内容を通して、地理的な内容、歴史的な内容、公民的な内容について学び、日本人としての自覚をもち持続可能な社会の実現を目指して国際社会に主体的に生きるよりよい社会の形成者として「個が実社会の中で参画への見通しをもつ」社会的な在り方を育てることである。このように教科としての社会科が果たす「公民的資質の基礎を養う」ことを、社会科の内容認識にとどまらず、実社会とかかわり、探究しようとするものである。

そこで、どうしても教育活動全体で行う道徳教育でいう「人間的な在り方」のかかわりを述べておくことが必要であると考え。道徳教育の指導内容は、子どもの自立心や自律性、生命を尊重する心の心の育成を重点にするとともに、基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画の意欲や態度、伝統や文化を尊重する態度を育成することにある。このような内容をもつ道徳教育は、人間として自らの人生をどう生きるかを一人一人に問いかける（「人間的な在り方」を求める個の確立）なのである。これは、常に前向きな姿勢で未来に夢と希望をもち、自主的に考え、自律的に判断し、決断し、決断したことは積極的にしかも誠実に実行し、その結果について責任をとることができる人間である。このように、人間的な在り方は、学校の教育活動全体で行う道徳教育が社会とかかわりながら個の確立を求める中で、「社会的な在り方」は個が社会での役割を求めるものであり、「社会的な在り方」は、「人間的な在り方」の追究を深めていくものといえる。

(2) 「社会参画」への意識の高まり

「社会参画」につなぐ意識を高めようとする要因としては、経済成長の過程で失われた大家族や地域コミュニティがある。そして、その後の近年の経済社会の急激な変化に伴う人口減少、高齢化社会の到来により、地域の活力が薄れ、住民が生きがいを求めることが弱くなり、都市も農漁村も地域コミュニティが崩壊状態になってきたことが挙げられる。

これらの状況から「社会参画」への意識が生まれた。住民たちの意識の変化や地域活性化の願いから社会貢献の活動への参加意識が高まり、自らがよりよく生きるための地域の生活者として、環境づくりに参加・実践してはとする「社会参画」への意識が高まってきた。

(3) 「社会参画」の意義

平成18年に、59年ぶりに教育基本法が改正され、教育の目標に「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」が新たに盛り込まれた。それを受けて、平成19年の学校教育法の改正により、義務教育の目標にも同様なことが規定された。

「社会参画」という言葉が一人歩きをしている感があるが、その前提としての「公共の精神」がまず大切にされなければならない。「公共の精神」とは、社会全体の利益のために尽くす精神、まさに国や社会の問題を自分自身の問題として考え、社会のほかの人々と一緒に協力し合いながら社会を形成していく精神のことを指す。これまでの日本人は、ややもすると国や国家はだれかがつくってくれるものという意識が強かったのではないだろうか。これからは、国や社会の問題を自分自身の問題として考え、そのために積極的に行動していくことが大切である。一人一人が「自分なんだ」という自覚をもつこと、それがいわゆる社会参画である。

つまり、社会参画という前に公共の精神や公正な判断力、あるいは社会に向ける関心などを教育活動全体で育むことが大切である。社会参画はその先にあるものである。社会参画も必ずしもゴールではなく、学習経験と考える必要がある。

(4) 「社会参画」につなぐことについて

「社会的な在り方」は、よりよい社会を目指すことにある。私たちがよりよい社会を目指し、築いていくためには、社会生活の内容を基礎とした地理的な内容・歴史的な内容・公民的な内容の見方や考え表し方の学びを「持続可能な社会」の実現を目指した観点から、実社会の生活においての社会的な自分たちの在り方を「社会参画」、すなわち社会の中で「働く」ことにつないでいくことによって達成し得るものである。そして、そのつなぎは、実社会で働くことの考えをもつことであったり、実社会に生かして働くことであったりする。

その「社会参画」につなぐ内容としては、社会生活の中で、地理的な内容としては地域の調査・観察の中で人・もの・こととのかかわりから、歴史的な内容としては人物・伝統や文化などとのかかわりから、公民的な内容としては、災害、福祉、環境、エネルギー、平和のことなどから具体的なつながりがあげられよう。

ここに、社会科の認識論は社会に参画・実践論を加えることの重要性があると考えている。社会参画への意欲や態度の育成にあたっては、次の3つの視点が大切である。

① 社会的事象の確かな理解

よりよい社会を目指して取り組む人々を「参画するモデル」として取り上げる。実社会に生きる人々がどんな目的で、どんな願いをもって、どんな働きをしたのかなど、社会的事象の意味を理解することが大切である。

② 思考力・判断力・表現力

社会は、様々な働きが相互に関係し合って、課題を解決してきている。そのため、多面的に考える、人ごとではなく「将来にわたって」自分の関わり方を考えるバランス感覚をもって判断する、意見交換ができるといった能力を育む必要がある。

③ 社会的な見方や考え方

社会的事象の意味をとらえる見方、考え表し方、在り方を養うことによって、自分の社会に対する働きかけの在り方について見つめ直し、自分の在り方について考えることができる。協働への糸口を見つけ、かかわろうとする。

授業の中で「あなたにできることは」と拙速に答えを求めるのではなく、事実をしっかりと確かめ、自分たちのできることの効果や実現性を吟味し合う学習が、社会参画への意欲や態度の形成につながっていくのである。

(5) 「社会参画」へつなぐ対策

社会的な在り方を社会科学習で学び、それを「社会参画」につなぐことが、社会参画への意識の高まりとともに求められている。社会科学習では、これまで述べてきたように社会参画の活動そのものを含むものではないが、社会参画へのきっかけとなるよう「社会参画」につなぐことは重要なことである。ここでは、「社会参画」へつなぐ場となる対策を述べておく。

まず、「社会参画へつなぐ」きっかけとなる場の具体的な事例を2つ挙げておきたい。

① 各地で伝わる祭りは、地域の寺社を核に住民の手によって受け継がれており、地域住民にとっては季節の大きな楽しみであり、地域の芸能・芸術・食などの文化が融合した、いわゆる地域文化の宝である。祭りへの参加は、自らの文化を守り、継承することへの参画がある。このような事例からは、「社会参画」につなぐ活動を生むきっかけが考えられる。

② 近年、各地の道路沿いに「道の駅」が整備され、周辺の農家の人たちが、自分たちで育てた農産物を共同で置いている。そこには、地域の人、近隣の人、観光客等の人たちによるにぎわいがあり、参画する姿がある。このような事例についても「社会参画」につなぐきっかけとなる活動が存在する。

以上2つの事例を具体的に述べたが、このような事例以外にも次のような「きっかけ」となる事例

が考えられる。今後の実践の中での取り組みが望まれるところである。

□ 行政の機能へのきっかけとして

- 一人暮らしのお年寄りの世話 ●子どもの地域での育成
- 河川、河川敷、道路、公園の清掃や除草

□ 公共の機能へのきっかけとして

- 伝統文化の継承 ●古民家、町並みの保存 ●ごみの収集 ●地産地消の推進
- 地域の特産品の発掘・調査・販売 ●住民の安心・安全 ●自然環境の保全
- 地域の祭り・行事 など

IV 「教科書活用による社会科授業の日常化」のために

～地域の特色をもつ「社会認識をひらき教材とつなぐ」指導計画づくりによる～

「教科書活用」は、教科書の記述内容の順序に従っての活用ではない。社会認識をひらく内容と教材をつなぎ単元の学習として認識する中で教科書が活用できる。社会認識をひらく内容が教材とつながり、具体性を伴うより確かな認識をした内容としてとらえられる。この教材は、教科書だけでなく、特に「地域教材」が重要となる。全国共通の社会認識の内容としてではなく、「地域の特色をもった認識」としたいのである。このような指導計画を作成することは、社会認識をひらくことと教材をつなぐことが成立しているかどうか見極めつつ「指導と評価の一体化」の学習が要件となる。

そこで、まず、「指導と評価の一体化」についての考えを述べ、次に「地域の特色をもった認識」の指導計画の作成にふれたい。

1 「指導と評価の一体化」による社会科授業の日常化

(1) 思考力を育てる評価の在り方

① 求める評価観

学習評価は、学校における教育活動に関し、子どもたちの学習状況を評価するものである。学習評価には、目標に準拠した評価（観点別学習状況の評価と総括的にとらえる評価）、相対的評価、個人内評価がある。このうち目標に準拠した評価のうち「**形成的評価における学習評価**」を研究することとする。とりわけ、子どもが思考と表現の一体化による活動を展開する構成主義的学習観に立ち、「再構成の学習」を図る中で、この評価の研究を進めていく。

子どもたちが、知識や技能を学び、受容していくことだけでなく、子ども自らの課題に基づき、知識を再構成し、生きて働く知識や技能として学んでいくことが求められている。教師の指導の結果を評価する学習評価ではなく、評価基準に基づく形成的な評価と子ども自身が自分の学びや成長を自己評価することとを一体化することが、構成主義的学習観に立つ評価なのである。

また、「つまずきをなくす」ことが目的の学習評価ではなく、「つまずきを教師と子どもが共に生かす学習」を目指したい。そこでは、つまずきを教師と共に子どもたちが協働して自覚的に克服しようと活動する姿がある。そこに、子どもたちは、自分の進歩、考えの変わったこと、自分で何ができるようになったか、まだまだできないことは何かなどを自己評価するのである。

このような評価観に立つ学習評価を進める上で有効な「評価方法」として、次の2つを挙げたい。

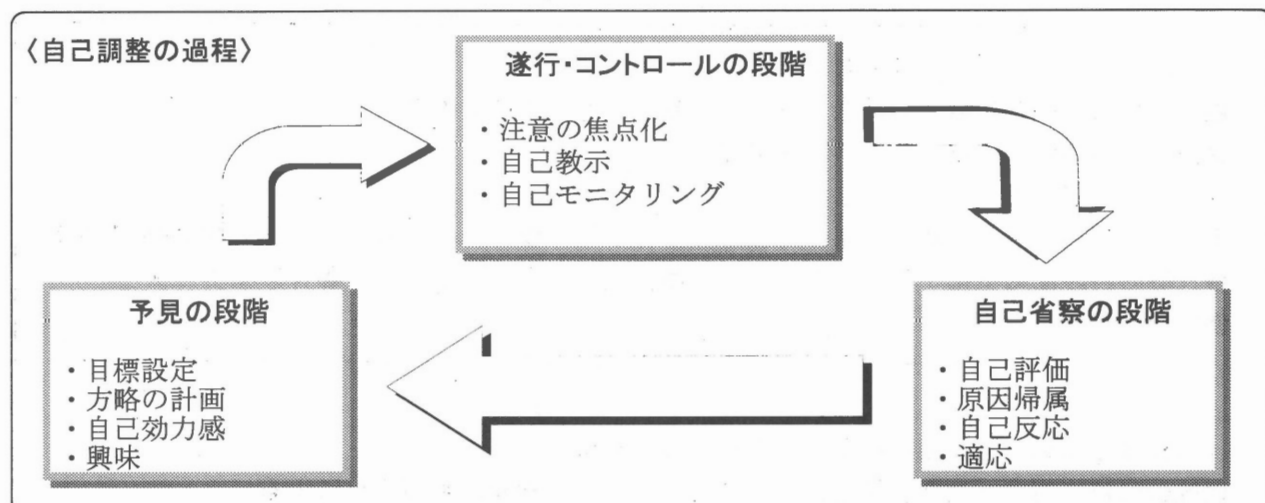
① パフォーマンス評価法

パフォーマンス評価法とは、目標として知識・技能を活用する力を位置付け、パフォーマンス課題とループリックを用いて評価する方法である。

② ポートフォリオ評価法

ポートフォリオ評価法とは、子どもの学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したファイル等を保存・活用して、子どもの学習状況を評価する方法である。

② 学習評価を「自己調整」の過程でとらえる



「再構成の学習」は、学習を認知や情動といった個人的な過程だけでなく、人、環境、行動が相互に関係し合って展開するとしている。このように、学習を認知や情動の過程としてとらえることの上に、人と人とのかかわりや学校・家庭・地域、教育情報資料などの環境や体験、奉仕活動、社会参画活動などの行動の過程としてとらえる学習を構想している。

そして、このことを学習評価の研究にあててみると、評価は学習過程における「自己調整」を図る過程としてとらえることができる。すなわち、結果主義の評価ではなく、学習の過程における「過程主義」に立つ評価であり、このことを自己効力感を高める「自己調整」の過程としてとらえたい。

自己効力感とは、一定レベルの行動を遂行したり、獲得したりする能力に関する信念である。それは、人がある事態に対処する際、それをどの程度効果的に処理できると考えているかという認知を重視し、一定の結果へ導く行動を自らやれるという期待を抱く自覚を生じる自信のようなものをさす。

さて、この「自己調整」についてであるが、「自己調整」とは、目標到達を目指し、思考や感情、方略行動を自らが引き起こし、自己の内面を組織的、計画的に機能させていくことを指している。そして、自己調整は、図に示すとおり、「予見の段階」「遂行・コントロールの段階」「自己省察の段階」の3段階の循環的プロセスにより行われる。

③ 自己評価で大切にしたいこと

- 認知面と情意面が一体となった自己評価が効果的である。
- 自己の語り、日記、ポートフォリオなどが動的資質を繰り返し入れた自己内省の練習に役立つ。
また、ふり返りシートも役立つ。
- 自己評価には、認知的自己評価と情意的自己評価があり、子どもが自ら知識や技能を身に付けたり、獲得した知識や技能を積極的に生かすには、「関心・意欲・態度」のような情意面が基盤として育つことが大切である。
- 自己評価は、自分自身の学習過程について意識化し自己強化することを促し、自己調整を図っていく。

④ 「自己調整」の過程を社会科ノートに

ア 授業改善の視点

現在、学力は、知識や技能にとどまらず学習意欲、思考力、判断力、表現力等を含むものという考え方をし、その育成を重視した授業づくりが重視されている。

そのためには、次のような視点からの授業改善を行っていきたい。

- 通知表や指導要録の評定のためにだけあるのではなく、授業の中での形成的評価として機能させるまた、評価は知識・技能といった見える学力だけでなく、思考力等見えにくい学力も評価対象にできるような評価方法を開発する。
- 学習内容だけの評価ではなく、学び方(学習方法)についても評価を考えていく。

イ 「見える学力」の評価

「内容知」における「見える学力」とは、主に都道府県名、主な山地、河川等の名称、歴史的事象等の社会的事象についての知識・理解といった学んだ結果身に付いた知識であり、これはペーパーテスト等で測りやすい。このような基礎・基本の事項の理解の上に立つてこそ、その教科ならではの思考が可能になることは明白である。

ウ 「育てたい力(見えにくい学力)」の評価

その一方「育てたい力」としては、その子ならではの「基礎・基本の内容」が挙げられる。これは、その子の学習過程での発言や表現物から、その子の思考の流れを読み取り確実に「定着」しているかどうかを見取るわけであるから、テスト等では簡単には測れないものであろう。

また「方法知(学習力)」については、まさに「育てたい力」である。

学習力には、論述力、討論力、論理的思考力、問題を追究したり解決したりする力などがあるが、それ自体、数値化が難しい。これらの力は、ポートフォリオやグループエンカウンター、ポスターセッション等を体験していく過程で、しかも教師の適切な指導のもとに身に付いていく力でもある。

社会科授業では、自ら主体的に調べ、調べたことを効果的に表現し、表現と思考の連続によって社会的事象の本質について考え、深めていく力を育てていくことを大切にしたい。そのためにも、「見えにくい学力」の評価の評価法として、「ポートフォリオ評価法」や「パフォーマンス評価法」があるが、ここでは、授業評価として、パフォーマンス評価法を取り上げたい。

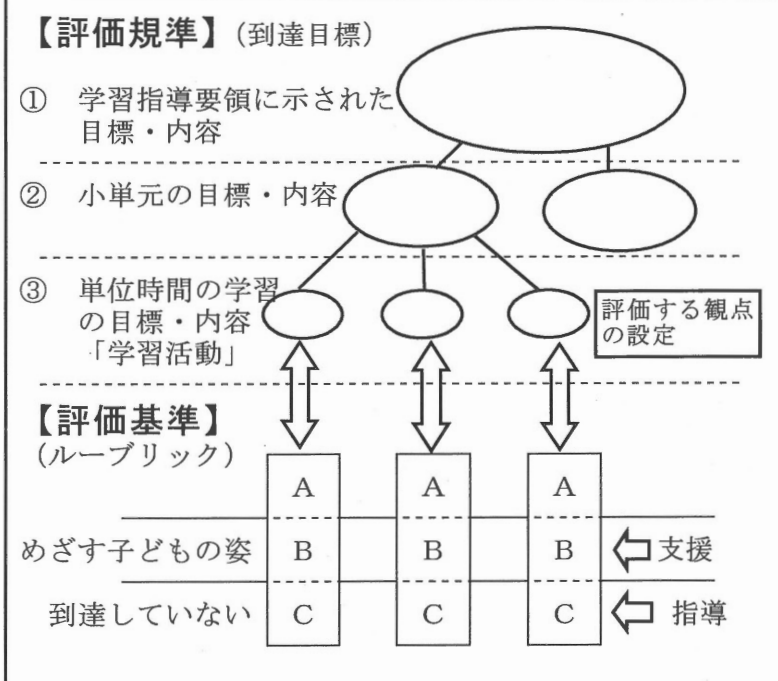
パフォーマンス評価は、パフォーマンス課題に基づく子どもの思考や技能を実際の授業場面で子どもが発揮することを捉えて評価するものである。例えば、小論、レポート、絵や図表、思考図、討論、演技、表現物としての作品などを評価する。ここで課題は、パフォーマンス課題である。

パフォーマンス課題は、小単元の学習の見通しがもてる内容と思考・表現を描くことのできる課題でなければならない。単なる学習問題、学習課題では、このことの研究は深く追究できない。それと同時に、「指導」と「評価」の統一で示された評価基準の設定による評価は、具体的には、ルーブリック(評価基準)が大切になってくる。

ルーブリックとは、パフォーマンス課題に対する子どもたちの認識の質的な転換点に基準を合わせて評価の指標を段階的に設定する試みである。ルーブリックの研究実践を積んでいくことにより、より精度の高いルーブリックが作成され、到達目標の明確化による確かな学力の形成がなされるのではないかと考え、今後ルーブリックの開発を行っていきたいと考える。

⑤ 学習活動と評価基準(ルーブリック)

また、必要に応じて単元の中での学習活動に即した評価基準を設定するとともに、それらを授業場面の中で、どのような評価方法により評価するのか



を具体的に示すことが必要になってくる。特に、思考力・判断力・表現力の評価については、できる・できないというようなドメイン的な評価では、子どもの見取りはできず、それに対する指導も難しい。

この時に必要になってくるのが評価基準（ルーブリック）である。子どもの思考の様相を予想し、それに対する指導を用意しておくことにより、結果としての評価ではなく、授業場面で子どもへの支援・指導を行い、意図的に思考力・判断力・表現力を伸ばすことができる。つまり、形成的な評価であり、過程としての評価である。

⑥ 社会科ノートを生かした自己評価

自己調整を図っていくためには、自己評価を単元を通して行っていく必要がある。子どもたちが日常的に使っているノートで自己評価ができるよう、次の頁の図のような評価カードの開発を昨年度より行ってきたが、今年度も継続していきたいと考えている。特に、本研究主題では、子どもが自ら主体的に学ぶ姿を大切に考えている。そのためには、自己調整しながら学習していくことが何よりも大切であるとこれまで述べてきたが、その学びを支える活動の一つが、この自己評価であり、今後も大切にしていきたい。

自己評価で「自己調整」を図る（高学年用）

（例）

自己調整の過程	わたしの「すてき」カード			よくできた ◎	だいたいできた ○	もっとがんばる △
予見の段階	①目標設定	学習のめあてをもてた				
	②方略の計画	問題を解決する仕方の見通しをもてた				
	③興味	楽しく喜びをもって取り組めた				
	④自己効力感	自分のもっている力でやってのけられた				
	※各校でのめあて・観点					
	※コメント記入欄					
遂行・コントロールの段階	①注意の焦点化	めあてに向かって集中できた				
	②自己教示	自分でよい資料を選ぶことができた				
	③自己モニタリング	自分の思いや考え方をノートに表せた				
	④自己効力感	自分で考えたことがうまく進んでいる				
自己省察の段階	①自己評価	自分の考えを表し、主張できた				
	②協働	仲間とのかかわりが深まった				
	③創意	自分らしい課題を見つけ、調べられた				
	④自己効力感	まとめたことに満足できた				

2 「単元構成」による指導と評価の一体化

(1) 単元の指導計画と評価計画の一体化 一教科書教材の活用一

評価基準については、平成22年5月に文部科学省から「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」が出され、それを受けて、平成22年11月に国立教育政策研究所より評価基準の作成のための参考資料が示された。さらに、平成23年3月には、評価方法等の工夫改善のための参考資料が示され、具体的な事例を通して、どのように評価していけばよいのかという具体例も示された。

それらを受け、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を單元ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落とししていないかを確認するだけでなく、必要以上に評価機会を設けることで評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。

具体的な手順としては、従来作成してきた指導計画の中に評価計画を位置付けるようにする。どの時期に、どのような方法で見取っていくかということも明示する。また、パフォーマンス課題を明確に位置付けることによって、どのような道筋で思考と表現の一体化を図り、どのような思考力を育てていこうとしているのかをはっきりとさせる。それにより、教師がどのように指導していけばよいのかもはっきりとしてくる。

(2) 地域の特徴をもつ「社会認識をひらき教材とつなぐ」指導計画作成による社会科授業の日常化

研究主題「社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習」の理論的な研究を踏まえ、社会科授業を日常化するように実践するには、具体的な授業の姿が分かり、実践意欲を持つことができる指導計画の作成が急がれるところである。指導計画の具体的な姿としての作成については、本提案の最初に述べたが、ここで再度「指導計画」の全容を示しておく。

- ① 「内容・教材の構造」
 - ② 「目標」と「評価規準」
 - ③ 「単元構成」
 - ④ 「学習の構造」
 - ⑤ 「本時の学習指導」

└─ 「単元観」をもつ

V 今後の研究の方策

1 これまでの研究の成果(平成20～23年度)を踏まえた研究内容とする。

(1) 平成20年度

- 研究図書「社会科ノート」による思考力の育成
 - 研究誌 「社会認識の系統からみた社会科新単元構想」
 - 四国大会主題「社会科をひらき実社会に生きて働く教育の創造」
～内容知と方法知を探究するカリキュラムによる～

(2) 平成21～23年度「社会科ノート」による思考力の育成

- 平成21年度 学ぶ意欲を高める学習の工夫

平成22年度 学習材の開発による個に応じた学習と集団と個のかかわり

平成23年度 学習評価を「自己調整」の過程からせまる

2 新研究主題による研究

(1) 夏季研修会・支部研修会・定例研修会などによる

(2) 郡市研究会・研究主題による

3 研究成果の刊行

(1) 平成24年度～27年度にかけて

社会科基底単元による年間指導計画の冊子作成 ～実践編を入れて～

(2) 研究成果の刊行～全国大会に向けて～

研究図書を刊行

[参考文献]

- 「授業改革と学力評価」 北尾 倫彦 図書文化社 2008 年
- 「子どもの思考力」 滝沢 武久 岩波書店 1984 年
- 「考える・まとめる・表現する」 大庭・コティ・さち子 NTT出版 2009 年
- 「学ぶ意欲の心理学」 市川 伸一 PHP新書 2001 年
- 「学習心理学」 辰野 千寿 教育出版 1994 年
- 「社会科ノート」による思考力の育成 香社研 東洋館出版社 2008 年
- 「社会認識の系統からみた社会科新単元構成(試案)」 香社研 2008 年
- 「自己調整学習の理論」 バリー・J・ジーマーマン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳
北大路書房 2006 年
- 「自己調整学習の実践」 バリー・J・ジーマーマン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳
北大路書房 2007 年
- 「自己調整学習と動機づけ」 バリー・J・ジーマーマン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳
北大路書房 2009 年
- 「自己調整学習の成立過程」 伊藤 崇達 北大路書房 2009 年
- 「小学校学習指導要領解説 社会編」 文部科学省 2008 年
- 「社会認識教育の構造改革」 社会認識教育学会編 明治図書 2006 年
- 初等教育資料 3月号 「社会参画への意欲や態度を形成する教育の推進」 2012 年
- 「新しい公共を担う人びと」 奥野 信宏 栗田 卓也 岩波書店 2010 年 など

本年度総括 さぬき・東かがわ社研

報告者

東かがわ市立三本松小学校

白澤 一修

思考力の育成をめざした学習プランの開発 ～教科書・副教材の活用による社会科学習の日常化～

研究主題

1 研究主題について

本部会は、「思考力・判断力・表現力の育成」という観点から社会科学習を見直す。特に、公民的資質の基礎を養うために日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、よりよい社会の形成に参画による資質や能力の基礎を養うことを柱にしながら社会事象を課題意識をもって多面的にとらえ、分析・整理・総合して問題解決する力を育成する学習プランの作成をめざした。

サブテーマを「教科書・副教材の活用による社会科学習の日常化」としたのは、教科書・副教材の分析により基礎的基本的な事項と内容の確実な習得。さらに教科書・副教材を活用して社会的な見方や考えの技能を身に付けさせるための社会科学習を日常的に行うというねらいがあるからである。

〈本年度の具体的な研究内容〉

- (1) 教材開発について（教科書・副教材活用）
- (2) 資料活用と児童の表現活動の関わり（社会参画の意識・思考が見えるノート作り等）
- (3) 言語活動について

2 研究の実践

- (1) 第1回研究会 6月15日 会場 東かがわ市立本町小学校

① 研究授業 6年 単元名 武士の世の中へ

授業者 かがわ市立本町小学校 教諭 松村 和仁

本時の主張点

ア 教科書の読み取りの効率化

教科書を主体的に読み取る手立てとして、キーワードを各自で抽出する活動を取り入れてきた。ノートにまとめることを考慮して、基礎的な事項、内容を絞るように指導を繰り返してきた。

イ 思考が見えるノート作り

自分の考えを書く部分を明確にしたノート作りに取り組んでいる。具体的には付箋紙を活用して自分の考えを書くようにしている。本時では吹き出しに人物の台詞を書き入れてノート作りに生かした。

ウ 言語活動

4 コマ漫画の台詞を考える活動を取り入れた。教科書や資料集をもとにして、根拠のある台詞を考えさせたことで思考力を高めることにつながったと思われる。

② 研究討議

- ア 社会科は資料活用の工夫や魅力的な授業展開が必要。それを日常的に行う方法にノート作りがある。
- イ 間接体験や資料をふまえて授業を構成することがあり、本時は資料の活用の仕方がポイントであった。
- ウ 表現と思考を一体化させるためには工夫された発問が重要である。
- エ 本時には、児童の豊かな発想があった。日常での発問が生かされている。
- オ 統計資料と本時のめあてを関連づけて、知識や概念の再構成を行う能力の育成が大切である。
- カ 表現力はいつ育てるのか。授業の中で育てることが大切である。
- キ 評価は学習内容に則したものであり、キーワードと関連づけられていたら◎と基準を設ける。

③ 指導 さぬき市立松尾小学校 校長 廣瀬 強

ア 学習の対象は何か。地域・我が国・社会など広い視野から全体を捉えることが大切である。

イ どうして教科書が必要なのか。

- (ア) 若年の教員の増加。何を教えなければならないかを明確にするための教科書分析は重要。
- (イ) 経験のある教員が若年にうまく引き継ぎために活用するもの。
- (ウ) 学習状況調査での思考力・判断力・表現力を向上させるために教材開発が必要。

ウ 本時の授業では

- (ア) 劇化により、導入時に疑問を持たせることができていた。
- (イ) 思考と表現の一体化の効果として、台詞を考えることは歴史を身近に感じることができた。
- (ウ) 留意点としては4コマ漫画でどこを表現させるのか。同じ場面で、違う場面でどのように比較するのか課題がある。できるだけ、自分の生活経験と時代背景を合わせて考えられるようにしたい。

(2) 第2回研究会 7月25日 会場 さぬき市立松尾小学校

香小研社会科部会夏季研修会での提案検討会。

① 演習 単元名 「第6学年 武士の世の中」

提案者 丹生小 教諭 柴田 奈緒 本町小 教諭 松村 和仁 中央小 教諭 増田 奈々
引田小 教諭 原井 和彦 志度小 教諭 藤澤 大地

② 内 容

教材の構造作りとして教科書の分析を行い、単元構成の段階で地域教材が可能かどうかをグループで検討した。その後、グループ毎に作成状況を発表し合い、共通理解を行った。

(3) 第3回研究会 11月8日 会場 さぬき市立志度小学校

① 研究授業 4年 単元名 「わたしたちの県」

授業者 さぬき市立志度小学校 教諭 藤澤 大地

本時の主張点

ア 教科書活用について

教科書で出てきた地域の地図や資料をもとにして調べ方を学ぶことで、それを香川県の地図や資料を調べる際に生かせるようにしている。その際、教科書に出てくる重要語句が、どの地域のことを調べる時も使える大切なものであることを意識させてきた。

イ 学んだことが次に生かせるノート作り

調べたことをまとめた資料や白地図を、単元を通して活用できるノート作りに取り組んできた。授業中に資料の振り返りや本時の資料と比較する活動を取り入れてきた。

ウ 言語活動

教科書の話し合いの話型などをもとにして、調べたことを表現することに取り組んできた。具体的には「県の真ん中あたりでは・・・。」「県で一番高い・・・山には・・・。」などの会話表現を本時でも発表する際に活用した。

研究討議

ア 特産物を実食し、その良さを感じたところから学習をスタートさせたら、学習意欲につながる。

イ 発表内容を絞り込み、特産物のアピールをすれば生き生きとした活動になる。

ウ 調べた内容を自分たちの生活に返していけるようにしたい。

エ 「短い言葉でまとめる。」「キーワードを見つける。」がどの教科でも生きる活動であった。

オ まとめを「〇〇を生かした△△」のような形にしてもよいのではないか。

カ これまでの学習過程が分かるノートがほしい。

③ 指導 東かがわ市立丹生小学校 教頭 橋本 義人

ア これまでの学習とは違った学習の仕方の単元である。さらに、地図や資料を活用できる力を日常的に育ててほしい。

イ 学習したことを発信する目的をもってするとさらに意識がはっきりする。そのためにも教師が教科書のイメージをしっかりと持つことが必要である。

3 今後の課題

評価を学習に生かす（パフォーマンス評価）の具現化。

若年教員の指導力向上。

本年度総括 高松市社研

報告者 高松市立栗林小学校 真鍋 長嗣

1 研究主題

「社会科ノート」の内容・方法の再構成の
学習をふまえた「社会科ノート」づくり
～教科書活用による社会科授業の日常化～

2 本年度研究の概要

(1) 研究主題について

平成22・23年度は、「社会科ノートによる思考力の育成を図る」をテーマに、サブテーマを「～子どもの学習意欲を大切に、読解力と豊かな言語活動による日々の授業実践の充実を目指して～」として授業実践に取り組んだ。そして、各ブロックのどの実践においても、新学習指導要領の内容の改善に示された授業や、これまでの市社研が積み上げてきたプランの切り口を変えた実践が展開できた。ただ、これまでの実践では、学習方法の研究に傾き、学習内容については十分検討されているとは言えなかった。

また、教科書の活用についても、「教科書を教える」という指導法から「教科書で教える」という指導法への転換が求められているが、若年教員を中心にまだまだ教科書観についての研究が求められている。

そこで、これまでの研究内容を継続しつつ、1時間の授業研究のための研究だけでなく、日々の社会科の充実を目指して、どの先生もが取り組めるような社会科にするために、今年度は内容や方法を再構成し、「教科書を活用した」授業研究を進めていくことが大切であると考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究活動

日時	活動	内容
4月19日	教科主任研修会	本年度の運営、研究、各種事業の計画等
6月14日	教科研修会①	各ブロックごとに授業研究、研究討議
7月27日	夏季研修会	分科会Ⅰ提案 分科会Ⅱ演習
10月27日	香社研定例研修会	市の研究内容と実践提案
11月1日	市社研研究実践の手引き発刊	市社研における過去の実践(約60実践)を紀要にて発刊
11月15日	教科研修会②	各ブロックごとに授業研究、研究討議
11月22日	香小研浅野大会	大会運営補助 実践提案

3 研究実践について

第1回定例研修会 平成24年 6月14日(木)

第2回定例研修会 平成24年11月15日(木)

(1) 東ブロックの実践

4年「水はどこから」

高松市立中央小学校 平井 小百合

① 経験の差を埋める体験

児童それぞれの生活体験や水に対する認識の差を埋めるために、水の使用量を実感できるような体験活動を第1次に設定した。体験により、基礎知識の差も少なくなり、本単元に対する学習意欲も向上した。

② 対話による交流学习

選択した問題ごとのグループ活動と、グループ相互の交流によって考えを深めたり付け加えられるよう、問題設定と役割分担をはっきりさせた。交流の材料として「対話カード」を用意し、資料に対する自分の考えがはっきりするように支援した。

③ 明確な評価基準(ループリック)

資料を根拠として自分の考えをもち、表現する際の留意点やキーワードをはっきりさせ、全員で共有していく。それにより、修正すべき点や、自己評価をする視点が明らかになった。

3年「店ではたらく人」

高松市立屋島小学校 池田 佳穂

① 子どもの意識を大切にした単元構成

スーパーマーケットの見学に行く前に、生活体験や既知の知識を話し合い、共有した上で単元を通じた学習問題について話し合った。また、その学習問題と単元の計画を掲示することで、見通しをもった学習が展開できた。

② 思考を深めるためのカード操作

見学メモをもとにお店の工夫、働く人の工夫などについてカードに書き、グループでの思考操作活動を行った。カード操作により、自分の考えと比較したり、考えを付け足したりすることができた。

③ 人の思いに気づかせる工夫

この単元で大切にしたいことは、消費者と販売者をつないで考えることである。単元の初めにお家の人へのインタビューをし、学習したこととつなぐことで、買い物をする人の願いがお店の人の工夫と一致していることに気づかせられた。

(2) 南ブロックの実践

3年 わたしのまちみんなのまち

高松市立十河小学校 森口 英樹

① 生活科と社会科学習の連携

本単元は3年生にとって初めての社会科学習であり、生活科と社会科のつながりを大切にした。生活科では、自分のまわりに存在している人や社会と積極的に関わる態度

や自分自身の生活での気づきを、3年生の社会科学学習にいかせるように、問題意識をもって社会的事象に関わることができるように配慮した。

② 総合的な学習の時間との関連

児童が興味をもっていることから学習に入り、総合的な学習「アタック ～十河の物知り博士になろう～」とも結びつけ、地域のコミュニティーセンターとも協力して、数種類のウォークラリーマップの制作にあたった。

5年 工業生産と工業地域

高松市立川島小学校 長井 勝洋

① 資料の読み取りを軸にした単元展開

第1次で教科書を概観し、日本の工業生産と工業地域の特色について分布図や統計資料を活用して調べていった。基本的な図やグラフの読み取り技能を習得させておくことで、その後の調べ学習で主体的な調べ学習を展開することができた。

② 構成的エンカウンターによる交流

グループでの交流では、構成的エンカウンター法を活用した。初めに同じグラフを選んだ児童同士で読み取ったことを話し合い、次に違うグループの児童同士で交流することで、共通点や相違点について話し合い、思考を深めていくことにつながった。

③ 表現物「工業きずなブック」の作成

本単元を貫く学習問題は「日本の工業を発展させるために、工業の現状や特色、課題を調べて、工業きずなブックにまとめて、四国経済産業局の方に伝えよう。」とした。単元の終末だけでなく、常にきずなブックの作成を意識しておくことで、どの活動に対しても意欲化を図ることができた。

(3) 西ブロックの実践

6年 貴族の世の中から武士の世の中へ

高松市立川岡小学校 橋本 英敏

① 児童の学習意欲を高める学習計画

単元の初めに教科書を概観し、金閣や銀閣、狂言、茶の湯、生け花などに触れ、今の生活とも大きな関連があることを確認し、パフォーマンス課題を設定した。そこから、室町文化が生まれた背景を探る学習を行い、児童が作成した絵カードを再構成することで、思考を深めることができた。

また、単元の後半には学習参観で関係図の解説をしたり、学んだ文化に対する考えをもとに墨絵などの体験活動をすることを知らせることで、学習意欲を高めていく。

② 教材の本質を見極める教材構造図

教科書や資料集の資料を分析し、構造化して教材構造図をつくることで、目標と指導内容を明確にし、軽重をつけながら指導を進めていくことができた。

4年 きょう十をひらく

高松市立円座小学校 高尾 悠司

① 教科書教材と地域教材の役割

本実践では「身近な地域の発展に尽くした先人の具体的事例」を取り扱う。教科書で取り上げられている事例を扱うわけではないが、教科書には何を押さえないといけないのかが明確に示され、学習の順序も児童の思考の流れを考え展開されている。そこで、教科書で学び方・調べ方を学習し、それを生かして地域教材を探究する活動を行った。

② 体験を通した思考操作

体験活動を取り入れることで、文字情報では得ることができない視覚的、嗅覚的な情報を得ることができる。そこで、体験したことをもとに思考操作活動を行うことで、児童の思考はより深いものになった。

③ 物語づくり通した言語活動

ここでは、物語づくり通した言語力を育てていくことがねらいであったが、ただ想像をして書いたのでは国語科の学習になってしまう。社会科における物語づくりは、事実・根拠にもとづいた思考がなされているかが大切であり、各種資料の事実から人々の思いや願いを考えていった。

4 本年度の成果

(1) 「教材」分析と「社会認識をひらく」内容により、教材の構造化を図ることで、どこに重点を置いて指導するのが明らかになった。

(2) 単元構成を工夫して児童の意欲が継続していくよう、単元の中でも「問題を持ち、見通しをもつ」段階で単元の学習問題を児童とともにづくり、学習計画も共有しておくことで、見通しのある学習を行うことができた。

(3) 昨年度に引き続き、比較・関連づけ・総合による再構成を図る学習を展開したことにより、思考力を育成することができた。

5 本年度の課題（来年度の方向性）

(1) 学習方法だけでなく、学習内容についての研究を深めることが本年度の大きなねらいの1つであった。ただ、児童の社会参画の芽を育てるために、どのような教材や指導計画が必要かを議論する場を設けていきたい。

(2) 今後は若年教員への技術伝承も含めて、これまで以上に定例研修会への参加を促し、厚みのある研究を進めていきたい。

本年度総括 小豆社研

報告者 土庄町立洲崎小学校 平林泰徳

1 研究主題

社会認識と社会に関わる力を育てる学習
～基礎・基本を習得し、思考力を育てる社会科学習の在り方～

2 本年度研究の概要

(1) 研究主題について

小学校社会科の学習は、「地域社会や我が国における人々の社会生活を広い視野からとらえ総合的に理解することを通して、公民的資質を養う」ことをねらいとしている。「社会生活」とは、社会との関わりの中での人々の生活のことであり、地域の地理的環境や組織的な諸活動の様子などとともに、我が国の国土の地理的環境や産業と国民生活との関連、我が国の歴史的背景などを含んでいる。

社会生活について多面的・多角的な社会科の見方を深めることが「広い視野からとらえ総合的に理解する」ことであり、社会的な見方や考え方・表し方を深め社会人としての在り方を求めることが「公民的資質を養う」ことである。公民的資質は、社会的な見方や考え方・表し方を関わり合わせ、社会参画につないでいくことによって、養うことができると考える。

これらのことから、社会科部会では「社会認識と社会に関わる力を育てる学習」を研究主題として、学習の中で「基礎・基本の習得」と「思考力の育成」の充実を図っていくこととした。

先に記した社会生活を構成する要素を「社会的事象」として、社会的事象との関わりを通じて情報を集め、整理して、自分なりの解釈をすることのできる学習の実践を行った。その際、社会的事象をとらえる観点と方法が重要であると考えた。そして、知識・技能のみならず、意欲、思考力、判断力、表現力等を含めた「基礎・基本」の定着を図る学習を構築し、その上で、社会的事象との自らの関わり方を考える力を育てていくことを目指した。

(2) 研究活動

日 時	活 動	内 容
平成24年 4月20日(金)	事業計画	組織づくり・研究テーマ・年間計画立案
6月16日(土)	香社研定例会	第3学年「」
6月21日(金)	第1回授業研究	第5学年「わたしたちの生活と食料生産 ～水産業のさかんな静岡県～」 授業者 土庄町立土庄小学校 靄羽美緒教諭
7月27日(金)	香小研夏季研究会	(第1回研究授業をもとにした提案)
11月22日(木)	香小研研究発表大会	(同上)
11月30日(金)	第2回授業研究	第4学年「きょう土をひらく ～坂本養川と太田典徳～」 授業者 小豆島町立苗羽小学校 高木浩彰教諭
平成25年 2月23日(土)	社会科フォーラムカップ	実践交流にてパネル発表

3 研究実践について

※ 第2回授業研究 第4学年「きょう土をひらく ～坂本養川と太田典徳～」から抜粋

(1) 単元構成 (◎：各次の目標、○：中心となる活動や内容)

第1次	地域の発展に尽くした先人の働きを調べる計画を立て、学習問題を作ろう。 (2時間) ◎開発、文化、産業など地域の発展に尽くした先人の働きの中から開発の面を取り上げ、用水について教科書や地図、地形や気候などから調べ、学習問題を作ることができる。 ○教科書から、用水を開発した坂本養川のことを知り、小豆島の今と昔の地図を比較して、昔は蛙子池がなかったことから、小豆島にも用水を開発した人がいることを調べる。 ○小豆島の地形や気候からため池がつけられたのはなぜか調べ、資料から蛙子池をつくった太田典徳はなぜ豊水分霊の神として祀られているのかという疑問をもとに、学習課題を作る。
第2次	大河原用水をつくった坂本養川の働きや苦心を調べよう。(3時間) ◎教科書をもとに坂本養川を調べる活動を通して、坂本養川の働きや苦心についてまとめるとともに、調べ方を理解することができる。 ○坂本養川の働きや苦心、願いを、教科書や年表をもとに読み調べ、ノートにまとめる。 ○教科書の資料から、大河原用水をつくることによって、人々の生活はどのよう

	に変化したかを話し合い、ノートにまとめる。 ○坂本養川の用水の開発について調べて分かったことを調べカードにまとめる。
第3次	坂本養川の調べ方を手掛かりに、小豆島に伝わる先人「太田典徳」の働きや苦心を調べよう。(5時間+校外学習) ◎蛙子池をつくり、伝法川沿いの地域の水不足を解消した太田典徳の働きや苦心を調べることができる。 ○蛙子池の見学で、分かったことや疑問に思ったことをノートにまとめる。 ○蛙子池の見学や年表や資料、ビデオ教材から、太田典徳の働きや苦心、願いを調べ、ノートにまとめる。 ○年表や資料、ビデオ教材から、蛙子池をつくることによって人々の生活はどのように変化したのか話し合い、ノートにまとめる。 ○ゲストティーチャーの話から、太田典徳の働きや、ため池の開発と今の私たちのくらしのつながりを調べ、ノートにまとめる。 ○太田典徳のため池の開発について分かったことを調べカードにまとめる。
第4次	坂本養川、太田典徳の2人の働きを振り返り、共通点を見つけ、今でも2人を称える像や神社がある理由を考えよう(1時間 本時1/1) ◎坂本養川、太田典徳の2人の働きを振り返り、共通点を見つけ、今でも先人を称える像や神社があるのはなぜか考えることができる。 ○坂本養川、太田典徳の2人の働きや苦心、願いを比較し、像や神社の神として称えられている理由を話し合い、ノートにまとめる。
第5次	ため池を開発した太田典徳に向けて手紙を書いたり、太田典徳の劇をしたりして、お家や地域の人に発信しよう。(2時間) ◎用水を開発した、太田典徳に手紙を書いたり、劇にしたりして発信し、先人の働きと地域の発展について考える。 ○地域の人々の生活の向上のために蛙子池をつくった太田典徳にあてて手紙を書き、肥土山の地域の方やお家の人に発信する。 ○太田典徳の働きや苦心、強い思いがあって今の生活が成り立っていることを考え、その業績を称えるために劇にして、肥土山の地域の方に伝える。
到達度 評価	わたしたちの地域には、用水を開発して地域の発展に尽くした人がある。その先人は、地域の人々の願いを実現し、生活を向上させるために、強い願いをもち、さまざまな努力や苦心を重ねて開発を行った。その先人の働きで、地域の人々の生活が向上し、現在もなおその地域の発展を支えている。そして、その先人たちは、今も地域の人々から称えられている。わたしたちも、地域の発展に尽くしてきた人々の思いを受け継いでいかなければならない。

(2) 討議内容

- ・ 蛙子池に見学に行ったり、ゲストティーチャーを招いたりする活動を通して、実感を伴った学習活動ができ、調べたことや分かったことをノートやカードにまとめる表現活動ができた。
- ・ 調べたカードを発表し、教師が選別していくのではなく、グループやペアごとにカードを持ち寄り、分配・比較・関連づけを行うなどの、児童が主体的に考える場を設定してもよかった。
- ・ 教科書教材で「坂本養川」の学習をしたことで、地域教材「太田典徳」の学習では、児童の思考の転移が促され、2人の偉人の共通の思いや願いを見つけやすくなった。
- ・ 先人の学習をする際、人となりや業績のどちらに中心価値があるのかを明確にすることで、児童に付けさせたい力が今以上に明確になってくる。

4 本年度の成果

- ・ 「地元の水産業を盛んにする活動」や「地域の偉人を知り・伝える活動」などの地域教材を取り入れ、学習した内容を自分たちの地域やその他の地域に広め伝えることで、児童は自ら進んで学習に取り組むことができた。
- ・ 単元を再構成し、単元の中で基底となる事項を習得することで、一人一人が疑問を持ち、切実性のある問いとして、単元を貫く課題となった。
- ・ 資料や見学して分かったことをノートやカードにまとめ、サークルマップやコンストラクションマップにまとめたことで、児童の知識が再構成できる場を設けることができた。

5 本年度の課題(来年度の方角性)

- ・ 様々な手法で調べた事柄をまとめたが、教師の支援がまだまだ必要であった。児童自身で、それぞれの事柄の関係性を見つけ、矢印や言葉を使いながら図を構造化できるようにする。
- ・ 評価の方法では、4観点のうち、どのような事柄を児童から引き出したいのかを教師が明確にもっておくようにする。そのため、4観点の評価規準の中に、事柄の例示を示すようにする。

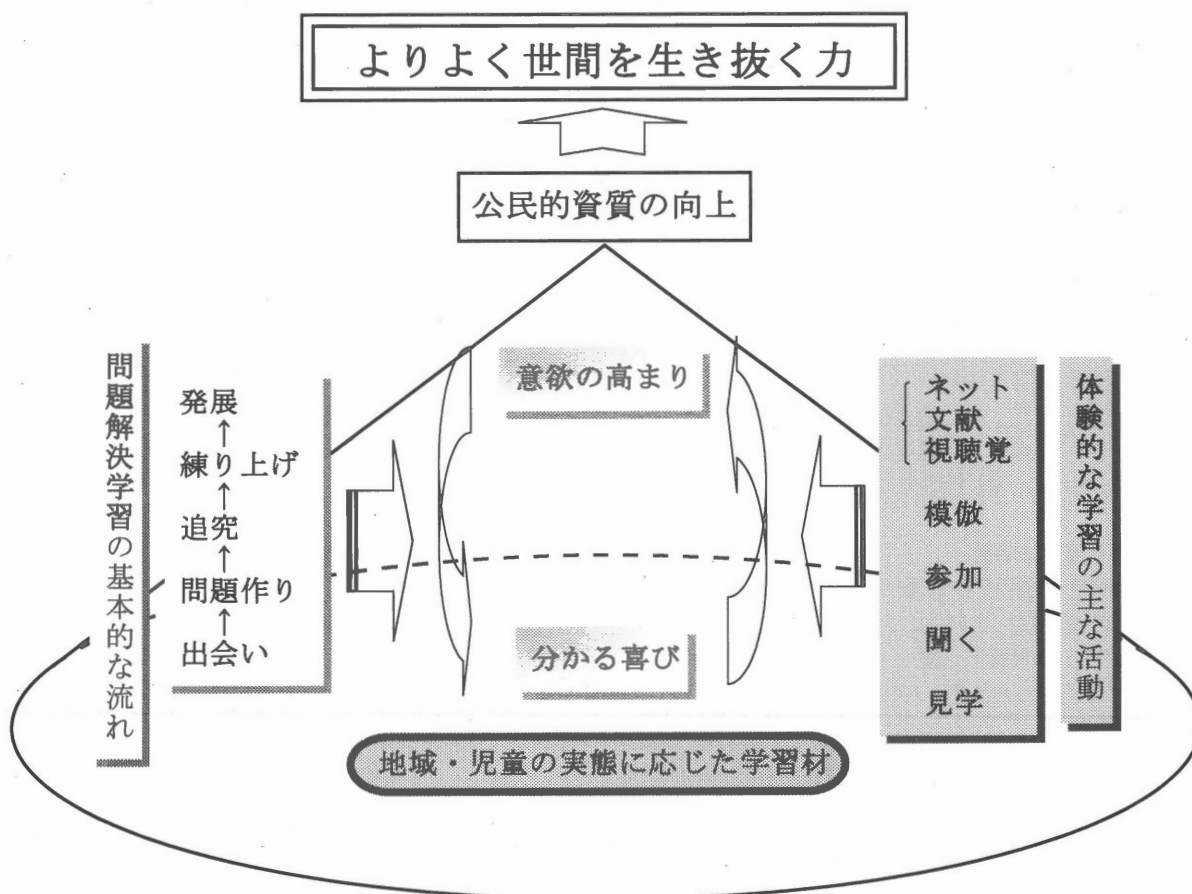
本年度総括 坂出・綾歌社研

報告者 坂出市立東部小学校 福家寿夫

1 研究主題

分かる喜びを実感できる社会科学習の展開
— 体験的な学習・問題解決的な学習の充実を通して —

2 本年度の研究の概要



(1) 研究主題について

体験的な学習は自然体験，社会体験，生活経験が不足し，人とのかかわる力が不足している現代の子どもたちにとって，新鮮で楽しさの期待できる学習になる。これは学習する意欲の源であり，学ぶ力の源でもある。

そして，問題解決的な活動を取り入れた学習は，課題を追究していく中で，一人一人の疑問が解決したときに「そうか，そういうことか。」「よし，できた。分かった。」という喜びを感じることができる。

体験的な学習や問題解決的な学習を充実させることにより学ぶ意欲を高め，思考力，判断力を育てることを目指している。

坂・綾社研で目指す児童像

- 社会的事象に驚きや疑問を感じ，意欲的に追究することができる児童
- 既習の基礎・基本の事柄や内容を使って，話し合ったり発表したりすることができる児童
- 調べたことを根拠にして，比較したり，様々な立場から考えることができる児童
- 問題解決に必要な資料を収集・活用するとともに，考えをノートにまとめることができる児童

(2) 研究活動

日にち	場所	研修会名	内 容	参加者
3月下旬	坂・東部小	事前検討会	24年度の役割分担・計画	研究部
4月12日(水)	坂・東部小	坂綾小研総会	24年度の組織作り 夏季研の役割分担	坂綾全員
6月13日(水)	綾・宇多津北小	坂綾小研教科研	研究授業Ⅰ	坂綾全員
6月15日(金)	坂・東部小	定例会事前研	定例会事前打ち合わせ	研究部
7月7日(土)	坂・西庄小	香社研定例会	提案発表	香小研社会科部員
7月13・20(金)	綾・宇多津北小	夏季研分科会事前検討会	夏季研分科会の事前打ち合わせ	研究部
11月4日(金)	坂・川津小	坂綾小研教科研	研究授業Ⅱ	坂綾全員
1月16日(水)	綾・昭和小	研究フォーラム事前検討会	研究フォーラムの役割分担等	研究部
2月23日(土)	坂出附属小	研究フォーラム	研究フォーラム発表	香小研社会科部員

3 研究の実践について

授業研究Ⅰでは、「青色パトカーに乗る人は、どのような思いで町をパトロールしているのだろう。」という学習問題で授業を展開した。警察のパトカーとの比較で、児童の興味を引き出し、授業の終盤ではゲストティーチャーの安心安全ステーションの方にお話を伺い、パトロールを続ける思いを理解した。児童は、ゲストティーチャーの方のお話から、安全には自分で気をつけることの大切さを実感した。

授業研究Ⅱでは、「問題を解決するための学習マップを作ろう。」という学習問題で授業を展開した。児童が主体的に学習していくために、全体を貫く学習計画を立てる授業であった。児童に問題意識をもたせるための効果のある資料の選び方、提示の仕方等、大変参考になり、提案性のある授業であった。

4 本年度の成果

(1) 地域と関わりながら自分の考えを見直すことができた

学習問題に対して考えを出し合い、交流し合うときに、学級内の友達に限らず、地域の方を招いて話しを聞き、自分の考えを吟味したり、検討したりする場を設けた。また、自分たちの考えを保護者の方へ提案し、コメントをもらったり、ゲストティーチャーから評価してもらったりして考え振り返った。そうすることで、社会性のある思考や判断ができるようになった。

(2) 資料提示の工夫ができた

単元を貫く課題を考えさせるような資料の選択、提示の工夫を行った。興味・関心が、思考・判断に変質するような授業を意識し、最初にもった単元を貫く課題が、自分の問題として、考えることができるようにした。単元の導入部分に焦点を当てた研究ができた。

(3) 体験の取り入れ方の工夫ができた

体験に根ざした問題解決的な学習が必要であると考え、体験的な学習を積極的に組み入れてきた。単元構想を組む際には、体験活動の位置付けとねらいを明確にしてきた。そのことにより、子ども自らが意欲をもって主体的に問題を見付け、自分とのかかわりの中で問題を解決したり、身に付けた力を生きて働く力にしたりすることができた。

5 本年度の課題（来年度の方向性）

坂出・綾歌社研ではノートを「集団と個の関わり」の通信手段として使う研究を進めてきた。「新・ノート作り10箇条」「スケッチブックのノート」「横に使ったノート」など各自で工夫がされ、社会科を研究教科にしていない先生方にも広まりつつある。

来年度は目指す児童像2番目にある「既習の基礎・基本の事項や内容を使って、話し合ったり発表したりすることができる児童」を育てることに力を入れて行こうと考えている。

今後さらに社会科部会の研究が活発になり、参加者に「参考になった。参加して良かった」と思われるような有意義な研究になるよう内容と方法を考えていく。

1 研究主題

社会科部会「自分づくりの社会科学習」

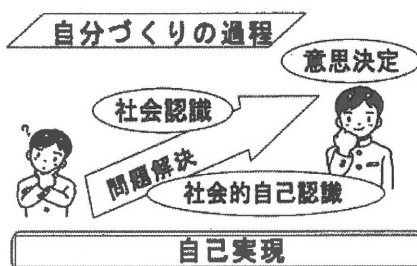
—基礎・基本の定着と自ら学ぶ問題解決能力の育成を求めて—

2 本年度の研究の概要

(1) 研究主題について

1. 「自分づくり」の過程とは

「自分づくり」の過程とは、自ら進んで問題解決していく中で、確かな社会認識、及び自分と社会との関わり合いである社会的自己認識を深め、意志決定する過程であり、学習における自己実現を果たす過程でもある。社会科の究極的な目標である公民的資質の育成には、「自分づくり」の過程が必要と考える。問題解決の過程で、自己実現を図りながら、確かな社会認識と社会的自己認識を深め、それらをもとに意志決定することを通して公民的資質が育つのである。そして、身につけた力を自分の生き方に生かしていこうとすることが大切である。これは、香社研のテーマにある「社会参画」にも関連している。



2. 「自分づくり」と「小学校学習指導要領解説 社会編」の目標

以下に「自分づくり」に関係する「小学校学習指導要領解説 社会編」の目標をあげる。

第3, 4学年

- ・地域社会の一員としての自覚
- ・地域社会に対する誇りと愛情

第5学年

- ・環境の保全や自然災害の防止の重要性
- ・国土に対する愛情
- ・我が国の産業の発展や社会の情報化の進展

第6学年

- ・先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心
- ・我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情
- ・平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることの自覚

【自分づくりの学習過程】



3. 「社会参画」との関連について

教育基本法と学校教育法に「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」が明示された。社会が複雑化・高度化していく中で、児童の生活と直接かかわる課題については、知識として学習するだけでなく自分自身の課題として主体的に解決していこうとすることが求められる。公民的資質の基礎を養う意味からも地域の課題を見いだし考察するなどして、意志決定学習に社会参画の視点を組み込んだ学習が重要となる。

社会参画への意欲や態度の育成にあたっては、下記の3つの視点を大切にしていこうと取り組んできた。授業の中で、「自分にできること」を拙速に求めるのではなく、事実をしっかりと確かめ、自分たちのできることの効果や実現性を吟味し合う学習が、社会参画への意欲や態度の形成につながっていくと考える。

① 社会的事象の理解について

よりよい社会を目指して取り組む人々を「参画するモデル」として取り上げる。大人が実際にどんな目的で、どんな努力をしているのかを知り、社会的事象の意味を理解する。

② 思考力・判断力・表現力の育成について

多面的に考える、自分の関わり方を考えるバランス感覚を持って判断する、意見交換ができる力をつける。

③ 社会的な見方や考え方について

将来に向かって自分なりのかかわり方を考えるようとする。

(2) 研究活動

期日	会場	研究内容
4月18日	城北小	研究組織づくり, 研究主題決定, 年間計画作成
5/17 23 29	城辰小	丸小研事前勉強会 6年生「武士の世の中へー源頼朝と鎌倉幕府ー」
6月 1日	城辰小	丸小研事前研修会 6年生「武士の世の中へー源頼朝と鎌倉幕府ー」
6月 6日	城辰小 〃	丸小研研究授業 6年生「武士の世の中へー源頼朝と鎌倉幕府ー」 授業者 丸亀城辰小 教諭 長沼裕子 指導者 香川大学教育学部附属坂出小学校 教諭 山内秀則
6/18 28・7/17	郡家小	夏季研事前勉強会 4年生「ごみのしりと利用」
7月27日	高松テルサ	夏季研実践演習 4年生「ごみのしりと利用」 提案者 郡家小 教諭 片岡由起子 演習助言者 郡家小 教頭 樋口昌樹
9/5 10/12	飯山北小	25年度夏季研についての勉強会
10/12 11/9	飯山北小	定例研事前勉強会 3年「はたらく人とわたしたちの暮らし ー店ではたらく人ー」
11/2 11/16	飯山北小	丸小研事前勉強会 5年生「工業生産と貿易」
11月17日	岡田コミュニティ	定例研修会 3年「はたらく人とわたしたちの暮らし ー店ではたらく人ー」 授業者 岡田小 教諭 渡部更治 指導者 附属坂出小 教諭 山内秀則
12月 5日	城坤小	丸小研研究授業 5年生「工業生産と貿易」 授業者 城坤小 教諭 秋山侑大 指導者 香社研OB 香川佳和
12月 5日	城坤小	25年度夏季研についての勉強会 (学年部会ごとに提案内容検討)
12月中旬～	各学校	学年部会ごとに25年度夏季研についての勉強会 (提案内容検討)

3 研究実践について

研究授業 (6年生「武士の世の中へー源頼朝と鎌倉幕府ー」)

(1) 主体性を育む意欲づくり ー子どもの「なぜ?」を引き出す学習材の提示と学習問題の設定ー

思考力とは、社会的事象に対して「なぜ?」「どうして?」と問い、事象相互の関係などを追求する過程で育つものである。つまり、思考力を育てるにあたっては、「どうして?」「なぜこうなるの?」といった問が不可欠である。その問が子どもたちの「知りたい」「分かってほしい」という思いにつながり、それが、分かる喜びにつながると考える。つまり、子どもの意欲を引き出すには、「考えたい」という必然性が生まれる学習課題を設定することが大切である。本年度はそれを意識した実践を行うよう授業設計に努めた。

(2) 社会参画をふまえた歴史学習 ー意志決定の場の設定ー

社会参画とは、よりよい社会を形成していくために、現在の社会問題や課題を取り上げ、その問題解決のために行動していくことである。国や社会の問題を自分自身の問題として考え、そのために積極的に行動していくこと、一人一人が自分の課題として自覚をもつこと、それがいわゆる社会参画である。歴史の中に身を置いて、「その時代自分だったらどうするか」と置き換えて考え、判断していく、そういった学びが、将来に置いて価値を判断したり問題を解決したりする力、つまり社会参画する力の基礎になると考えた。本時の授業では、源頼朝が石橋山の戦いで平氏に負けた後の兵力を提示し、「もし自分が当時の武士ならば、平氏と源氏どちらにつくか?」と問い、それぞれの立場から根拠を示しながら述べる場 (意志決定の場) を設定し、より望ましいものを選択し、決定する場面を作った。

4 本年度の成果

- 1年間を通して「意思決定の場の設定」を意識して研修したことで、よさや課題が明確になった。
- 丸小研社会科部会が長年、研究主題・副主題にしている「自分づくりの社会科学学習ー基礎・基本の定着と問題解決能力の育成ー」を部員各々が見直す機会を設けたことで、取り組むべき方向性が見えてきた。

5 本年度の課題

- 「自分づくり」の過程は、社会科の究極の目標である公民的資質の基礎を養うことである。それに関わる「判断・意志決定の場」に視点を置いた研究がさらに必要になる。
- 県の研究主題「社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習」と丸小研社会科部会の研究主題との関連を図りながら、平成25年度の香小研社会科部会夏季研修会の発表に向けて、授業実践に取り組む必要がある。

1 研究主題

個が育ち、生きる社会科学習の創造
～ 考える力を育てる社会科学習をめざして ～

2 本年度研究の概要

(1) 研究主題について

社会科の目標は、「公民的資質の基礎を養う」ことである。三観社研では、2000年度から公民的資質の基礎を養うとは、「経験」に照らし合わせながら、自分なりに物事を考え実践することのできる意志決定の主体を育成することだと考えてきた。そのような主体を「個」ととらえ、その育成を図ることをめざしてきた。さらに他者との関わりの中で考えを出し合い、社会的な概念を磨きあうことを個が生きている状態だととらえ、授業でその姿を模索してきた。

そこで、本年度の研究内容は、以下のように設定した。

- ① 単元観の確立をめざす教材研究
 - 単元観を確立するために必要な作業
(学習指導要領分析・社会的事象分析・児童の実態分析)
 - 単元観を確立していくために必要な視点
(教材と社会認識の関係をつかむ視点の明確化)
- ② 「切実性のある問い」の研究
 - 切実性をもたらす教材とは何か
(教材と教材とのズレ、教材と子どもの意識のズレ等)
 - 切実性のある問いを持たせるための学習過程
(確かな事実認識をさせる、子どもと子どもの意識のズレを生じさせる)

(2) 研究活動

日時	活動	内容
4月24日	三観社研運営委員会	三観社研の研究・運営について
5月12日	三観社研総会	三観社研の組織・運営について
6月22日	三観小研社会科部研修会	授業研究 4年「火事からくらしを守る」
7月27日	香小研社会科部夏季研修会	提案発表 4年「火事からくらしを守る」
9月29日	香社研定例会三豊集会	提案発表 5年「わたしたちの国土」
10月31日	三観小研社会科部研究発表会	授業研究 3年「農家の仕事」 6年「世界に歩み出した日本」
11月22日	香小研社会科部研究発表会	提案発表 4年「水はどこから」
1月12日	三観社研冬の研修会	実践報告 6年「新しい日本 平和な日本へ」
2月23日	香社研社会科フォーラムカップ	実践交流 6年「新しい日本 平和な日本へ」
3月 1日	三観社研運営委員会	三観社研今年度の反省と次年度構想

3 研究実践について (概要)

(1) 単元観の確立をめざす教材研究

4年「水はどこから」の実践より

学指導要領解説の分析と観音寺市の実態を分析した結果、本単元でつかませたい中心概念は、以下の3点になった。

- ① 市の水道局は、安全な水を安定して送れるように仕事をしていること

② 飲料水確保のため、徳島高知両県の人々と協力しながら行われていること

③ 多くの人々の思いに触れ、自らも節水をしようとする意識を高めること

本実践では、茂木浄水場を中心に高室地区の水道事情について取り扱った。茂木浄水場は、取水井戸への海水流入の危機がある。財田川の水位が下がれば、満潮時に地下水脈への海水流入量が増え、取水井戸にも海水が流入するおそれがある。そのため、茂木浄水場では取水に最も気を配っており、コントロール室では常に取水井戸の水位をモニタリングしている。この事実を知らせることで、中心概念①の「安定供給」に迫ろうとした実践であった。

5年「わたしたちの国土」の実践より

中学年の児童が自分たちの地域に対する愛情を持ちやすい理由は、事象に直接触れ、体験できるからである。それに対して5年生での国土学習は、直接体験が不足しがちである。そこで、中学年での学びを5年生の学びに生かそうと考えたのが、本実践である。

学習指導要領の分析を行うことで、地域社会に対する誇りと愛情・県に対する誇りと愛情・国土に対する愛情等、各学年でつかませたい内容が明確になった。そこで、中学年で獲得した自分の地域社会への誇りと愛情の振り返りを行い、沖縄のくらしを学んでいく学習指導過程を構成したのが本実践であった。

6年「新しい日本 平和な日本へ」の実践より

昨今、1964年の東京オリンピック最終ランナーに選ばれた坂井義則氏を教材に取り上げる実践がなされている。このような実践では、民主主義への変容・国際関係の改善などの概念をつかんでいくことになる。

今回の実践では、さらに「田端政治」という人物の取り組みを加えた。そうすることで、平和の視点を強化し、先人たちが築いてきた平和への歩みを中心概念に付加することができると考えたからだ。

学習指導要領分析と教科書分析から、今までの実践ではやや不十分だと感じていた「平和」という中心概念に迫ろうとした実践であった。

(2)「切実性のある問い」の研究

4年「火事からくらしを守る」の実践より

本実践の導入では、消防団にある大きなポンプ車と自治消防団にある小さな手押しポンプ車を比較した。「こんなに小さなポンプ車は必要あるのかな。」という意識が子どもたちに芽生えた。さらに、自治消防団から2キロ程度の場所に、消防団や消防署がある。この事実からも「自治消防団は必要なのか。」という問いが生まれてきた。

資料の比較をしたり、地図上に消防団や自治消防団を位置づけることで、教材と児童の持っている意識とのズレが生じ、切実性のある問いが成立した実践であった。

4 本年度の成果

- 学習指導要領・社会的事象・児童の実態の3つの視点から総合的に分析することで、単元観の確立が図れることが明確になってきた。そして、単元観が確立されると、指導の方向性や扱う教材の価値も明確になり、中心のぶれない授業を構成できることがわかった。
- 社会的事象の分析時に、複数学年を関連させて分析することで、効果的な指導計画や関連内容の取り扱い方が明確になった。
- 「切実性のある問い」の成立には、教材と児童の意識のズレが効果的であることがわかった。「切実性のある問い」が成立すれば、その後の追究意欲が高まることも明確になった。

5 本年度の課題（来年度の方角性）

- 単元観の確立には、前述の3視点の分析に加え、教師の思い（何を教えたいのか）が必要であり、その熱い思いが単元観の確立や教材発掘につながることをわかった。
- 「切実性のある問い」の成立に関しては、教師側の仕掛けによるもの（いわゆるネタ）が多く実践されてきたが、児童の意識の流れに沿った、児童の中からわき起こる疑問や問いを大切にすることも必要である。

香社研だよりvol.1

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 徳田 仁 司

香社研テーマ

社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習

～教科書活用による社会科授業の日常化～

小豆社研テーマ

基礎・基本の確実な定着と、その発展を図る学習の展開
～基礎基本の内容を習得し、思考力を育てる社会科学習の在り方～

さぬき・東かがわ社研テーマ

思考力の育成をめざした地域プランの開発
～指導に生かせる評価～

6月定例会 平成24年6月16日(土) 小豆・さ・東集会 (於：高松市銀星旅館)

1. 実践提案：小豆島町立苗羽小学校 高木 浩彰 先生
第3学年「はたらく人とわたしたちの暮らし ～工場の仕事～」

○ 主張点

- 主張点1 工場見学で調べたことを図式化したり文章化したりすることで、思考と表現の一体化を図り、社会科における言語活動の充実に努めた。
- 主張点2 醤油造りに携わっている人々の工夫や努力、思いや願いを理解するために、各観点のグループごとに考えたおいしくて人気のある醤油を造る秘密を交流して個でまとめ、基礎基本の定着を図った。
- 主張点3 社会に参画するための資質や態度が育つように、小豆島の醤油をもっと知ってもらうためにどうすればよいか考えさせ、児童が自分たちの郷土で有名な醤油を他の地域から来た観光客にアピールしようとポスターを作り、地域に働きかけた。

○ 授業での取り組み

① 総合的な学習の時間と関連させて

総合的な学習の時間（ひしおの里学習）でも醤油について学習していることから、子どもたちにとって身近な地域教材を取り上げて授業を行った。醤油博士による出前授業を総合の時間に行い、醤油の材料や作り方を説明していただいた後、社会科で醤油工場の見学に行くことで、見学の視点を絞り込むことができ、子どもたちはそれぞれの視点で意欲的に見学ができていた。

② 思考と表現の一体化

見学の際に調べたことを、グループに分かれて各観点ごとに図や文章でまとめた。これにより、製造工程や働く人の工夫をキーワードを使ってうまくまとめることができ、子どもの思考も整理された。

③ ポスター作り

小豆島の醤油を観光客にPRするためにポスターを作った。小豆島の醤油を食べてもらうため、良さを知ってもらうためにどんなことを書けばよいかを考えて作ることができた。また、観光客にポスターを見ての感想をアンケートに記入してもらった。これにより、教師からではなく、より多くの人からの評

価を得ることができ、社会参画への意欲につながった。

○ 討議内容

- ・ 見学したことを図式化したりポスターセッションで表現したりと、体験の言語化を大切にしていたよかった。
- ・ 思考と表現の一体化は、そこに子どもの思考が見とれるような表現でないといけない。例えば、おいしさの秘密は何か考え、工夫だということをカード化して分類操作し、それを醤油造りに生かす、という表現の過程ではどうだったか。

2 実践提案：東かがわ市立三本松小学校 白澤 修 先生

第3学年「古い道具と昔の暮らし」

○ 主張点

新学習指導要領の趣旨にそった独自の地域教材の開発や、思考を目に見える形にするノートの活用によって、思考力・判断力・表現力を達成する指導法についての考察。

○ 授業での取り組み

① 古い道具の体験学習

実際に古い道具を使ってみることで、道具に古い道具や暮らしに対する興味・関心が強くなり、子どもたちのつぶやきがたくさん見られた。洗濯板の溝に泡がたまる様子や、手で洗濯する際の冷たさや腰の痛さなど、実際に体験してみないと分からないことをたくさん発見することができていた。

② 教材の選定と資料の共有化

児童の実態に合わせて基本教材を選定した。他社の教科書の活用も行うことで、児童にとって分かりやすい資料を提示することができた。また、資料をパソコンを使って大画面で提示することで、資料の読み取りで得る情報が共有化でき、それぞれの道具の使い方や、生活の様子がどの児童にもよく分かった。

○ 討議内容

- ・ 教材を大画面で提示し、共有するのは成績向上にもつながるので大切なことである。
- ・ この単元における社会参画をどうするべきか。目指すのは、大人になったときの社会参画につながる基本的な資質や能力を育成すること。単元による社会参画のための能力育成は、それぞれの単元によって違うと思うので、考える必要がある。

○ 御指導

◇さぬき市教育委員会主任指導主事 永坂 邦彦 先生

- ・ 総合学習とのかかわりを重視して単元を構成していたのがよかった。総合を各教科の意欲につなげることで、総合に各教科で身に付けた技能を生かすこと、この二つを使い分けながら年間の計画を立てていることがすばらしい。
- ・ 表現物を、思考する際の道具として使っているのがよかった。
- ・ 単元の途中で一度評価規準に戻って、一時間の授業で教師が何を伝えたいのか、子どもがこの授業で何を思うのかということをも一度明確に捉えなおす必要がある。

◇香社研 OB 佐藤 正文 先生

- ・ 以前の全国大会でもあったように、地域プランの伝統が受け継がれている。
- ・ 他社の教科書を使う際には著作権のことも考えて慎重に使わないといけない。
- ・ 先生方には本を読んでほしい。本から学ぶことで教育に生かせることはたくさんある。

【編集後記】

本年度、第1回目の定例研修会では、さぬき・東かがわ社研の白澤先生、小豆社研の高木先生による実践提案でした。子どもの表現物や活動の写真など実践を物語るたくさんの資料を用意して下さり、研修を深めることができました。討議では、単元を貫く課題意識の重要性や社会科で大切にすべき思考力、また、社会参画の素地を養う学習活動の在り方等について活発に意見が出されました。銀星の会場がいっぱいになる程の参加を頂き、議論も白熱しました。

今回の定例研で提案された先生方、そして、御指導を頂いた、さぬき市教育委員会主任指導主事 永坂邦彦先生、香社研OB佐藤正文先生、本当にありがとうございました。
(香社研事務局)

香社研だよりvol.2

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会 長 徳田 仁司

香社研テーマ

社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習
～教科書活用による社会科授業の日常化～

坂綾社研テーマ

分かる喜びを実感できる社会科学習の展開

～体験的な学習・問題解決的な学習の充実を目指して～

7月定例会 坂出・綾歌ブロック集会 平成24年7月7日 於：坂出市立西庄小学校

1 坂出綾歌社研で目指す児童像

- 社会的事象に驚きや疑問を感じ、意欲的に追究することができる児童
- 既習の基礎・基本の事柄や内容を使って、話し合ったり発表したりすることができる児童
- 調べたことを根拠にして、比較したり、様々な立場から考えることができる児童
- 問題解決に必要な資料を収集・活用するとともに、考えをノートにまとめることができる児童

これら4つの目指す児童像に迫るために、教師の工夫点として ①資料提示の工夫 ②体験的な学習の取り入れ方の工夫 ③ノートの充実の工夫の3つをあげる。

2 本実践の主張点

主張点1 問題解決的な学習問題にすることにより、分かる喜びがより実感できるであろう。

問題解決的な学習問題の授業は、課題を追究していく中で、一人一人の「どうして・・・」「どうやって・・・」「なぜ・・・」という疑問が解決していく。そのとき「そうか、そういうことか。」「よし、できた。分かった。」という喜びをより大きく感じることができると考えた。本時は学習問題を「どうやって平清盛は強い力を手に入れたのだろう。」とした。

問題解決的な学習を繰り返すことで知識・理解・技能を確実に習得させ、思考力、判断力を育て、よりよく世間を生き抜く力を育むことを目指す。

〈資料〉各教科書会社による学習問題

日本文教出版「新しく現れた武士はその後、どのように成長していったのだろう。」

光村図書「武士はどのようにして現れたのかな。」

教育出版「武士はどのようにして生まれ、力をもったのでしょうか。」

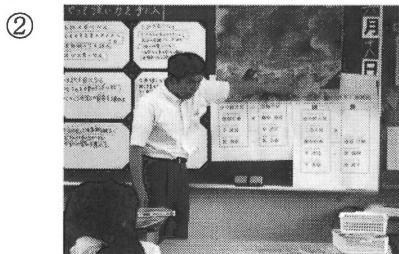
東京書籍「武士はどのようにして勢力を伸ばしていったのでしょうか。」

主張点2 教材や資料の提示を工夫すると、分かる喜びがより実感できるであろう。

導入時の「どうして。」「なんでこうなるんだろう。」という思いが、分かる喜びへの第一歩である。そういう心の状態にするような教材や資料を提示する。そして単元の途中には、追究意欲を持続させるような資料を提示したり、五感に訴えるような資料や体験活動を取り入れる。まとめの段階には課題を解決できるような資料や新たな課題が生まれるような資料を提示する。

資料提示のポイントを次の3点とする。

- ① 学習問題を意欲的に、また、的確につかめるような教材や資料提示をする。
- ② 追究意欲を持続させるような補助資料を提示する。
- ③ 新たな疑問が生まれたり、学んだことが検証できるような資料提示をする。



○ 討議内容

- ・ 教科書の活用では、順序を組み替えて（＝学習の構造）、主体的に学習していくのでは？

○ グループ討議

- ・ 学習問題は、「武士は、どのようにして勢力を伸ばしてきたのか？」にして、マンガの吹き出しに言葉を入れてまとめた。
- ・ 前段階で、「武士とは？」「源氏とは？」と、言葉を教えていけばもっとよかったのではないかな。
- ・ 「平氏にあらずんば人にあらず」を家の人に説明しようという学習が面白いと思う。
- ・ 見通しが1時間では、短すぎるのではないかな。
- ・ 平氏は、「これまでに藤原氏が行ったこと＋戦い、貿易」という構造を考えると、説得力がある。
- ・ どういう時代の中で生きてきたかをしっかり押さえておく必要がある。貴族→武士
- ・ 学習問題は、「貴族とどのように入れ替わったのか？」として、予想をさせるとおもしろいのではないかな。

○ ご指導

◇ 西部教育事務所主任指導主事 寺嶋 俊秀 先生

- ・ 歴史的学习の課題は、小学生らしくなるかどうか。

① 主体性…活動の重視

ア 課題意識の連続 前の時代は～である

イ 資料選択・活用

ウ 思考・表現・交流 比較や関連づけ

② 実社会とのつながりの意識（私たちの生活の基盤が歴史）

③ 点→線→面の理解へ（日本全国で関係）

- ・ 前の時代とのつながりから、武士のイメージをもつ。
次の時代にどのように影響したか、地域の歴史をどう取り入れるか
- ・ 社会参画につなぐ
年表や絵地図→外観を捉える
- ・ 資料活用を身に付ける
自分のノートを振り返る
年表から、平清盛が力をもったわけをさぐる
- ・ 考えることについて
 - ① 何を解決するために考えるのか
 - ② 何のために考えるのか
 - ③ どのように考えるのか
理由を考える＝ 時間 ＋ 空間 ＋ 役割や立場
(年表) (地図) (相関図)

- ・ ノートについて

- ① 課題 ② 分かったこと・考えたこと ③ 学び合い
- ④ 学習の振り返り ⑤ 次の課題・見通し

◇ 元香川県社会科教育研究会会長 唐木 裕志 先生

- ・ 生き生きとした歴史にしてほしい。
- ・ とても豊かだった日宋貿易の成果を見直してほしい。
＜輸入＞金、木材、硫黄 ＜輸出＞茶碗、お金
- ・ 摂関政治の崩壊（藤原道長→兄弟の争い）の方が、子どもに分かりやすい歴史になる。
- ・ 崇徳上皇がさぬきに流されたのは、さぬきが信賴的武力をもっていたからだ、という点に注目したい。

【編集後記】

前半はテレビの大河ドラマにも登場した平清盛を扱った実践を紹介していただきました。問いの繰り返しにより、子どもの思考力・判断力・表現力が育まれている様子が伝わる実践でした。実践を発表された先生方、西部教育事務所主任指導主事 寺嶋俊秀先生、香社研OB 唐木裕志先生、ご指導どうもありがとうございました。

また、後半は唐木先生の案内により、坂出市内のフィールドワークに行きました。教科書だけでなく、地域に残る史跡を探り、社会科を身近に感じる実践を大切にしたいと改めて感じました。 (香社研事務局)

香社研だよりvol.3

発行者 香川県小学校社会科研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 徳田 仁司

香社研テーマ

社会科的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習
～ 教科書活用による社会科授業の日常化 ～

三観社研テーマ

個が育ち、生きる社会科学習の創造
～ 考える力を育てる社会科学習をめざして ～

香社研 9月定例会三豊集会 平成24年9月29日(土) 於：観音寺市立中央図書館

1 三観社研研究の方向 提案者 観音寺市立観音寺南小学校教諭 出演大資先生

考える社会科学習 ～考える内容と考えさせるための問い～

(1) 単元観の確立をめざす教材研究 (内容面)

- ① 必要な3つの作業
 - 学習指導要領の分析
 - 社会的事象の分析
 - 児童の実態の分析

社会科は内容教科であるべきなので、研究の方向は、考えさせる手順や方法ではなく、何を考えさせていくかである。

② 単元観を確立していくために必要な視点

- (ア) 社会的な事象のつながり (イ) 人間の生きる姿
- (ウ) 変化・発展の様子 (エ) 自分とのかかわり

(2) 「切実性のある問い」の研究 (方法面)

- ① 切実性をもたらす教材とは何か
サプライズ(驚き)から思わずその理由を考えたり、矛盾から問題を意識したりするような児童の意識と教材の間にズレが生じるもの
- ② 切実性のある問いをもたせるための学習過程
問いをもたせるためには、児童の事実認識をしっかりと育てておく問いに対する児童のこだわりは強くなり、切実性が高まる。

問いは、学習過程や得られる知識を決定するので、重要なものである。この「問い」を「意欲をもって取り組む問い」にすることができたら、考えようとする意欲が高まる。

2 実践提案 提案者 観音寺市立大野原小学校教諭 平口真章先生

- (1) 単元名 5年「わたしたちの国土」
- (2) 育てたい児童の社会認識「人間の生きる姿」で単元観を短い言葉で表現する。

国土に対する愛情は、自然条件を克服し活用する人々の思いにふれることで育つ。

(3) 国土に対する愛情を育てるために

- ① 年間指導計画の改善
中学年で培ったふるさとに対する誇りと愛情を、第5学年での学習の土台とすることが国土に対する愛情を育てることに役立つ。中学年で既習事項と第5学年の校外学習や総合学習を5学年社会科の年間指導計画に位置づけた。
- ② 単元指導計画の改善
中学年学習を常に振り返りながら学習を進めていくために、本単元における学習内容に関連する香川県や大野原町に関する既習事項を単元指導計画に位置づけた。

3 ワークショップ

- (1) 本時にねらう児童の姿を提示

内容：沖縄の人の自然や文化に対する思いについて理解する。

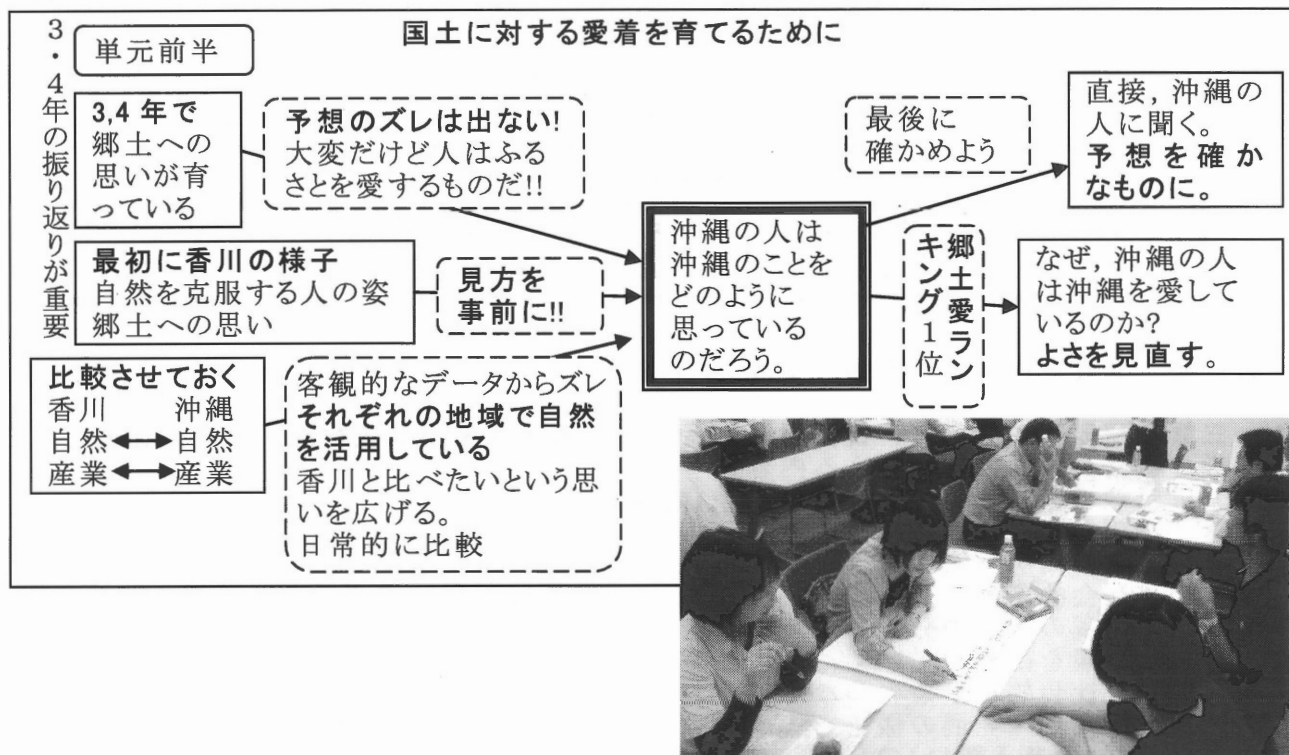
方法：大野原の人の自然に対する思いをたどることで目標へ行き着くようにする。

・わたしたちが、大野原の文化や自然を愛しているように、沖縄の人も自然を愛し、守ろうとしている、ということが分かりました。

(2) ワークショップのねらい

本時までの流れと本時の問いを作る。(自然は脅威もあるが、人々はそれに感謝して生活しているという内容で学んでいる。)

(3) グループごとに発表 (まとめると下図のようになる)



4 ご指導 観音寺市教育委員会主任指導主事 小西 寛先生

(1) 成果 ~内容は、私たちの国土。方法は、切実性。キーワードは、【系統性】~

- 5年生の社会科は壁。見たことも聞いたこともない地名を学ぶ。産業学習が中心。児童は、農業、食に対する意識が薄い。農家から農業へ、商店から商業への転換が難しい。
- これまでの中学年の見方や考え方を生かす。6年の世界につながっていく。「日本と同じで」「日本と違って」など。(比べる)郷土の見方や考え方を国土にも生かす。
- 問いの3条件。周縁性(事象の周り)矛盾性(ズレ)具体性(目で確認できる)へのこだわり。
- うまくいかなかった事例を示し、改善策を考える。(ワークショップに取り上げたこと)

(2) 課題

① 切実性のある問い

- ・ 事実を出しても矛盾にならない。前段階が大事。
- ・ 児童にどんな事実を与えるか。本時は客観的なデータの満足度ランキング。
→ 沖縄には、香川にない何かがあるのではないかな。その他、人口増加率。さあ、どこでしょうか。移住率は沖縄がトップ。なぜ、沖縄には人が定住していくのか。

② 社会科の本質とは何か。

- ・ 思いにまで迫らせたい。→単純に思いにまでいくのか。道徳に近くないか。道徳では、3,4年生での郷土への誇りを日本へ広げる。社会では、思いについては、あまり触れられていない。→肯定的な思いがあるのは前提。

③ 確実な検証の大切さ

あやふやで終わってはいけない。しっかり分かって終わる。ゲストティーチャー、現地へ行く。

【編集後記】

三観が大切に育てている問いへのこだわりが、脈々と受け継がれていることが伝わってきました。ワークショップも盛り上がりを見せ、先生方から意見を出していただくことで、内容も深まりました。今回の定例研で発表された先生方、観音寺市教育委員会主任指導主事 小西寛先生、お越しいただくことはできませんでしたが、貴重なメッセージを下さった香社研OBの田井秀典先生、ご指導ありがとうございました。(香社研事務局)

香社研だよりvol.4

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 徳田 仁 司
発行日 平成 24年 11月 24日

香社研テーマ

社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習
～教科書活用による社会科授業の日常化～

高松市社研テーマ

社会科の内容・方法の再構成の学習をふまえた「社会科ノート」づくり
—教科書活用による社会科授業の日常化—

10月定例会 高松ブロック集会（於：ふれあい福祉センター勝賀）

実践提案 高松市立栗林小学校 真鍋長嗣先生 高松市立一宮小学校 瀧義幸先生
高松市立川岡小学校 橋本英敏先生

第6学年 「今に伝わる室町文化」

1 提案の主張

- ① 自分の生活と歴史を結び付け、歴史により興味をもてる実践
- ② 児童の学習意欲を高める学習計画
- ③ 教材の本質を見極めるための教材構造図

① 自分の生活と歴史を結び付け、歴史により興味をもてる実践

6年生になって学習する歴史学習でも学習に対する興味・関心・意欲を大切にし、進んで調べ、他者との学び合いの中で歴史を学ぶ楽しさを味わわせたいと考えている。また歴史が過去の出来事として終わるのではなく、現在につながっていることをとらえさせ、より歴史に対する興味をもたせるために歴史と現在の生活や文化とのつながりを意識して学習を展開した。

② 児童の学習意欲を高める学習計画

教科書を概観し、金閣や銀閣などの建物が室町時代に建てられたことをつかませた。また、雪舟の水墨画や能、狂言、茶の湯、生け花などに触れ、自分のたちの身近なところで今も飾られていたり、行われていたりすることを確認し、パフォーマンス課題を設定することで、学習内容と表現の見通しをもたせた。室町文化が生まれた背景を探る学習では児童が作成した絵カードを使い、関係図にまとめるようにした。単元の後半には、学習参観で関係図の解説をしたり、学んだ文化に対する考えをもとに墨絵の体験活動をしったりすることを知らせることで学習意欲を高めていく工夫を取り入れた。

③ 教材の本質を見極めるための教材構造図

教科書や資料集の資料をしっかりと分析し、構造化して教材構造図を作成することで、目標と指導内容を教師自身がつかみ、指導に生かせるようにした。本単元では、室町文化に代表される金閣や銀閣、雪舟の水墨画や能、狂言などの文化について調べた後、それぞれの文化の特徴については、教師がしっかりと押さえた。文化が地方に広がっていった理由には、守護大名の台頭と文化の保護、地方の都市や交通の発達、応仁の乱による文化人の地方への移動などが考えられるが、それだけではなく、農民や町民の台頭、くらしの変化、人々の工夫などが地方に文化を生み出したり広げたりした原動力となったことを教科書の資料や教師資料として提示し、調べに生かすようにした。

2 討議内容

前時の授業で教師が用意した室町文化が生まれた背景のわかる10枚の調べ資料を使って、子どもが10枚の絵カードにまとめた。その10枚の絵カードを本時では室町文化が生まれた背景がわかるように関係図に表した。討議の中で参加された先生方に5名のグループになっていただき、子どもが作った関係図を実際に作って頂き、その作業から見えてきた成果と課題をグループごとに発表してもらった。それをもとに最後に授業者の橋本先生が自分自身の成果と課題を話した。

○ グループ討議

- ・絵カードが10枚では室町文化が生まれた背景を探るには不十分ではないか。
- ・10枚すべての絵カードを関係づけるためにさらに必要なカード（教師の提示資料）がある。
- ・関係図は矢印でつなぐだけでは関係性がはっきりしない。

→関係図で使った矢印の意味を書いておくといよい。

- ・学習問題を一貫して貫かせる工夫が必要。
- ・スタートとゴールのカードを決めておくという方法もある。
- ・室町文化は「おこり」とともに「広がり」もキーワードになってくる。
- ・考えの同じ子ども同士をグループにする方法もある。
- ・一人ひとりが資料の意味を理解しておかないと関係図に表すのは難しい。
- ・児童が考えにつまったら資料にもどる支援をするといよい。

○ 橋本先生からの成果と課題

【成果】

- ・室町文化と社会背景をつないで考えることができた。
- ・一人ひとりが関係図を作り、さらにグループで話し合ってまとめていくことで思考が広がったり、深まったりした。関係図作りが苦手だった子どももグループで作ることで文化の背景にせまることができた。
- ・一人が2枚の絵カードを作り、それを元に考えたので、どの子どもも意欲的に学習に取り組んだ。
- ・教材分析の際に他の教科書も使い、詳しく取り上げている内容に違いが見られたので資料として活用することができた。
- ・単元の導入で学習内容と表現方法を確認し、学習参観での発表に向けて取り組んでいくことを知らせていたので、学習の見通しを持つことができ、意欲的な取り組みが見られた。

【課題】

- ・グループでの話し合いの時に考えが同じ、または似ている子どもが集まったグループではなかったので、話し合いに時間がかかり、難しい活動となってしまった。
- ・関係を考える時間を短縮させるために、関係を考える学習を繰り返して行い、学習方法を身に付けさせることが大切である。
- ・教師が背景を考えるための資料を10枚用意したが、その資料が適当であったかどうか。背景をつかむのにわかりにくい資料もあった。
- ・関係図に表す際につないだ線にキーワードを書いている方が分かりやすいので初めにキーワードを書くことを指導する必要があった。
- ・カードに小見出しをつけることでカードの意味づけが明確になり発表を聞いている側も理解しやすくなる。

○ ご指導

【1】東部教育事務所 池田 茂樹 主任指導主事

①一人ひとりの関わりを大切にした授業作りを

- ・研究の成果をぜひ学校内に広めてほしい。
- ・知識伝達型の授業、活動にかたよる授業を見かける。決して作業が目的ではない。
- ・他社の教科書を分析することは重要である。

②一人ひとりの子どもの伸びを重視した授業作りを

- ・資料をもとに意味付け、根拠付けをしながら関係図に表す活動を子どもができるように支援してほしい。
- ・比較する「くらべて」関連づける「つながる」、「まとめる」などの言葉を子どもたちに教えるとよい。
- ・線の引き方を統一するとよい。
- ・子どもが自分の考えを表現できるようにするために系統的な指導が必要である。
- ・グループでの交流の成果が一人ひとりの考えに入ること、ようやく自分自身の文章が書けるようになる。その時に個人の考えに戻してあげるとよい。
- ・最後のまとめ方を子どもに提示していたので子どもが見通しがもて、とてもよかった。

【2】香社研OB、(財)日本教育公務員弘済会香川支部 支部長 植松 勝

- ・歴史学習は先人がどのように、その時代を生きたのかを、生き生きと教えてほしい。
- ・歴史学習は昔のことなので人物の業績を具体的に感動をもってとらえにくい。

織田、豊臣、徳川の3人を同時に扱い「天下統一の上で、どの人物が大きな役割を果たしたのか」という方法もある。

【編集後記】

今回は、高松社研の先生方による実践提案でした。子どもの思考操作を大切にして室町文化を学ぶ提案でした。実際に参加された先生方と共に操作をしてみると、断片的だった知識が徐々に関連的知識に変わっていく過程を体験することができました。歴史単元における画期的な提案だったと思います。

今回の定例研で提案された先生方、そして、御指導を頂いた東部教育事務所 池田先生、香社研OB 植松勝先生、本当にありがとうございました。

(香社研事務局)

香社研だより vol.5

発行者 香川県小学校社会科教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
会長 徳田 仁司

香社研テーマ

社会的な見方・考え方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習
～教科書活用による社会科授業に日常化～

丸社研テーマ

自分づくりの社会科学習
— 基礎・基本の定着と自ら学ぶ問題解決能力の育成を求めて —

11月定例会 丸亀集会 平成24年11月17日(土) 於: 岡田コミュニティセンター

＜実践提案＞ 丸亀市立岡田小学校 渡部 更治 先生

3年「はたらく人とわたしたちの暮らし — 店ではたらく人 —」

○主張点

- (1) 地元のスーパーマーケットを取り上げる
- (2) グループ見学による意欲化と思考の深まり
- (3) 社会参画につながる宣伝ポスターの作成

○本単元での取組

① 地元のスーパーマーケットを中心教材として取り上げる。

- ・一つの教材で、スーパーマーケットと近所の店の二つの要素が学べる。
- ・お年よりや車の運転ができない人たちが買い物できる店としてのよさが学べる。
- ・地域を大切に作る店長さんと交流することで地域の一員としての自覚や地域に対する誇りと愛情を育てることができる。

② グループ見学による意欲化と思考の深まり

- ・一つの売り場をじっくり見ることができる。
- ・主体的に学ぶ意欲や態度の育成を図ることができる。
- ・見学後、他グループと交流することで、比較・関連・統合する思考をさせることができる。

③ 社会参画につながる宣伝ポスターの作成

- ・発見したこの店の独自のよさをアピールする宣伝ポスターを作ることで、児童の社会参画につなぐことができる。

＜討議内容＞

① 地元のスーパーマーケットを中心教材として取り上げたことについて

- ・従来のスーパーマーケットの授業+αの授業と言える。物の売買は、心のつながり・心のやりとり・人と人のつながりでありたい。大型スーパーは、会話がない。地域密着のスーパーはお客様の願いと店の願いが繋がっている。大型スーパーとの大きな違いが「心」である。

② 意欲化と思考の深まりに関して

- ・小グループごとに、違った売り場を見学したことは、各グループにしっかり見学するという責任をもたせることになったのではないかな。
- ・地域密着型のスーパーであるこの店は、時間帯がキーワードではないか。午前中とか夕方とか、その時間帯に見学に行けば、もっと独自の工夫に気づけたかもしれない。
- ・集団の思考はできたが、個人の思考が薄かったのではないかな。既習したお客さんの願いを掲示しておくことで、見学後、スーパーの工夫と結びつけることができたのではないかな。思考操作の方法がいろいろあるので、授業の中で大切にしたい。
- ・小グループでの見学を実施しているが、店内図を用意し、各グループが見つけた工夫を貼り付ける。家庭での買い物の折など、各自で見つけた工夫をさらに店内図に貼っていく。そうすれば、もっと自主的な見学ができたのではないかな。
- ・大型スーパーと比較すれば、もっと地域密着型のこのスーパーのよさがクローズアップされたのではないかな。
- ・単元構成がよい。一次で、学習問題をもたせるのに役だった。
- ・空間軸・時間軸に焦点をあてると、学習が深まったのではないかな。空間軸を広げた場合、岡田の地図を広げ、このスーパーを見つける学習ができる。また、時間軸を広げると、このスーパーがない時、岡田の人はどんな店でどんな買い物をしていたのか学習ができる。

<当日店長さんに来ていただき伺ったお話>

- ・店では、「いい物を大切に」「仲間を信じる」「最後までやり遂げる」「人に優しく接する」ことを、従業員みんなで大切にしている。
- ・時代のニーズは便利な方向へ向いている。しかし、店の仕事上で便利さを追いすぎると、ぐうたらになると考える。手間を惜しまないようになっている。
- ・自分の店のよさを作っていくようにしている。例えばメーカー、問屋、農家などと対等な関係を大事にしていること、運送屋と連携し、お年寄りに喜ばれるような配送サービスを考えていることなどである。そして、お客さんが使い分けしてくれるような店作りを心がけている。



<ご指導>

◇香社研OB 香川 佳和 先生

- ・地域に根ざした学習は素晴らしい。よい教材と出会えたことは本当に素晴らしいことだ。
- ・丸亀には、ため池（大池）やうちわ、電照菊（綾歌町）などよい教材がある。よい教材は、素晴らしい実践につながる。
- ・体験活動、グループ活動、インタビュー、表現物にまとめることなど、子どもの好きな活動である。教師の深い教材研究やそういった活動を教師が熟慮の上取り入れることで、社会科好きな子どもが育っていく。

【編集後記】

実践で招いたスーパーマーケットの店長さんにお越しいただいての実践発表でした。それにより、我々もスーパーマーケットで働く人の生の声を聞くことができました。体験を通した意欲化により、子どもたちの学びが深まっていくことを紹介していただきました。今回の定例研で発表された先生方、香社研OBの香川佳和先生、ご指導いただき本当にありがとうございました。
(香社研事務局)

研究発表会浅野大会記録

記録者 高松市立一宮小学校 教諭 瀧 義幸

【提案発表】

大会提案 社会的な見方・考え表し方・在り方の学びを社会参画につなぐ学習
～教科書活用による社会科授業の日常化～

香川大学教育学部附属高松小学校 教諭 大嶋 和彦

浅野小学校提案 社会へ参画する資質や能力につながる学び合い
～集団と個のかかわりによる言語活動を通して～

高松市立浅野小学校 指導教諭 森田 留美
教諭 宮脇 好美

講演

演題「よりより社会の形成に参画する資質や能力の基礎をはぐくむ社会科の授業づくり」

講師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 澤井 陽介先生

〈はじめに〉

〈生活科における気づきの階層性〉

〈社会参画について〉

〈言語活動の充実について〉

〈問題解決のための思考力判断力表現力〉

〈思考力判断力表現力の育て方〉

〈社会参加に向かう子どもを育てるために〉

〈予想を現実に近づける〉

〈パフォーマンス課題〉

〈調べたことをもとにして考える〉

〈見方や考え方を使って考える問い〉

〈評価について〉

〈まとめ〉

板書

「考える授業」

- ① 学習問題や発問—「何」を考えるか。
- ② 予想—主体的、問いの具体化
社—
- ③ 情報の焦点化→話し合い

「よく分かる授業」

- ①体験と資料活用—具体的な事実
- ②言葉の意味
- ③ふりかえり
- ④全体（地図、年表、関係）を

* 逐語録はP64～P76に掲載しています。ご参照ください。

学年別分科会 第3学年I

単元名 わたしたちのまちみんなのまち ～十河校区から高松市へ～

主張点

生活科と社会科学習の連携を大切にした課題づくりをすることで、市から学校の周り、学校の周りから市への広がり意識した学習過程を構成する。

提案者	森口 英樹（高松市立十河小学校教諭）
提案協力者	白川 由美（高松市立多肥小学校教諭）
	池田 康輔（高松市立川東小学校教諭）
指導者・助言者	岡本 英孝（高松市教育委員会学校教育課指導主事）
司会者	増田 泰己（高松市立木太小学校教諭）
記録者	篠原 裕之（高松市立大野小学校教諭）

【提案】

本単元では通常、身近な地域の学習をした後に、さらに広い市全体の地域へと学習対象を広げていく。しかし、今回は生活科での経験や生活体験を既存の知識として活用するために、行ったことのある場所などの情報をもとに、最初に高松市全体をとらえた。その後高松市の一員であるという自覚をもとに、十河の地形を調べていった。大きな視点から小さな視点へ、あるいは小さな視点から大きな視点へ、というのが今回の実践の大きな特徴である。

高松市と、十河の特徴を調べた後、白地図作成を行ったが、非常に難しく、空間認識の苦手な児童はなかなかうまく書けなかった。そこで航空写真を活用し、地図記号を入れながら絵地図を作成していった。高松の地形を知った後で十河の地形を調べたので、十河校区の地形と高松市の地形の特徴が似ているということに、子どもたちは気が付くことができた。

【討議】

・考えたり発表したり話し合ったりしていくことで、生活科から社会科につなげていくというのが参考になった。

・三年生になったばかりの子どもたちが、地図を描いていくために、航空写真を使うなどの工夫があり、とてもよかった。子どもの様子をよく見て、子どもの社会認識に応じて授業計画を修正していくことも大切だと感じた。

【指導助言】

子どもたちの生活経験をもとに、高松市の概略を単元の最初にとらえ、その後十河校区の学習をする。その時に、高松市になにがあるか、十河校区はどこかという意識を子どもたちがもって学習をしているのに意味がある。子どもたちは、校区の学びと高松市の学習を結びつけることができていた。また、絵カードを航空写真に貼り付けることで、子どもたちはイメージ豊かに学習ができる。こういった学習を通して、地域の一員であるということ子どもたちは意識していくことになる。

学年別分科会 第3学年Ⅱ

単元名 はたらく人とわたしたちの暮らし ～店ではたらく人～

主張点

「空間軸」「時間軸」からスーパーマーケットで働く人の工夫を再構成の学習で探り、社会を多面的・多角的に観ることができる児童を育成する。

提案者 坪井 孝明（高松市立鶴尾小学校教諭）
提案協力者 高木 恭子（高松市立太田小学校教諭）
網野 未来（高松市立香西小学校教諭）
指導者助言者 岡本 英孝（高松市教育委員会学校教育課指導主事）
司会者 増田 泰己（高松市立木太小学校教諭）
記録者 篠原 裕之（高松市立大野小学校教諭）

【提案】

本単元では、キャリア教育の一環として「働くことの尊さ。人の役に立つことの素晴らしさ。」を伝えようと考えた。なぜマルナカに「1日7000人のお客さんが来るのか」働く人の秘密を調べ、秘密ブックを作りおうちの人に伝えるという、パフォーマンス課題を作成した。課題設定までに時間を費やしたので、子どもたちの学習意欲が高くなったと考えている。

子どもたちから見たスーパーマーケットをとらえる目を調べると「おいしい。たくさんの物がある。」という考えだった。もっと多面的多角的に捉えさせたいと考えたので、「物」ばかりに注目するのではなく「人」に注目をさせた。視覚にうったえる売り場の工夫は、空間軸でとらえる。一方働く人の工夫は時間軸でとらえる。2つの軸をまとめていくことで、多面的多角的にとらえられると考えた。

本単元の学習の終わりには、子どもたちに『消費者』としての今日からの自分の在り方と、『社会人』としての将来の自分の在り方について問うた。子どもに豊かな勤労観・職業観を育ませるための第一歩の単元だと考えていたので、子どもたちにうっすらとだが、将来への見通しをもたせることができたのがよかった。

【討議】

- ・空間軸・時間軸という見方はとても良いと思った。「水はどこから」の単元でも同様のことがいえると考えた。社会科の大切なものの見方なので子どもたちに伝えていきたい。
- ・子どもたちにとってより興味深い課題となるように時間を割くことの大切さを感じた。

【指導助言】

スーパーマーケットの学びでは空間軸と時間軸の2つの視点があることが素晴らしい。指導案を見ると朝昼夜によって、売り手と買い手の気持ちが一致していることがわかる。売り手は買い手の気持ちを大切にしながら仕事をしていることがよくわかる。また、学んで終わりではなく、学んだことから、「自分はどうするのか」というのは大切な視点である。

単元名 「水はどこから」

主張点

子どもの社会認識を深めるためには、事実を根拠に考えを交流させることが大切である。

- (1) 社会認識を深めるために事実を丁寧に獲得する。
- (2) 表現活動を通じて、中心概念へたどり着かせる再構成の授業

提 案 者 大平 晃司（観音寺市立高室小学校）
協 力 者 出濱 大資（観音寺市立観音寺南小学校）
協 力 者 泉宮 広也（三豊市立高瀬小学校）
指導・助言者 寺嶋 俊秀（香川県教育委員会西部教育事務所主任指導主事）
司 会 者 深川 隆（観音寺市立常盤小学校）
記 録 者 鹿児島 勝（さぬき市立富田小学校）

【提案】

子どもが現在持っている素朴な知識や概念をもとにして、それらを比べたりつないだりすることを通して考えを交流させることにより、社会認識を深めることをねらいとした再構成の学習を香社研として挙げている。そこで、本実践では茂木浄水場で働く人々の仕事について、取水に気を配り水の安定供給を図ろうとする努力について理解するために再構成の学習を実施した。

再構成の学習を進めるにあたって事実の獲得を丁寧に行うようにした。その結果、どの子どもも何らかの根拠を挙げて自分の考えを述べるができるようになり、話し合いの内容を深めることができた。また、本時においては浄水場の人たちが一番気を付けていることを二度問いかけた。それにより、一度目は浄水場の仕事の内容を簡単な言葉で表すことができた。二度目には自らの立場を正当化させるために既習事項とつなぎ直そうとする姿が見られた。考えの交流を通して自分の思いを強くしたり、考え直したりすることができ、社会認識を深めることができた。

【協議】

Q 一回目の問いは提案通りの発問であるか。少し言い方を変えたから二度目の発問で子どもの意識が教師の思う方へ流れたのではないか。

A 提案通りの発問である。意図した方へ子どもの意識が流れたのは「人」に注目して調べを進めてきたからではないかと思う。

Q どのように大川村の様子を伝えていったのか。

A 小学生の作文を紹介し、当時反対運動があった中で離れなければならない思いや離れるからには役立つものを作ってほしいという願いを考えさせるようにした。

Q 他地域の浄水場を学習してから茂木浄水場への学習につなげて比較できるようにすると「取水」に意識を絞れ、子どもたちの認識を深められたのではないか。

A 他の地域と比較することもよいことだと思う。「水の安全」へ子どもの意識が流れがちであるが、比較することは大変良い方法だと思う。

【指導助言】

社会科の学習には3つの層がある。一つ目は「知る」層、二つ目は「わかる」層、三つ目は「生きる」層である。この3つの層を通して子どもたち一人一人がわかる喜びを感じられるような授業づくりをしていく必要がある。

授業づくりの問題点として学習問題を教師から一方的に子どもたちへ投げかけがちになるということが挙げられる。今回の実践の実践では教師がしっかりと教材研究をして社会事象との出会わせ方を工夫し、得た知識を集約・整理していくことを目指して再構成の授業をしていた。より焦点化された価値のある学習問題を作っていく上で有効である。ただし、教師主導ではなく、子どもたちと一緒に学習問題を作り上げていくことが重要である。

単元名 「ごみの処理と利用」

主張点

思考力の育成を目指した学習プラン（社会へ参画する能力）の開発

- (1) 教科書・副読本を活用し、基本的社会認識を共有化する。(教科書用語の精選)
- (2) さぬき・東かがわ市の教材を通して地域に即した課題を解決する学習力
- (3) 社会参画への取組み（関係団体との連携を通して）

提 案 者 原井 和彦（東かがわ市立引田小学校）
 協 力 者 白澤 一修（東かがわ市立三本松小学校）
 協 力 者 藤澤 大地（さぬき市立志度小学校）
 指導・助言者 寺嶋 俊秀（香川県教育委員会西部教育事務所主任指導主事）
 司 会 者 深川 隆（観音寺市立常盤小学校）
 記 録 者 鹿児島 勝（さぬき市立富田小学校）

【提案】

さぬき・東かがわ地域にあるごみ処理施設は一般的なごみ焼却施設とは違い、ごみを溶かすことで100%再資源化している。見学後、燃えるごみと燃えないごみを混ぜて焼却していたことを論点にしながら、分別する必要があるのかというテーマで話し合い活動を行った。サイクル図を用いて紙が再生紙になることと、混ぜたごみがスラグとメタルになることを比較することで、分別をすることがいろいろな資源の再利用につながることを気づかせることができた。話し合い活動を通して分別し、資源を確保していくことが「持続可能な社会の実現」につながることへの理解を深めることができたと思う。

また、本単元の初めに単元を貫くパフォーマンス課題を設定し、市役所の人に意見を提案しようという課題を持たせることで、最終的なイメージを持ちながら学習に取り組むことができた。

【協議】

Q サイクル図にリサイクル工場と書いてあるが、今回の提案のごみ処理場にはないのではないかと。

A ごみ処理場に隣接してペットボトルのリサイクル施設がある。子どもがイメージしやすいようにそのような書き方をした。

Q サイクル図はごみ処理の流れがよくわかり、大変良いと思う。実際の授業の中で自分ならスラグ・メタルの所に×の印を書かせるようにするが、どのように子どもたちが学習を進めていたか。

A 細かいところまでは全体で押さえてはいなかった。グループの話し合いの中で気づいたことや分かったことを子どもたちそれぞれで書きこみ、話し合い活動を行った。リサイクルの流れを確認する時間はその後、学級全体でとった。

【指導助言】

子どもたちに事実を獲得させる時に大事なことは、特にごみ問題のような単元の場合には住民の立場や行政の立場、社会の中のさまざまな立場の事実がわかるような資料を用意し、さまざまな立場に立って教材研究した上で子どもたちにステップをふみながら伝えていくことである。さらに、公共的な事柄であればごみ問題に関して計画的に行われていることや、協力的に行われていることにも目を向けさせ、具体的に事実を獲得させていく必要がある。

また、社会を多面的に見るようにさせるのも重要である。他地域との関係から出てくる広がりで見ることや、事件経過を追って見るような歴史的に見ること、人々のくらしの実態から公民的に見ることなどである。

そうして確実に具体的な社会生活の理解をし、互いにわかったことを交流したりまとめたりすることで自分の考えを深めることにつながっていくのである。

最後には子どもたちがまとめの段階で、「～が便利である。」「～が役に立っている。」「～は重要である。」というようなことを、学習したことを生かして表現できるように目指していく必要があるのではないかと。

学年別分科会 第5学年 I

単元名 「わたしたちの国土 ～国土の気候の特色と人々のくらし～」

主張点

- 問題解決的な学習問題にすることにより、分かる喜びがより実感できるであろう。
- 体験的な活動を取り入れることにより、分かる喜びがより実感できるであろう。
- 教材や資料の提示を工夫すると、分かる喜びがより実感できるであろう。

提案者 福家 寿夫（坂出市立東部小学校 教諭）

指導者 池田 茂樹（香川県教育委員会 東部教育事務所 主任指導主事）

司会者 河野 富男（坂出市立瀬居小学校 教諭）

記録者 渡辺 裕子（土庄町立四海小学校 教諭）

【提案】

1 研究主題

問題解決的な授業を作り上げることで、児童一人一人の「どうして」という疑問を解決していく。体験的な学習や、追求意欲を持続させるような資料を提示することで、知識・理解・技能を確実に習得させ、よりよく世間を生き抜く力を育むことを目指す。

2 研究内容

まず、沖縄県の気候や家の特徴を話し合った際、沖縄と既習の北海道や瀬戸内式気候のグラフや写真を比較することで、沖縄の特徴を捉える有効な支援ができた。活動の中で、降水量が多いのにも関わらず、沖縄の家にはタンクが多いことに気づき、「どうして、降水量は多いのに水不足なんだろう。」という新たな疑問がうまれた。“ノートづくり10か条”の学習ルールに従い、予想や理由をまとめ考えを深めるなかで、「沖縄は山が低く、川が短いのでダムなどで水を溜めておくことができないのだろう。」という意見に達した。それを検証するため、①高い山があり面積が広い模型と、②高い山がなく面積が狭い模型を用意し、水のたまり具合を比較した。水がたまらず、すぐに流れ落ちてしまう②の模型を見た児童から、「これだと沖縄は水不足になってしまう。」という声上がり、実感に伴う理解ができた。

【協議】

Q 各地域の特色を活かした授業作りをしているかどうか。

A 地域教材に力を入れたいが、時間的な問題で十分できていないこともある。しかし、教科書だけの学習では実感が伴わないため、地域教材と教科書の両立が重要である。

A 地域教材を扱うことが、地域好き・社会科好きの子どもを育てる基礎となる。そのため、まず教師が地域のことを十分知っておかなくてはならない。どんどん現地に足を運ぶべきである。そして、児童に五感を持って体験させるとよい。しかし、目的意識が曖昧では見学や体験活動が無意味なものになってしまうので、児童に目的意識を明確に持たせ、児童が自分の生活につないで考えたりまとめたりしていくとよい。

【指導助言】

◎教える内容の明確化

土地の比較ができる模型を使い予想を検証したため、児童の実感を伴う理解に繋がった。

◎内容の取り扱いについて

沖縄と他県を比較する際、事例地は意外性の事実を見つけられるような気候条件を選択するとよい。3・4年生での既習事項が基盤となるので、丁寧に学習を進めたり、内容の系統性を十分理解しておいたりする必要がある。

◎問題解決的な学習

作品作りや学習発表会が学習の終着点となりやすいが、予想・見通しをもって調べ振り返ることができていたため、学習問題に沿った学習活動が進められていた。今後、学習問題の質を高めたり、思考が十分にできる内容になっているかを吟味したりすれば、さらに活発な学習活動を繰り広げることができる。

◎表現の仕方

課題に対する理由や自分の考えをノートに書く時間を十分に確保できればよかった。“ノートづくりの10か条”で学習のルールが定着しており、意見が途中で変わっても最初の意見を消さずに鉛筆で線を入れたり書き加えたりする「見え消し」の方法は振り返りができるノート作りに繋がるのでよかった。

- 教科書の進める順序を組み替えたり、資料の提示を工夫したりすることで、児童の疑問を引き出し、問いを追求したいという気持ちを高めながら、主体的な学習を進めることができる。
- 体験したことや調べたことを思考図で構造化することで、社会事象の意味を理解できる。
- 将来にわたっての自分なりのかかわり方を考えることで、社会に参画する資質や能力の基礎を養うことができる。

提案者 轟羽 美緒（土庄町立土庄小学校）

指導者 池田 茂樹（香川県教育委員会 東部教育事務所 主任指導主事）

司会者 河野 富男（坂出市立瀬居小学校 教諭）

記録者 渡辺 裕子（土庄町立四海小学校 教諭）

【提案】

1 研究主題

子どもたちの食生活に目を向けさせ、写真やグラフなどの資料の読み取りを行なう。児童からの問いを大事にし、思考図にまとめることで学習した知識や考えを明確にしていく。「考えをまとめる」段階では、魚を普及する活動を設定することで、主体的に社会に関わる児童の育成に努める。

2 研究内容

日本は漁場に恵まれていることを知り、日本の漁の調子は絶好調だと児童の予想は全員一致した。しかし、「漁業別の生産量の変化」のグラフから生産量が減っていることを知り、自分たちにできることをしたいという学習課題がうまれた。教科書の順番を組み替えることで、児童自らが次々に疑問を持つことができた。疑問を解決するために漁港に見学に行き、工夫と課題を思考図にまとめることで学習意欲の継続が見られた。学んだことをもとに、漁業を盛んにするため様々なPRを考え実践することで社会に参画しようとする姿が見られた。

【協議】

Q パフォーマンス課題の書き方をどうして渦巻き状にしたのか。他の思考図の種類が知りたい。

A 学習を進めていくと、前時に戻ったり違う方向に流れたりするが、渦巻き状に書くことで今何の学習をしているか、どのように進んでいくのか学習の見通しが持ちやすくなる。

A フローマップが基本形で、自分の考えを中心として広げていくマインドマップなどもある。

【指導助言】

◎教える内容の明確化

教科書を組み替えることで児童に疑問が生まれ、スムーズに学習課題を作ることができていた。

教科書の組み替えは、どんな力を付けさせたいのか、何を考えさせたいのかななどを明確にして、入れ方やタイミングをはかる必要がある。また、地域教材を入れる方法もある。

◎内容の取り扱いについて

児童の興味・関心や学習の広がりを感じられた。今回の学習の中に、「経済」「価格」「交通網」の視点も盛り込まれていたら、更に学習を広げることができた。

◎問題解決的な学習

「沿岸漁業を盛んにしよう」というパフォーマンス課題を教室に掲示し、常に学習課題を振り返ることができたため、①方法②見学③意見文の学習の流れが揺るぎないものになっていた。

◎表現の仕方

情報量が非常に多いため、授業時間内でまとめきれないこともあった。家庭学習の時間を効果的に使うと整理しやすくなる。一人一人が考えたことをサークルマップにまとめていったことは、分かりやすくよい。

◎伝え合う方法

サークルマップで調べた内容や考えたことを関連づけたことで、学習内容が定着できていた。そのため、意見文を書く活動にスムーズに進むことができていた。しかし、思考図にまとめていくと、教師側は分かりやすくまとめることができたと感じるが、中には、関連性が見いだせなかったり、学習内容が理解できなかったりする児童もいるので、学習内容を再構成する時間や手立てを用意するとよい。

- ① その時代の人々が直面した課題についての解決方法を、既習事項とつないで意思決定する場を設けることで思考力・判断力が育てられる。ひいては、「社会参画」の力をつけることにつながる。
- ② 関係図や仕組み図等を使ってイメージを膨らませ、比較したり、類別したり、関係づけたりすることで、事象の特色を明らかにできるとともに、思考力を育てることもできる。
- ③ 子どもの「なぜ？」を引き出す学習材の提示から学習問題を設定することで、「どうしてこうなったのだろう？知りたい！」というように追求していこうという意欲が高まる。

提案者 長沼 裕子（丸亀市立城辰小学校）

協力者 多田 明広（丸亀市立城西小学校）

多田 啓介（丸亀市立城西小学校）

助言者 川上 り彩（香川県教育委員会義務教育課 主任指導主事）

司会者 篠原 正義（多度津町立四箇小学校）

記録者 櫻井 道芳（丸亀市立飯山北小学校）

【提案】

1 研究主題

丸亀社研の研究テーマは「自分づくりの社会科学習」である。「自分づくり」とは、「自己形成」のことであり、学習指導要領でいうところの「生きる力」を身に付けた児童の育成を意味する。丸亀では、「社会参画」と「意思決定」をキーワードに研究を進めてきた。「意思決定」は、歴史の中に身を置き「自分だったらどうするか」と考え判断する学びであり、このことは、思考力を向上させるとともに、将来において価値を判断したり問題を解決したりする力、つまり社会参画する力の基礎になると考える。

2 研究内容

本単元を通して児童に意識させたのは「土地」ということである。武士にとって土地が大切であることを実感させるために、実際に土地の開墾を行った。この時の思いが、単元を通して子どもの中に残り武士にとって「土地」が大切なものであることを意識できた。また、幕府、朝廷、武士団の構造をイメージすることができるように仕組み図を活用した。この仕組み図を利用することで、源氏と平氏の違い、朝廷と幕府の違いを明確にでき単元が進んでいく中でもそれぞれの関係性を振り返ったり、武士の気持ちにせまったりすることもできるようになった。本時では、意思決定の場をもうけ、「自分だったら」と考えることで、価値を判断し問題を解決する力、つまり社会参画への基礎を養いたいと考えた。また、学習問題の設定では、たった3か月で源氏の兵力が大幅に増えた事実を与えることで、児童の「なぜ？」「考えたい」という意欲を喚起することができた。

【協議】

Q 本時を取り扱う際には、教師がこの問いに対する事実をしっかり持つておく必要がある。この問いに対する答えはほかにもあるように思うが？

A 多くの武士が頼朝についた理由には、土地を守ってくれるという理由に加えて、東国の武士が義朝とながっていたこと、以仁王の命令などがあったと考えられる。しかし、本単元では「土地」をキーワードにしたかった。

Q 仕組み図を用いられているが、子どもたちはどのような流れでそれを作ったのか？

A 一斉授業の時に、子どもとのやり取りの中で作っていった。

感想 意思決定を迫る際にはどうしても感情論になってしまう。本時の場合は、当時の武士にとって「勝つこと、負けることの意味」を明確にしておけばよかったように思う。

【指導助言】

それぞれの郡市の取り組みを聞いて、単元全体を捉えた教材研究の大切さを改めて実感した。今回の単元では、「土地」をキーワードにして、土地を介した「御恩」と「奉公」を理解するということがこの時代を認識するために必要なことだと思う。その土地について、模擬体験を通すことで子どもたちがその大切さを実感できたのではないだろうか。

学習問題を設定する際には、子どもの予想と歴史事象との間のズレを利用することが大切であり、本時はまさにその通りの授業である。学習の課題が見つかったなら、次に必ず子どもに予想を立てさせることが必要である。そして、その予想を確かめるために何をどのように調べたらよいかという道筋を考えさせていくことが大切である。つまり、「学び方を学ぶ」ということであり、これが結果的に社会参画につながるのではないだろうか。

子どもたちが、考える際には情報が必要である。教師がどのような情報を提示するかは吟味する必要がある。また、同じ資料を根拠に自分の論を展開する際にも、意見が異なる時がある。そのようなときには子どもにその資料についての解釈の仕方を語らせる必要がある。そのような授業を通して、最初の自分と授業後の自分でどのように変わったのか、または、考えが深まったのかという思考の後をノートに残しておくということは大切にするべきだ。

思考力を高めるための関係図（主従関係を図に表した）の活用

提案者 渡部 岳史（琴平町立琴平小学校）
協力者 石井 英樹（まんのう町立満濃南小学校）
香川 卓也（善通寺市立東部小学校）
助言者 川上 り彩（香川県教育委員会義務教育課 主任指導主事）
司会者 篠原 正義（多度津町立四箇小学校）
記録者 櫻井 道芳（丸亀市立飯山北小学校）

【提案】

1 研究主題

本单元では、支配者と被支配者の関係を常に意識させるために、関係図を活用した。平氏と武士、源氏と武士、元寇後の北条氏と武士というように、单元を通して関係図を活用することで支配者と被支配者がどのような位置関係であったのか、前の関係図と比較することによって、何が変わったのかに気づくことができる。また、関係図を活用することで、幕府の仕組みだけではなく忘れられがちな朝廷の存在にも注目させることができる。と考える。

2 研究内容

本单元を通して支配者と被支配者との関係性、そして「なぜ、元寇後に勢力をのばしたにもかかわらず幕府は滅びたのか」ということを考えさせたかった。そこで、支配者と被支配者、幕府と朝廷の仕組みを表す関係図を单元を通して活用した。たとえば、平清盛と武士との関係図を表した際には、頂点の清盛の下には何がくるか、その下にはなにか、というように段階的に話し合わせることで関係図を作った。また、源氏と平氏の関係図を比べることで視覚的に違いが子どもたちにもわかりやすくなった。

元寇後では、「北条氏が勢力をのばした」とことと、「幕府が滅びた」という子どもの意識のずれを利用して「根は幕府がほろんだのか」という疑問をもたせることができた。その際にも、幕府の関係図を作成するだけではなく、朝廷側の関係図も作らせたことで、不満をもった武士たちが天皇のもとに集結したということにせまることができた。

【協議】

Q 单元計画を見ると、教科書と少し違うように思えるが、どのようなところを工夫したのか？

A 承久の乱と幕府が滅びる場面を1時間ずつ増やしたが、後は教科書の流れどおりである。

Q 関係図を作る時に、「武士」などの項目の大きさをどのように意識させたか？

A 黒板にかく際のカードの大きさは同じにしたが、力関係を示すために支配者に近いものが力が強いなどの段差をつけた。

Q 視覚化すると関係性がよくわかったが、全体で1つの関係図を作った後、もう一度どのような形で個人にフィードバックしたのか？

A 子どもが書いた関係図を数名が発表したのち、教師が一斉授業の中で1つに集約していくので、子どもの中には自分の意見が少しずつ取り入れられている意識があったのではないかな。また、できた関係図をもう一度ノートに書く場面もあった。

Q 関係図を作る際には、教科書の他に何か有効な資料を使ったか？

A 基本的には、年表、地図、絵図である

【指導助言】

鎌倉幕府が成立した際、朝廷が消えてしまったと勘違いしている児童や教師が多い。本実践では、朝廷が残っていることに目を付けたおかげで、承久の乱、幕府の滅びまでつなげることができたと思う。関係図を作成する際には、もちろん一人一人によってできる関係図は異なってくる。その際には、「その矢印の意味は何か？」「なぜ、この段差をつけたのか？」など、その関係図が表すものを理由をつけて述べることで、児童の思考が深まる。思考が深まると、必ず自分にもう一度フィードバックする必要がある。

中学校では、時代の転換期・歴史の大きな流れの変化を捉えさせることが重要になる。鎌倉時代は、中学校では中世として教えられる。その時に、このような実践を積んでいると、その時代がどのような時代なのかを表現できる子どもが育つ。

研究発表会浅野大会講演記録

演題「よりより社会の形成に参画する資質や能力の基礎をはぐくむ社会科の授業づくり」

講師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 澤井 陽介先生

〈はじめに〉

改めましてこんにちは。今日は朝から社会科づけ、何より本校は学校中社会科だらけ、そして教室も社会科だらけ、大変うれしくなるような学校なんですけども、一年中そうではありませんね。こういう学校が一つでも二つでもできることを願っているのですが。授業についても先生方大変頑張られて、子どもたちが活躍する授業ができていたなあ、って思います。こういう子どもが活躍する授業は社会科だけでなく、いろいろな教科の中で子どもたちが発言する積み重ねがないと、いきなり見せるための授業はできない。言ってみれば、本校の先生方は社会科の研究もさることながら、すべての教科で子どもたちを大事にする授業をされているのだろなあ、というそんな思いを見させていただきました。

〈生活科における気づきの階層性〉

1年生の生活科の幼稚園との交流を見させていただきました。みなさん、幼稚園の教育要領の改訂の中身をご存じある方とない方とあるかもしれませんが、こんなことも幼稚園の改訂の中に書かれていて、子どもや社会への変化への対応という柱だったりするのですが、その中に多様な体験を重ねる中でそれらの一つひとつの関連性をはかること、言葉による伝えができるようにすること、これは自分の思いと書かれています。それから領域がいくつかありまして、他の児童との考えにふれ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにする、と書かれていますね。小学生が考えるために幼稚園生と交流するためではなくて、幼稚園生も大事なんです。考えたことを表現する。そして関わりあう、このことが求められていて、まさに浅野小学校の副主題なんですけど、こういうことが求められているということがわかります。それから生活科の授業もそうなんですけど、まあ、ほんの少しずつなんですけど、見せていただいて、子どもたちが体を動かしながら、生活科っていうのは体験と表現というのが一体化している。表現についていえば思考と表現も一体的に表れている、ということがよくわかる。

生活科についても、何が一番に変わったかという内容の8が入ったと私はそう思うんですよね。社会科でいうと、働く人、人間をクローズアップするというか、社会科とつながるなあ。人と社会と自分との関わりが出てきますから、内容の8がですね。自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動、言語活動の充実が入った表現活動の重視なんですけど、とうぜんながら生活科は言葉だけの表現ではなくて、様々な多様な表現活動ということを想定しているのですが、その中に今度は香社研のですね、全体テーマにかかわるような説明があるんです。これも注目していただきたいんですけど、生活の気づき、お読みになった方もいらっしゃると思うんですけど、気づきは対象に対する一人ひとりの認識であり、児童の主体的な活動によって生まれる。知的な側面だけでなく、情意的な側面も含まれる。また気づきは次の自発的な活動を誘発する。気づきということを説明しているんです。イコール認識なんですかって、みなさん思われたかもしれませんが、ここに対象に対する一人ひとりの、言ってみれば共通認識以前の子どもをとらえる、なんですね。そして生活科の先生方は気づきによって構えが作られて、その構えによって何に気づくかが違いが出てくる。気づきの階層性ということです。段々深まって

いく。それを見つける、比べる、例えるという、こういう活動を大事にしてください、ということを説明している。を見つける、最初の出会いですよ。今度は比べる、別のものと比べる、そういう授業をしてくださいね。素敵な人、最初に出会った、もう一回振り返って、ほかの人と比べたら素敵な人、そして例える。どういう言葉で子どもが変わっていくかですけど、そんな風にして気づきの質が高まる。

〈社会参画について〉

構えができて、次の活動を誘発すると言ったら、言ってみれば社会科の、県社でも取り上げられている社会的な見方や考え方と似ていると思いませんか。あることを理解したら、その理解でもって別のものを解釈しようとする。いやそれでは解釈できないから他の知識とか見方とか、考え方を交わせながら考えていく、ということなんですけど。これ、やはり、見方や考え方が、知識理解と言ってもいいのかもしれませんが、子どもたちが獲得することで次の事柄に向かっていくという。これはですね、こんなことを考えているということで紹介したいと思うのですが、参画ということは行動実践すぐするということを求めているのではないんですね。でも行動実践する子どもに育ってほしいという願いは私たち教師は持っていますよね。何も教室の中で理解して頭でっかちになってほしいわけではなくって、実際に行動する子どもになってもらいたい。だけど、現実社会は大人の社会ですから、自動車にすぐ乗るわけでもないし、選挙にすぐ行けるわけでもないし、そうなる将来に向かって未来に向かって考え続ける。その時今できることは、もう少し広い社会に向けて関心を持つとか、あるいはなぜだろうと、問いかけたり、その意義を考えたりするというのは、これは参画という言葉は大げさかもしれませんが、関わろうとする姿ではないですかね。むしろその逆は無関心ですよ。全く興味を示さない、どうでもいい、自分には関係ない。これは参画には程遠い世界になりますから。

私は社会的な見方や考え方、どういう理屈付けをするかは別として、学者、研究者の先生方がいろいろな分析をされてますし、今回では見方と考え、表し方という思考表現を一体化したとらえ方で独特の言葉が使われていますから。それもまた一つですね。唯一正しいのはこれですよ、というよりはみんなでいろいろなこと考えた方がいいんですね。でも、まだ目標書かれたり評価基準になったり、全員一律でこういう子どもを育てましょう、というものではない。子ども一人ひとりの中に長いスパンで育っていきますよ、というものですから、これは社会科を愛する一人としてじっくり考えていきたいなあ。

〈言語活動の充実について〉

今日はそんなことも含めて、ちょっと大きいテーマなのですが、よりより社会の形成に参画する実践および基礎、これを明確にとはいえないかもしれませんが、こんなことが大事じゃないかということをお話ししたいと思います。よりより社会の形成に参画する実践および基礎を考えていきたいと思います。ことなのですが、まずは小学校と中学校の社会科の共通課題ということなのですが、これは学習指導要領に戻ります。①基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得、②言語活動の充実（思考力、判断力、表現力の育成）、③新しい課題への対応と社会参画、④社会的な見方や考え方の成長、小学校と中学校の課題と言いますが多くは高校を含めた社会科の課題で、最後学習指導要領改訂では学習評価の改善、これ全体像です。これをまんべんなく話をしようというつもりはないんで、例えば基礎的な知識が大事です。これはもう当然。47都道府県、今回は強調された部分もありますから。これは申し上げなくていいんじゃないかと。

言語活動の充実、もうこれも当然。時間が足りなくて言語活動の充実ができませんという質問を結構言われる時があるんですけど、例えば社会科の授業を思い浮かべたときに言語活動以外に何をしています

かね。観察とか、見学とかあるかもしれませんね。でも言語活動って、話す聞く読む書くですから、言語活動の充実って言ったときに、言語活動に時間がありません、何か特別なことをしなくちゃいけないと、こう思ってるんだと思うんです。討論、話し合い、発表会、日常の授業改善なんですよ。だって理解も思考も言語によってなされるじゃないですか。関心だって言語によって表現されるわけでしょう。態度だって後ろから追っかけて見るわけではなくて、態度に向かう心情とか愛情とか、関心とか、そういう内面を評価しているわけでもんね。そういう風に考えたときに言語活動の充実ができませんってことは、授業の改善ができませんって言っているとのニアリー、イコールですよ。こういう風に考えた方がいいんじゃないでしょうか。むしろ子どもの言語活動が充実できなかったら、そうしたらですよ、その分教師が言語活動を行ってるんじゃないですかね。言語活動してはいけないってことではないですけど、子どもの主体的な活動ですよ。主体的な活動を目に見える形で改善していきましょう。そして知識も理解も思考も関心も、資料活動だって、資料だけでなく言語に表現したり説明したりすることまで含めると、学力を高めていくことのキーワードなんです。こういうことでとらえたほうがいいと思うんですよ。

言葉と体験というスタートラインがあって、言語力、国語力なんて言う軸がありますでしょ、これが最後どうなったかという総則の中に言語に関する能力を育てるよう、言語環境を整える。言語環境はというと教師の言葉、子どもの発言、掲示物、表現、校内放送、ありとあらゆることが含まれる。だからこれはすべてなんです。言語活動で子どもの読む書く聞く力を育てましょう。国語だけではないんですよ。ここのところは、言語活動は国語は目的で社会科は目的ではありません、社会科は手段です。これは正しいんですけど、でも手段ですが、先生方普段授業に取り組んでいてわかるように学習スタイルは社会科の時間においても指導するんじゃないですかね。指導しなきゃ、育たないでしょ。つまり話し方、聞き方、メモの取り方、こういうものは今国語ではありませんから、教えません、そんなこと言ったら学習活動成り立たないでしょ。討論しましょうと言って討論の仕方がわからなければ、そんなわけで言語に関する論理の育成というのはすべての教科のあらゆる場面でやっているということですね。

〈問題解決のための思考力判断力表現力〉

もう一方でもう一方の柱は思考力判断力表現力の育成です。これももう振り返りませんが、各種学力調査の課題から今の日本の子どもたちの課題だと。こちらは表現力ですから話す書く知識そして評価の観点で思考判断表現という評価の受け皿を作りましたが、その時に強調したのが、内容にそくしてなんです。評価の内容にそくして考えたことを表現する。言語などで表現する。だからこちらは内容が示されている。どれだけ社会科の中で内容が大事か。単に発表会をやればいい、話し合いをやればいいというわけではない。このことが大事。今日は途中で話が終わっても最初に大事なことを言いますんで、ご容赦いただきたい。ですから私は言語活動の充実は後ろに隠してしまったんですね。社会科第二段階の出発という言うことで、基礎的な知識も当たり前ですから、むしろ概念ということが置き忘れられているのじゃないですか。概念は概念的知識ですから、まあ知識なんですけど。もうちょっというと社会的事象の意味の理解にせまれない、事実を理解するだけで、わかった、わかった、わかった、でぶつ切りになっている授業がある。そして言語活動の充実と言ったときですが、まあ言語を大切にしたい問題解決学習の充実と、これくらい言いたいですよ。

問題解決のための思考力判断力表現力これはですね、この春に出した文部科学大臣の国家戦略会議の資料のこれからの未来に向けて人材を育てる教育改革、この教育改革の資料の真ん中、幼児教育から大学教育まで一貫して課題を解決するための思考力や行動力、新しい知識を作り出す力と書かれています。

そして大学の入試問題のクリティカルシンキングの問題であると書かれています。もう本当に真剣にそのことを考えています。課題を解決するための思考力表現力、こういうものを子どもたちに育てないといけない。法律が学校教育法30条以降中学校49条ありますが、規定されたということは改訂が次もその次もありますが課題を解決するための思考力判断力表現力、そのために活用する知識や技能、この構図は変わらないです。法律ですから改めてこのことをしっかりと目を向けるということが大事になってきます。

〈思考力判断力表現力の育て方〉

で一番右が社会的な見方や考え方、今日は一番下は話をする時間がないと思います。ただ観察・資料活用の技能と書いてますけど、言えば情報活用能力、これは日本の子どもたち、広く言えば世界共通の課題です。文部科学省で来年度情報活用能力の調査をやるんです。これは無作為抽出だと思うんですけど、そういう調査をやるんです。それくらい情報活用能力は大事だということです。すべての教科を並べたときにそこに一番近い教科はどこだと思いますか。そう考えたときに情報活用能力だけで90分くらい話をしないといけないかもしれない。

でも今日は置いときまして。あの一番右の社会的な見方や考え方ですが、これもどういう風に考えたらいいかをあまりくどくど説明してですね、理屈っぽくしてしまって余計難しい課題が出てきたのじゃないかと言われたくないですね。でも問題解決のための思考力判断力表現力が当面の課題だとしたら、思考力判断力表現力、それは何ですかというふうに、どうやって育てたらいいんですか、比較関連総合再構成ですよ。それでも、どの教科でも全く同じじゃないですか。そうすつとどの教科でも同じスタイルでやれば思考力が育つんですねと、こういうやり取りになってしまう。この図がそうなんです。

比べたり関連付けたりする、先ほど生活科でもお話ししました。比べる例えると、そういうものが大事なんですけど、しかしですね、私たちが考えるときにですね、さあ比べろって考えるか、これもあるんですけど、方法知ってご提案ありましたけど、もう一つは前に学んだことをベースにして考え始める。パンもお金がかかっているよな、予想したり取り組んだりするときに使っていないですかね。その前の理解や知識を。そんなふうに考えると見方や考え方が、もしかしたら知識理解、技能も含めて、それと思考力をつなぐ、社会科としての思考力判断力表現力のキーワードになるかもしれないですね。社会科として思考力判断力表現力を育てるのは比較関連総合、これだけではなかなか説明ができない。見方や考えたかがどんなふうに養われているかということを少し説明していかないとですね、思考力判断力表現力は雲の上の総合力、論理的思考力で終わってしまいますので、これは大事な課題だというふうには思っているのですね。

〈社会参加に向かう子どもを育てるために〉

この3つについてですね。一つずつお話をしたいと思いますが、社会的事象の意味、概念の理解をなぜ、申し上げるかということ、何の考えかということなんです。学習問題、今日も議論になってました。私は学習問題だけでなく、発問も含めていいと思うんです。そして予想を解く。これはですね。何が大事なのかということ、何を考えるかということです。話し合いで何を考えて話し合うか。何を話し合うか、もっと言えば何を学ばせるのか、このことをいつも考えたいと思っている。ここに国権が作った知識理解の成立があります。これはもう教材構造図ではありませんから、知識理解だけを限定的に定義したものです。これ間違えて教材構造図と取り換えてしまうと大事な部分が落っこちてしまう。で国民生活の安定と向上をはかる大切な働きとここに書いてあるんです。いつかはここに届かないといけない。

でも横に1時間目2時間目とわかった、わかったで、これは届かないということです。国民生活の安定と向上って一体なんです。それを考えるようにするにはどうしたらいいですか。このことなんですね。これを忘れられてしまう時がありまして、これをあえて社会的事象と言ったんですけど、つまりそれはどんな人々とのどんな働きがあるのか。その働きは私たちの生活とどんな関わりがあって、どんな役割を担っているのか。こういう部分がどうしても抜け落ちてしまう傾向があります。

例えばスーパーマーケットの仕事を調べて私たちの生活が支えられていることが書かれているんですね。でも〇〇スーパーが私たちの生活を支えているという、こういう理解はちょっとずれているんですね。〇〇スーパーがあれば私たちは生活できると子どもたちが思ったら、そして〇〇スーパーの良さをみんなで宣伝しようとなったら、民間企業の宣伝を公教育の中ですることになってしまう。そうではなくて私たちの地域には様々な販売活動があって私たちがなぜかよく集まる〇〇スーパーというお店がある。そこにはきつと販売する側の工夫が凝縮されているに違いないから行こうと。行って調べてきたらやっぱり、消費者の願いとつながったことをしているねえ、でも消費者の願いを超えて、販売、つい買ってもらおうとしている工夫をしているわけですね。次行くと〇〇スーパーのように品数は多くないけどこっちもお客さん入っている。これは私たち消費者としては願い、手作りのお豆腐屋さんとか、最終的にそういうふうに比べたときに私たちはいろいろ使い分けて生活、食生活、消費生活てなる。いろんな目的に応じてお店使っているんだな、こうなった時に私たちの生活は販売活動で支えられているということに近い認識。そんな支えられている四角の中に言葉を埋めなさい。こういうことは求めているわけではないですね。

このことをどう迫るか。安定と向上、例えば災害復旧の時政治の働きがありますね。災害復旧の学習をして国民生活の安定と向上を学ぶ。これはどうやって理解させますか。きつと違う言葉になると思うんです。災害復旧というのはいつでも、どこでも被災地があったら法律と予算が整備されていますよ。これは政治の働きですよ。事例としては東日本で震災があった時にほんとにわずかな期間で道路が修復されたりライフラインが戻ったりする。こういうこと、では具体的に子どもたちにとっては安定と向上ではないんですね。どういう言葉か、確定はできませんが、安心とかね、そういう子どもが学んだ言葉で出てくるんですね。こういうことを導き出す学習活動が置き去りにされていないかどうか。今日は発表の中で浅野小学校の先生が教師自身が何を学ばせたいかを考える、とおっしゃってたんですけど、私もそう思います。

先々週福島の学校に行ってきたんですが、面白い教材を扱ってまして、沈んだ堤防がある。これ、かなり昔から沈んだ堤防が途中切れている。ご存知の方いらっしゃるかもしれませんが、かすみ堤っていうんですけど、これをずっと先生自身がビデオに撮って、「これは何だ、がけの跡だ、お城の跡だって。」いろんなことを言うんですけど、堤防になっているんですけど、そうすると子どもが、「えっ。」て、そうすると先生が「えって何」って戻るんです。ビデオを戻していく。切れたところにズームアップ、なんで切れたのか、自然災害、堤防だから水が来て崩れたのか、きれいに形作られている。そこから子どもの追求が始まる。なぜ、堤防が切れてるか。追求するんですね、子どもたちは。先生が今度は古地図を出してくる。実はたくさん切れてる。切れている先が杉防林、水害を防ぐ林があって、そこがちょうど沼地みたいになって、その外側に家があるんです。そういうところが何か所かある。これなんだということみんなで話し合っていて、今度は先生が仕組みを表した図を出してくるんですけど、つまり水があふれたときに外に逃がす。一か所に力が集中して堤防が決壊しないように、上流から下流にかけて何か所か切れている。そこに水防林が周りに植えてあって、その外側に住宅が建ってる。そこにたまった水は元に戻るんです。また大水が引いた後に元に戻るらしくて。こういうことを子どもたちと一緒に

に学んでいく。最後にこれ昔の堤防で川の付け替えがあつて、今別のところに流れてるんですけどグーグルアースでグアーとよるんです。実は今の最新技術で作つてある堤防も切れ目があるんです。つまり昔の人の知恵が現実の形となつて生きているんですね。

これもっと奥が深く先生は今度上流から下流を映すんです。上流から下流を映して子どもたちが考えるんです。下流の人の被害を上流の人が分け合つたとらえ方をさせたいっていう、こういう教材を通して何を学ばせたいか、先生の自由ですけど、だけでももしかしたら社会参画を目指すっていうのは方法論だけでなく、何に気が付かせるか、私たちの国のどんな姿を見せたらいいのかっていうことが大きくかわるんじゃないですかね。そんな意味を含めてですね。何を考えるのかということ、を改めて大事にしたい。

宮崎というところで九州大会がありました。ここでもですね、ある先生が持ってきた写真というのがね、歩道橋の下に横断歩道がある写真なんです。これ何の授業かという安全の単元なんですけど。歩道橋の下に横断歩道がある写真と、歩道橋の下に横断歩道がない写真を持ってきて、どっちが先だつて比べると、子どもたち「後からできたって。」「だって今あそこにあるから。」「じゃあ、なぜできたのか。」こういう質問をすると子どもさっぱりわからない。これ調べると地域の高齢化という課題が出てきます。歩道橋を渡るという声が出てきて、おそらく行政判断でエレベータ作るよりは費用がかからないということで警察と連携して横断歩道を付けたと、こういうことなんです。それにとどまらない、なぜそれを行ったか、なぜ、それを取り上げたかということなんです。意味について考えさせる。初めからあつて私たちに黙って従わせるというものではなく、その時その時に応じた状況でつまり変化に対応しながら、変わっていく可能性のあるもの、昨日までわたつてはいけな場所が、今日は渡りなさいという場所になった。そのことを考えさせたいから、そういう教材を持ってくるんですね。教師自身が子どもに何を学ばせたいか、しっかり持つことが私は社会にかかわろうとする子ども、社会参画に向かう子どもの大事な要素ではないかな、というふうに思います。

これ前に紹介したかもしれませんが、ごみの分別です。今日もそんな授業がありました。これは、やっぱり子どもたちはなぜ必要なんだろう、思いますよね。今日も分別が必要か必要じゃないかを考える授業だったんですね。提案ですね。これ今までは行政の側からごみの処理、再利用を効率的に行うためということでやってきたわけです。だからごみの行方だったんですけど。私は改めてこれが必要だなと感じたエピソードがあるんですけど。二つの大学でやって同じ反応だったんですけど、「ごみの分別を守らなかつたらどうなる？」と聞いたら、「置いて行かれる。」と。「置いて行かれたらどうなる？」と聞いたら、「カラスや猫が食う。」と。「カラスや猫が来たらどうなる？」と聞くと「散らばる。」と。「散らばつたらどうなる？」と聞くと「次の週にきれいになつてる。」これはどこまで見てて、どこまで見てないかがはっきりとわかるんですね。実は地域の人たちが片づけてます。とりわけゴミ捨て場は自治会の評議で決められてますから、丁寧に見てます。こういうことは子どもたちは知らない。だから次の週になつたらきれいになつてる、と。で言葉をどんなふう言ってるかを思い出すとですね。ごみは出す。ごみを捨てるとか、燃やすではなく、ごみは出すんですね。出すってことは社会の仕組みに参加している。社会の仕組みに参加しているのですが、途中までしかわからない。こういうことなんです。社会科って途中までしかわからない。だからその先をしっかりと見せていく。このことが一番大事なんです。先ほどご紹介の中でそんなこと言ってくださいましたけど、今の現実がわからないのに、よりよい未来を考えることはなかなかできないですよ。だから見えていそうで見えていないものについて、しっかり見ていくという意味で法や決まりは改めてなぜ必要なんだろう、と子どもに問いかける必要があるんじゃないですか。今日の授業、提案が面白かったのは最後はほとんど残らない。今の焼却能力で

いくと。だったら分別する必要ないじゃない。こういう話し合いをしたっていう提案だったんです。子どもたちはどういうふうに言ったかと言うと「確かにごみは消える。でも資源は残らない。」これは面白いなあと思いましたね。分別することでごみは変わらない。でも資源がなくなっちゃう。残るはずの資源が残らない。まさに、なぜ分別が必要なのか、新しい視点かもしれない。ごみを減らすだけでなく、資源を残す。確かに廃棄物の再利用なんて言う言葉が学習指導要領に書かれてますよね。こんなことを改めて考えました。

これは授業、4年生の授業です。同じ構造だと思いました。もっと丁寧に、私のはざっくりですけど。地域の人々が受け継いできた、受け継いできた、さっきもそうですけど、何を考えるのかが出てるんですよ。これは人々の願いを考えるんです。先ほどの良好な生活環境、健康な生活環境に役立っていることを考えるんです。だからなぜ必要なのだろう。これもそうですね。人々の願いを考えるようにする。なぜ受け継がれてきたのか、なぜ今もあるのか。改訂前の学習指導要領は人々の願い、まとまりがあったから。でも今回伝統文化尊重の視点が入りましたから、受け継いできたからです。なぜ続いているんだろう、もう一つ受けついできたからです。こういうことが改めて加わったんですね。こういう願いがつながりになって続いてきたと、こういうことです。学習のまとめとして、こちら側は参加する人ですよ。こちら側は受け継ぐ人たち。吹き出しを書いてまとめたわけですよ。なぜ続いてきたのか、を考えると、それぞれの言葉を相手に向けて書いてみよう。こちら側の人には当然感謝、楽しんできています。向こう側の人には、学習した後のまとめですから、がんばってます、楽しみにしてくださいと加えて若い人がもう少し手伝ってくれるとありがたいとか、継ぐ人がほしいとか、ということを書きます。これはどうですか。祭りに参加するということと言わせたいか。この人たちに近づいて、取り分けこちら側の人たちに近づけます。あなたにできることは、あなたは祭りに参加しますか、ということ問うのとこれらの人たちに近づいてこれからの社会をどう考えるかを求めるのとどちらを選ぶかということです。順番を逆にしちゃいけないということです。もちろん私は今年の秋から祭りに絶対参加したいと、そういうことはすごく大事かもしれませんが、しかしそれは期待する姿であって、祭りに参加させるようにするって目標に書いてないです。祭りに参加できたかを評価するって書いてないです。私たちが子どもたちに届けなければいけないことと子どもたちが学ぶべきことというのはやはり拙速な行動に向かう短絡的なものではないんですね。

加えてさっき申し上げたのは、これまだ未完成で一緒に考えてくれればなあ、と思うのですが、学習指導要領の内容をほんとに乱暴に整理して社会的事象の相互のつながりとそこに関わってくる人間の営みや働きと、それらが発展している。私はこれらがほんとに明確に分かれるのか、もしかしたら混然一体となっているのか、それがわからないんですが、一番右なんです。国民生活の安定と向上を果たしている。自分たちの生活との関わりというのは自分たちは農作物を食べている、こういう製品を使っているという線で見るとつながりがわかる。だから導入に地域教材を持ってきて身近なものだという入り方はそりゃできるんですけど、でも農業の学習で国民の食生活を支える十何か月の。最終的に社会的事象の、つまりその、人々の工夫努力といった人間の働きの意味を学習指導要領は求めているんじゃないですか。

考えるようにするという表現、ここです、ここのところが見えてこないと最終的には本当に理解したということにはならない、もっと言えば社会的な見方や考え方は遠くなってしまうんじゃないか。私たちの生活をどんなふうに支えているか、どんな関わりがあるか、それがこの人たちが努力している分野ですね。あなたはどうしますか、あなたは未来にどう働きかけますか、という前にこの人たちの行動にどんな意味がありますか、ということを知ることが大事だということですね。このことを考える

とすればですね、やっぱりあの教材化の視点ということ、さっき申し上げた教師自身がしっかり考えるんだということだと思えます。構造図にすることもいいんですけど、ざっくりでもいいですか。レジメに書いたんですけど、どんな事実か、どんな働きか、どんな意義かっていうことを先生自身が教材化をする時に自問自答するといいと思えます。

例えばこれ情報ネットワーク、今日も事例がありました。なかなか教材化が難しくて子どもの主体的な調べ活動ができないという課題もご指摘いただいていた、それは重々わかっているんですけど、その時に、例えば、どんな事実か。情報を共有して連携する取り組みがある。どんな働きか。ネットワークを使って情報を有効に活用することで、サービスを向上させている。もともとあった情報を人と人が連携することで働きが向上する。そして、それにはどんな意義があるか。情報や情報ネットワークを有効に活用すると私たちの生活が変わる。社会が変わる。こういうことですね。こういうふうにとらえないと防災の学習、医療の学習になりますよ。どんなふうに医療は改善されたのか、どんなふうに私たちの安全は守られるべきか、これは違います。情報ネットワーク、情報活用、情報化社会と国民生活との関わりの学習です。こういうふうな教材化の視点のとらえ方を外さないために、私はこういう事実をとらえる、人間の働きをとらえる、そのことによると社会の出来事をとらえるというような、見方や考え方の大きな枠組みがもしかしたら必要なかと、こんなふうに思えますね。まあ、ちょっとこれ時間がないのでとばしますが。

〈予想を現実に近づける〉

ここもですね。事実、人間の働き、そのことの意義。こういうとらえかたでいくと、もしかしたら学習指導要領を見ながら作っていただけると間違えないのかもしれないなあ、と、これはもしかしたら見方や考え方なのか、社会認識の深まりなのか、香社研のような熱いみなさん、本当に研究ばいことをされているみなさんが考えていただくといいのかなあと思います。私は認識が最初にあって、それを別な対象に使うときに見方や考え方が生かされてくる。だから問いかけとか、予想。この予想というのは見方や考え方、予想というのは主体的な学習のスタートでもあり、問いの具体化でもあるんですよ。そして見方や考え方、社会的な見方や考え方を養うとこにも役立ってくる。ちょっと例を紹介しましょう。これは京都の保津川の江戸時代の絵図なんですけど、これ保津川の地域にある学校、でその子どもたちに見せると、「わーこんなに曲がりくねってるんだ。」と、これ大げさにかいてない。「だってこれじゃあ、船が通れないもん。」ご案内の通り保津川は観光船で有名な所ですよ。船が通れない。子どもたちはこんなこと言うんですよ。それをですね、先生は「その通り。船は通れなかったんだよ。」話がそれるんですけど、子どもたちの予想ってどこまでいっても予想なんですよ。確かめようっていう活動につながる予想が大事なんですけど、時に見てると予想で終わる。予想を子どもたちがいろいろ言って最後わかったで終わる。いつの間にかわかったことになってる時がたまにあるんです。だからこういうやはり実際どうだったのかっていう資料が、説得力がありますよね。これ事実を文章資料でもってきただけなんですけど。

これにちょっと似ている例で、さっきのごみの分別の例ですね。宮崎のやつをいただいていたんですけど。宮崎では9分別、上勝町では34分別。気が遠くなるようですけど。でもこれを見て宮崎では1日に1人当たりのごみの量が1000グラム、上勝町では420グラム。これはなぜかっていうとごみのごみでなくなったってことですよ。分別が大事だ大事だってみんなでなぜ大事か予想しあってる時に、これも大事なんですけど。どこかで子どもたちの予想を現実に近づけてあげる。確かめるってことが必要ですよ。いつも先生が最後に答えをバーンと出すということではないです。でもそのことが次の

調べ活動につながってくる。学習問題の具体化につながってくる、ということがありますね。

これもそうですね。阪神淡路大震災の時の生き埋めの被害者、これ札幌の先生です。この資料出す時が一番顔が輝いてました。35000人の生き埋めの方の命を救ったのは実は地域住民だったと。4分の3以上が地域住民が救った。こちら左上が公助ですよ。だから共助、自助って学習します。なぜ大事なのか、どうしたらいいだろう。こういうことやりますが、こういうもの持ってくると子どもの顔色が変わる。現実の社会を子どもに提示する。伝承してあげるといことですよね。

実際さっき保津川の話に戻りますが、実は保津川は江戸時代の終わりごろにはもう通れていた。この頃には写真があるんですね。なぜ通れなかったものが、通れるようになったのか。これ社会的事象を追求するためのブラックボックス型の問いですね。間に人間の働きがあったという。社会的事象ってほとんど人間の働きじゃないですか。自然事象は人間の働きじゃない。社会的事象は人間の働き、まあ、人間が関与している。あれ、船が通っているぞ。ここで予想をするわけです。こういう予想ができるかどうかですよ。これ繰り返していかないと多分できないんですけど。自然の働きではないか。誰かが川を改修したのではないか。船に工夫があるのではないか。そして何かを運ぶ必要があったのではないか。こういう予想ってあまり出てこない。この授業では出てきたんですけど。これが社会的事象の意味ですよ。川を改修したことによって誰かが何か改善したんじゃないのか。こういう予想が出てきたのは、まあすごいなあと思ったんですけど。そして子どもたちが自分たちの予想をもとに問いを具体化することですね。最初は自然事象じゃないかってやるんですけど、先生がですね、こういうふうに資料使いながら子どもたちの予想をしぼっていく。これはどうもきれいすぎるぞ。自然事象じゃない、ということで予想が消えるんですね。で、何かしたんじゃないか。じゃあ、何をしたんだろう、ということで調べていくんですけど、この時には問いになる。つまり、予想が絞られて、そのことは何を調べたらわかるのか。何を調べたいか、出なくて、何を調べるべきかということですよ。そうするとこういう学習問題が出てくる。なぜ、保津川は舟が通れるようになったんだろう。はいみんなで調べましょうということではできない。予想のもとに具体化して、こういうことがあるんじゃないか、ああいうことがあるんじゃないか、ということで調べ始める。

〈パフォーマンス課題〉

だから私パフォーマンス課題については一緒に研修している向きもあるので、一概には言えないんですが、これはやはり吟味が必要で、今日もすばらしい授業ばかりだったんですが、いっぺんに二つのことを考えている授業になってしまわないか。何々の大切さを調べて、何々に伝えようとか、子どもたちが切実に問いをもって追究する本気の問題解決に、活動ゴールの見通しが持てるのかなあ、というのだけが、どうしてもひっかかる。私はなぜ、問えるようになったのか、こうじゃないか、ああじゃないか、これはこうだからじゃないか。なぜ通れるようになったのかまとめてみようじゃなくて、調べた後ですから、保津川が通れるようになった時の人々の気持ちをまとめてみようとか、どんな働きをしたのか、自分の言葉で表現してみようとか、町をどのように変えたのか、あなたの考えをまとめましょうとか。今日ご発表の中でパフォーマンス的学習問題はアレンジしながら変わっていきますよ、と言っていましたね、授業の中で、学習過程の中で。これなら私は納得できます。子どもってそんなに初めから見通しがあるわけではなくて、問題の解決をすることで新しい問題が明確になる。こういうサイクルでやっていく。もしかしたらその方がダイナミックな授業になっていくのではないかな、とちょっとそこ思ったんですが。これは一概には言えません。研究途上ではあるでしょうし。一緒に考えていきたいところである。

〈調べたことをもとにして考える〉

子どもたちは具体化された問いで調べ始める。そしてこんなふうに調べたことを表現する。まあ、こ
こははしりますけど。言語活動の充実って言いますけど、イラストにまとめたり、子どもが前に出て、
こんな書いて説明したり、こういうことって大事ですよ。あの言葉で表現しきれないものって生活科
だけの話じゃないですよ。舟にも秘密がある。そして何より人々の生活を変える大事な食べ物を下流
に運ぶ。あのうですから、このあたりですね。今日話をしたかったのは学習問題、予想、このことを大
事にしていけば、本気の追求活動、子どもの問題解決学習になっていく。子どもたちがなぜだろう、わ
かりたいっていうそのことが出てくる、と私は思いました。

二つ目にはですね、調べたことをもとにして考える。これ一つずつやると時間がないので少し急ぎま
すが、私はですね、この中で体験と資料活用、このことが改めて大事になってくるんだなあと思いま
した。言葉の意味を大切にする、と。気づきは認知的な側面、理解と心情それから、知的な側面だけでな
く情意的な側面も含む、気づきの説明がありましたけど、これは生活科だけじゃないんじゃないですか
ね。私たちもそのことが大切だって感じるのは、そのことの意味がわかったわけで、生活科の説明は知
的な側面が情意的な部分を包み込むという説明をするんですよ。同じじゃないかなあ、と思う。何も
論理的に理解するだけじゃなくて、最終的に物事の意味や価値がわかったっていうのはかなり情意的な
ものを包み込んで理解をまとめあげているような。そんな気がするんですけど。

それは置いて。一人ひとりが考える手がかりにすることもありますよね。だから言葉の意
味を大事にしたいということなんですけど。下手するとキーワードにまとめたり、概念にまとめたりし
て、言葉をまとめあげていく傾向があるんですけど、この二つで大事になってくるのは具体的な事実
ってことですよ。社会科がいつも大事にしたいのは。具体的な事実を失わないようにしないと。

今日もキーワードでまとめていたときに、例えばとか、なぜならとか一緒にくっついていたらまだ、
いいんですが。安全とかわかりやすいとか、言葉にまとめるじゃないですか。言葉にまとめたときに言
葉と言葉をつないだりするようになっていくと、わけがわからなくなっていくんですよ。言葉遊びに
なってしまう。子どもがいつも持っている具体的な事実、前にもお話ししたかもしれないですけど、安
全というスーパーの工夫を発表したときに代表の子は農薬を使っていない安全という、消費者の願いは
安全な食べ物だからつながるんですけど、ちょうど私はそのグループのそばにいたんですけど、違う子
のノートは傘袋は安全って書いてあって、防犯カメラがたくさんあって安全って書いてある。具体的
な事実を支えられた安全なんですよ。それを安全と安全で安全グループでくくってしまうと、その子
の具体的な事実が出てこなくなってしまう。こういうことがあります。ですから子どもの言葉の意味とい
うものを絶えず大事にしていくということが必要になってくるんだと思います。

こんなふうにですね。これスーパーマーケットの工夫調べの学習なんですけど、これ調べてきたことを
貼ってるんですけど、これ工夫ではないんですね。見てきた事実なんです。考えるのは工夫であって、
見てくるのはスーパーマーケットの仕事の様子やお店の様子なんです。右端に意図的に貼ってあるのは
消費者の願いなんです。これを分類していく中でこちら側にあるものはどうしようって考えると、子
どもたちはなんか、これと関係があるって考え始める。そこで工夫だと気がつくんです。消費者の願いに
答える工夫だと。工夫には目的がありますからね。意図があるから工夫なんです。どんな意図、どんな目
的があるかを子どもたちが考え始めるという学習です。これも調べたこと事実をもとにして考え始めて
いるんです。そしてわかったことをまとめる。

これは東京の学校なんですけど、わかったことというのは学習問題の振り返り。その下に学習のまと

めってありますよね。これは、この学校何をしているのかというと、自分の気づきへの振り返りをして
いる。わかったことって、みんな同じで黒板で共有するんですけど、ノートを書くとは黒板の写しです、
みんな。でも本県社会科ノートはそうではないですよ。自分への気づき、つまり独り言がたくさん書
かれているんです。この下のものはこんなふうに書かれているんです。聖武天皇は仏教で世の中を変え
ていこうとしている人だと、遣唐使や渡来人は日本にとって大切な役割をしている。ほかのアジアの国
も唐から学ぼうとしたのではないかと。疑問が出たり、自分が気がついたことを言っているんです。
今の世の中とこんなふうには違うんだなあ、ということも出てくるんです。こういうふうにはやっていくと、
歴史がただわかっただけではなくて、その子の中に社会を見る目が、まあ見方や考え方と言っているか
どうかはわかりませんが、育っていく。自分への振り返り、自分への気づき、こういうことをあえて時
間をとってやっていく、こういうことをご紹介しました。振り返ることが大事になってくる。

〈見方や考え方を使って考える問い〉

加えてもう一つだけ申し上げると、社会科って部分部分を学習することが多いので、今日も関係図
が出てきましたが、全体に見せるような、だから地図が必要な。地域学習が地域学習であり続けるため
には、やはり消防でも、地域の販売活動でも、地図が必要です。それから年中行事だとか、先人の
開発したものとか、これは年表が必要です。あの工夫をとらえるってのは時間的にとらえないです
かね。量的に、朝から夜までとか。子どもって、社会科って全体像をとらえさせてあげることが大事で
すね。今日も6年生の仕組み図ってのがありましたね。ピラミッドマップっていうのはどちらかとい
うと、これを大事にしているのかもしれませんが、それを支える
下の事実が消えない。こういうことを、私はピラミッドマップというのは大事なのかな、と思います。

ですから私たちは、子どもってこういう表現の仕方をするじゃないですか。学習して考えたこと思っ
たことを書きましょう。〇〇さんがとても苦労して大根を育てていることがわかった。考えたことを書
きましようと言われて、わかったと書く。いくつか考えられることがあるんですけど、私は2つくらい
思い当たる節があって。1つは子どもはわかりたがっているなあ、と。考えなさい、考えたことを言
いなさいと先生は問うんですけど、まずは子どもたちはまとめたがってる、整理したがってるんじや
ないかな、と。

これが1つで、もう一つは考えた結果わかるんだから、子どもは考えたとは書かない、わかったと書
くんだと。つまり考えたということが途中の中で、つまり消えちゃってるんです。だから、なぜなら
とか、例えばと、もう一行入れるだけで、学んだことが出てくる。なぜなら朝6時から夕方まで4月
から6月まで何か月もかけて、時間的な苦労を考えた。これ工夫を考えるよりも大事ですから。まさに目標
に対してぴったりの評価なんです。私たちが忘れてはいけないのは、指導したことを評価するとい
うことです。指導したことを評価する。考えたことは書けないんです。考えたことを書くのが苦
手な子は
どうするんですか、先生、という質問されるんですけど。考えたことの表現の仕方は指導しましたか。
評価の前に指導を振り返るっていうのは私たちにとってはすごく大事なことなんじゃないかな
って思
います。

少しとばしますが、見方や考え方の成長をもしも考えるとすれば、一つのパフォーマンス課題とつな
がるのかもしれませんが、社会の見方っていうのは、さっきの年中行事もごみの分別もそうかもしれ
ませんが、あれだけでも2つの側面から考えられるんですけど、でも、～であるのになぜとか、本当にそ
うか、じゃあどうすればいいのだろう、こういうことが現実の社会にあるわけじゃないですか。わか
った、わかったで終わるわけではなくて例えば警察や消防では、私たち警察や消防の方々が私たちを24

時間守ってくれる。こういう理解で終わったとして、じゃあ、なぜ火事がなくならない、犯罪がなくならない、こういうふうになったときに、事件や火災が起こった時にかけつけて対処してくれるのは万全だけど、防ぐのは万全ではないですよ。消防署、警察署、防ぐのは誰かという、防ぐのは私たちが心がけていくしかないじゃないですか。一人ひとりが。そういったふうに社会の本質を考えると、もう一回問い直しが必要になってくる時がある。それは学んだことをもとにして改めて考えるような場面じゃないですか。

これをやりたかったんですけど、時間が無くなっちゃったんですけど。これペットボトル、宇治のお茶なんですけど、宇治のお茶はたくさん作ってるわけじゃないのに、なぜ有名なんだろう。早口で言っているのですが、なぜ有名なんだろう、というのは調べるための問いです。事実を集めるための問いです。なぜ、有名なんだろう。工夫や努力を調べてみよう。工夫や努力を調べるといいながら実は作業を調べるんですけど、で、調べていくと450年もの歴史があって、伝統を生かしていると、宇治のお茶は急須に入れてこそ、宇治のお茶。こういうふうに調べてると職人さんが言ってくれるんです。お茶屋さんが。ところが先生はあえて、じゃあ、なぜペットボトルで販売始めたんだろう。これを問い直す。なぜこんなことをするかというです。先生は伝統というのは受け継ぎ守るものであるのと一方でやはり、生かすもの、発展していくべきもの、こういうことを子どもたちに考えさせたい。こういう意図でじゃあ、なぜか。～であるのになぜか、急須に入れて本物であるのになぜペットボトル。ペットボトルの中に伝統の技がどう生かされているのかを調べていく。

例えば情報ネットワークの仕組みがあると私たちの安全を守ってくれる。じゃあ、なんで参加率が低いのか。じゃあなんでみんなは参加しないのか、と言ったときに世の中お年寄りの課題、外国人の課題が見えてくる。そうすると改めてネットワークは人がつながってこそ、ネットワークだという本質的なことにたどり着く。そうすると問題解決をした後に、そのことの理解をもとに、見方や考え方を生かして対立していく。みんなで知恵を出し合って考えていく場面があったりする。こういう問い直し、そして判断が発揮されるような場面が出てくると、持っている見方や考え方を使って考えるということが見て取れる。

見方や考え方の基本というのは、おそらく事実を読み解く、人間の働きを見出す時に、そしてそのことの社会における意味を考えると、なんですけど、とりわり子どもたちが多様に見方や考え方を出し合うのは3つ目のそのことはどんな意味があるのだろうか。これはいろんな考え方があっていい。子どもたちが意見を交わらせるということ、で多面的・多角的に考察し、後世に判断する能力を養い社会的な見方や考え方を、ということに関係があるのかな、と思います。

小学校はですね、人間の営みや働きなどを中心としてまずは、～の様子、環境、働きなどについて理解するですから。中学校に行くと世界の広い視野からということになってきますね。まずはしっかりと社会的事象の意味を、人間の働きや、私たちの生活におけるということにとらえていくことが、私は小学校段階で育てる社会的な見方や考え方の大事な要素ではないかな、ということをお話しました。

〈評価について〉

最後に1、2分すぎましたが、評価の話ができなかったもので、評価の話をするです。これは兵庫県の子どもの作品なんですけど、コウノトリだけでなく生き物をいっぱい増やすため、人も一緒に暮らしていけるとあってコウノトリの住みやすい環境を作っていることがわかり、ぼくは手間暇をかけても大切なものを取り戻したいという懸命な思いがわかった。こういうふうに最後学習のまとめ、振り返りをしているんですけど、このパフォーマンス評価は最終こういう文章で、まとまりとして表現されてくる

わけですね。だからこれを読み解く技術を鍛えるというか練習するという意味では子どものまとまった文章を、文章だけでないです。表現をさせて評価をしていくということは大事な要素だと思います。

これはここに線を入れたんですけど。この前は学習のまとめ、学習の振り返りなんです。なぜなら豊岡の人たちはこんなことをしていることがわかった。2つ目のこれはわかったって書いてあるけど、これは自分への振り返り。ぼくはってここに書いてあります。ぼくは手間暇をかけても大切なものを取り戻したいという懸命な思いがわかったって、この子の言葉で書いてあります。子どもはわかったって書くのかもしれませんが、これは考えたこと。なぜならって書いてあるともっとよくわかる。最後PS、いつの間にか手紙になってるんですけど、大切なものは豊岡の田んぼに住んでいる生き物とコウノトリと人と自然とのつながりだという共生を子どもの言葉で書いてある。こういうことなんです。

ですから、私は評価の在り方というのは様々な方法があっていいと思うんですけど、最終的には言語活動の充実でいうなら充実した言語表現を読み解けるようにしていかなければいけないですね。それは指導責任と結果責任の話で、子どもから出てきたものを私たちがどうやって受け止めるかという、これもですね。一つの例ですけどパフォーマンス評価と一緒に子どもの作品の読み取り方を研究していく必要があるのかな、ということ。

〈まとめ〉

これ何のために書いたかというです。話があっちこっちに行っちゃったので。もう一つだけここに入れるとですね。情報を絞ってみんなで話し合う。このことを大事にしてもらって、これがですね、子どもが考える授業に。そしてこっちは、交わらすんですけど。あっちこっち実践例を紹介したから話がまとまらなかった。多分そうだろうと思って、ホワイトボードにこういうまとめしようと思ってたんです。強引にまとめちゃおうと思ってたんです。よくわかる授業、とりわけこちらは考える授業。考える授業を大事にすればよくわかる授業につながるのですが、それぞれの大事な要素を書いてみましたので。言葉にならないキーワードの部分もありますけど。ちょっとご自分の授業の見直しに使ってみてください。すべてが重要だというわけではおそろくないんでしょうけども。最終的には授業で勝負をする。こういうことが大事ですから。研究の方向性や意義を解釈しながら。研究を3Sと言って、スリム、シャープ、シンプルと。少し3Sを心がけて、授業レベルで検証していく。教育研究の成果って限られてますよ。教育の成果っていうのはすごく大きいんですけど、研究の成果っていうのはほんとに限定的ですから、逆算して成果が取れそうなところに焦点化して研究を3Sで絞るという、このことが必要なのかもしれないなと思いました。大変熱心でいい授業いい研究なんですが、このことだけですね。最後にお伝えをして、時間5分以上過ぎてしましまして申し訳ございません。お話に変えたいと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

板書

「考える授業」

- ① 学習問題や発問—「何」を考えるか。
- ② 予想—主体的、問いの具体化
社—
- ③ 情報の焦点化→話し合い

「よく分かる授業」

- ① 体験と資料活用—具体的な事実
- ② 言葉の意味
- ③ ふりかえり
- ④ 全体（地図、年表、関係）を

「香社研フォーラムカップ2013」報告

例年、1年のまとめの会として位置付けられていた香社研「研究委員会」は、より広くより多くの先生方の学びの場となるようにと、3年前から香社研「研究フォーラム」という名前に変わりさらに本年度、「香社研フォーラムカップ」として進化を遂げました。

開会式後のデモンストレーション（一人1分間）で、実践の概要を全体に説明し、参会者が関心のある実践を選んで聞くパネル発表という形で実践交流を行いました。本年度は、新たな試みとして、

- 研究を広めることに貢献した実践・・・金カップ
- ※ 参会者がまねしたい実践に鉛筆を投票して決定。
- 研究を深めることに貢献した実践・・・銀カップ
- ※ 講師の安野功先生が選出。

を実践者に贈呈しました。

また、研究部から平成28年度全国大会に向けて研究の方向を提案し、國學院大學教授安野功氏（前文部科学省初等中等教育局教科調査官）から研究へのご助言をいただきました。

休日にもかかわらず、過去最多の160名を超える参会をいただき、盛会裏に終わることができました。

1 目的

新 参会者各々が共感できる実践に投票し、最も得票数の多い実践をグランプリとし、フォーラムカップ（ゴールデンカップ）を実践提案者所属の郡市社研に授与することを通して、次世代を担う若手のがんばりを賞賛し、研究を広める場とする。

また、一般化は難しいかもしれないが、深い教材研究や理論を背景にプロの技が光る先見性・提案性の高い実践を、講師の先生に選考していただき、フォーラムカップ（シルバーカップ）を実践発表を行った郡市社研に授与することを通して、研究を深める場とする。

- ・ 各郡市の今年度の実践を交流したり、講師の助言を通して、研究を深化し、来年度の研究の方向性を探る。
- ・ 香社研の研究を広く県内外や他教科の先生方にも広める。

2 日時 平成25年2月23日（土）13:00～17:00

3 場所 香川大学教育学部附属坂出小学校 体育館

4 日程

- ◆ 開会 13:30～13:35 会長挨拶（徳田仁司校長先生）
- ◆ フォーラムカップの進め方
- ◆ デモンストレーション

歌あり、音楽あり、実物ありの趣向をこらした実践の概要説明がありました。みんなで協力してパフォーマンスを考えていた郡市もあり、聞いていてわくわくするようなデモンストレーションになりました。まずは聞いてもらうことが重要だったのです。

社会科の授業に困っていませんか？

「社会科って、どうやって教えたらいかわからない。」そんな悩みを、解消できる社会科フォーラムカップを開きます。今回の目玉は、3つです。

【目玉1】 採れたて実践 全10分

【目玉2】 自分だけのオリジナル実践を、他の先生から評価してもらおう

【目玉3】 安野功先生が選出された実践を発表

【内容解説】 4章 香川大学教育学部附属坂出小学校 社会科

【目玉1】 県内を代表する実践発表が、本年度の実践（金）カップを争う。3年「5でわかる人」4年「道とつなぐ」5年「正統派と王道」6年「正統派と王道」7年「正統派と王道」8年「正統派と王道」9年「正統派と王道」10年「正統派と王道」

【目玉2】 あなたはどの実践に共感する？ 採れたて実践に、他の先生から評価してもらおう。3年「5でわかる人」4年「道とつなぐ」5年「正統派と王道」6年「正統派と王道」7年「正統派と王道」8年「正統派と王道」9年「正統派と王道」10年「正統派と王道」

【目玉3】 安野功先生（前文部科学省初等中等教育局教科調査官）が選出。日本一を争う実践を発表。3年「5でわかる人」4年「道とつなぐ」5年「正統派と王道」6年「正統派と王道」7年「正統派と王道」8年「正統派と王道」9年「正統派と王道」10年「正統派と王道」

開会時間 平成25年2月23日（土）13:00～17:00

会場 香川大学教育学部附属坂出小学校 体育館

講師 徳田仁司校長先生、安野功先生（前文部科学省初等中等教育局教科調査官）

参加費 無料

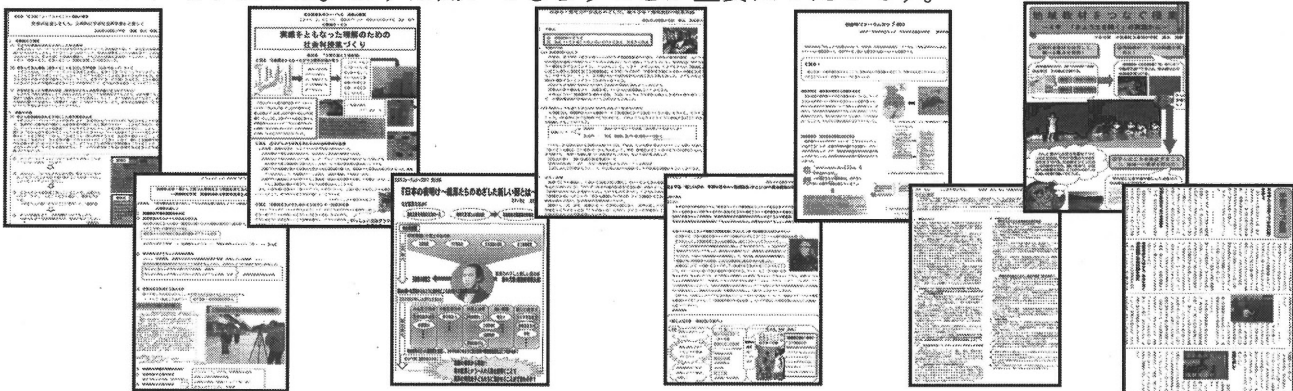
申し込み 無料

問い合わせ 香川大学教育学部附属坂出小学校 社会科



【抽選で発表順を決定】

7p0p 香川大学教育学部附属坂出小学校 3年「5でわかる人」	14p17p 徳島県立阿波大学 4年「わたしの夢」
9p 香川大学教育学部附属坂出小学校 5年「工業生産と工業地帯」	18p19p 大分県立大分大学 5年「工業生産と工業地帯」
10p11p 香川大学教育学部附属坂出小学校 6年「わたしの夢」	20p 三井物産 香川支店 6年「わたしの夢」
12p13p 香川大学教育学部附属坂出小学校 6年「わたしの夢」	21p 香川大学教育学部附属坂出小学校 6年「わたしの夢」
14p15p 香川大学教育学部附属坂出小学校 6年「わたしの夢」	22p 香川大学教育学部附属坂出小学校 6年「わたしの夢」



【「実践の概要」A4用紙1枚】

◆ 実践交流(パネル発表) 13:20～15:15

- 13:20～13:30 準備・移動
 13:30～13:55 第1ラウンド(仮 ①高松東, ②丸亀, ③三・観)
 【投票 赤鉛筆を投票箱に入れます。】
 14:05～14:30 第2ラウンド(仮 ①高松南, ②小豆, ③さ・東, ④坂・綾Ⅰ)
 【投票 青鉛筆を投票箱に入れます。】
 14:40～15:05 第3ラウンド(仮 ①高松西, ②坂・綾Ⅱ, ③仲・善)
 【投票 黒鉛筆を投票箱に入れます。】
 ※ ①…第1ブース(西), ②…第2ブース(南), ③…第3ブース(北)
 ④…第4ブース(東)



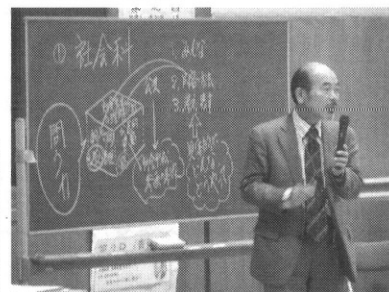
◆ 研究部提案「H28年度全国大会に向けての研究の方向」

15:20～15:35 香川大学教育学部附属高松小学校 教諭
 ・ 質疑・応答(15:35～15:40)

大嶋 和彦

◆ 研究への助言 15:45～16:45

國學院大學教授 安野 功先生



◆ 閉会 16:45～17:00

1 表彰

○ 金賞…坂出・綾歌社研 福家 実樹 先生

○ 銀賞…三豊・観音寺社研 出濱 大資 先生

2 副会長挨拶(池田 孝徳 校長先生)



5 成果と課題

成果として自ら実践を発表したいという声があがったことが大きい。坂綾Ⅱの戸城先生、仲善支部の渡部先生だ。惜しくもカップは獲得できなかったが、間違いなく新しい風を運んで来てくれました。こういったやらされている研究ではなく、例え手弁当でも同好の志をもつ者が「学びたい」と集まり、自分の実践を世に問うところが、香社研の伝統でもある。そもそも定例会は他流試合の様相があり、フォーラムはそのまとめの会だったのである。

次に、若手の実践者、女性の実践者の増加である。社会科の日常化が進んでいる成果とも言える。160用意した投票用の鉛筆が全て売り切れた。他教科からの参加、県外からの参加、OBの方の参加もあり関心の高さが伺えた。今後も元気な社会科を進めていきたい。

さらに、実践者から新しい提案があったことである。金賞の福家先生の実践発表では、その最後に副読本についての提言があった。言いたいことが言い合える研究団体としても、ボトムアップ研究の推進という意味からも、有意義な提言であった。

課題は、ボトムアップとトップダウンの研究の融合である。前半の実践交流で見えてきた実践を通しての成果や課題を、今後、どのように本部提案に反映させていくか、が問われている。

研究への助言

國學院大學 教授 安野 功 先生

先生方改めましてこんにちは。
この会に来ると元気が出るんですね。
他の県の会場だと会場が黒いんですね。これは正常な世界ではないですよ。社会科を元気にしたのが私の願いなんです。女性の先生が多いのはいいですね。

私の役目は来年度の研究の方向性の助言となっております。

すばらしい研究の方向性を出されているというのが私の感想です。まずはですね。主テーマについてこの会の課題と結びつけてお話をしたいと思います。

ポイントのみ申し上げます。実は義務教育改革って最近言わなくなっちゃんですけど、そこからスタートしたんですね。つまりどういうことかと言うと、学校教育法っていうのは小学校は中学校はとなっていたものが義務教育はというものに変わるということです。社会科も廊下を隔てて南側が中学校課で北側が小学校課でというふうに廊下を隔てている訳ですから、改訂の際にお互いに情報交換をすることはほとんどなかった。

今回はそういうことではなくて義務教育の社会科としてどうするのか。かなり早い時期に小中の調査官がすり合わせをしました。そこで問題になったのは、まず「社会科」でいいですよ。ってことです。地理でもなく歴史科でもなく社会科でいいですよ。というところから入りました。形だけ申しますと小学校は総合社会科。中学校は分野社会科。聞いたことありますか。小学校の総合社会科は一体なんなのかと申しますと各学年の目標ってありますよね。理解と態度と能力と具体的に持つことになっているんですよ。理解し、こういう風な態度が育まれることとする。(3)は表現能力を育む。今話題になっている思考力とか判断力とか。それを図にすると、先生方も図を考えてほしいんですけど、社会生活の理解。これが小学校の不易なんですね。速い話が分かるっていうことですね。人と人との関わりその中の意味が分かるということですよ。人は分かる時どうするの

か？分かったと感じるときどうすることか。俗にいうところの問うってということ「問い」ですよ。

理解が深まるって言い方をしますけど理解というのはおそらく人それぞれにある。ある程度のこと分かっていないと「問い」はそう簡単にはできない。或いはある程度分かっていると問いが深い。最初の所が分かっていると肝心なところが分からない。それを全部含めて問い。問いの次に生まれてくるのは、例えば調べる。分からないから調べる。どれが妥当かなんて考えます。調べて表現して考えるというのがある程度深まってくると、俗にいうあの人の理解は深いなんてなりますが。その時に自分と社会との間が深まってくるとそこで一つ自分と社会との関係とか、多様な社会の中で理解と態度と能力というのが一体的に育つというのが形になってくる。

全国的に危険な実践はここばかり考える。指導要領はいわば、公民的資質の態度といわば、社会形成参画の基礎を含むという言い方をしていますので、社会形成参画基礎というのは別の物ではない。そこで主テーマを見ると社会的な在り方の学びを社会参画に繋げる学習ということで強調点を出している。この3つの側面に対してはきちっと抑えられている。学校というのは社会科のことを教えるのではない。社会を通した人間形成なのだ。社会的な見方や考え方を成長させようを第1においている。

教育基本法・学校教育法改正の中、公共の精神を大事にしていきたいと思いますというくだりの中で、社会形成参画というのが出てきます。国会などで議論されたときに公共の精神を学校で受けるのはたして一体何なのか。これは筆頭に当たるのが社会科。そして道徳・特活ですよ。人と人の関係を価値付けていく。

社会科は好況をストレートに受けていて全面に出してきたという経緯がありますので、このテーマで大事にされている在り方という香川は特殊な言い方を使われている訳なんですね。歴史的な経緯があるんですね。

ここで今年度は何を大事にするかというと、社会科の社会科授業づくりの基礎基本。これですね。この基本とは何かっていいことなんですよ。

願わくば一番っていうことは極めて単純なんですけど、みんなが参加する社会科の授業じゃないかなと思うんですよ。例えばある一部の意見だけがああだこうだと言っている。その考えでいいですね。みんないいですねって授業が時々あるんですよ。最初のうちはみんながいるのだけど、終わりはそれでいいのかなあと思ったりもしませんか？

やはり途中でみんなの考えはどこなのかなと確認しながら、自分はここにいてって中で今日はここにいるんだっていうそういう風にみんなを保障していく、繋いでいく。もともと公共というのはみんながどう生きているかという事であり、みんななで考えていく。みんながキーワードですよ。

授業づくりの基礎基本というと最低限保障されなければいけないことがみんなが授業の中にいるっていうのが、自分はここにいてつながっている社会科。多くは始め頑張る中ちよろちよろみたいなね。

二つ目なんですけどこの中にもありましたけど、内容と方法。基本的にはこのへんですよね。ここをしっかりと押さえてここを深めてこそ、こっちが共に育っていくということ。ここを疎かにしてはいけない。あなたはどこですか。どうすればいいですか？など繋がっていないと答えられない。ということはここが大事ですよ。

3つ目なんですけど、言語活動などで時々なんですけどどの教科なのかなっていうのが認識的な思考について議論されている。

例えばそれに対してのいくつかの根拠を述べる形式論ですよ。

悪くはないけどよくはない。

そうすると社会科の中の小学校の中でお願ひしているものの比較・関連・総合ですよ。どの学年がどういう風にするかっていう目標になりますよね。どの今回の場合考え表すっていうテーマでやっていますけど、どんな考えるということどうやって育てるかっていうことですね。この部分をどうやって学年で・内容でここではこれを考えさせるんだというあたりがここが非常に社会科らしくなっていく。

今日実はいくつかの発表の中で大事にしていたところがありました。

嬉しかったですね。

そうではないところもあった気がするんですが、どうでしょうかね。

うーん社会科なのかな？国語の言語活動寄りなのはないかなというところもありました。それが正直な感想ですね。

そこでたまたま偶然なのですが、材料を用意したのが、あるので見て下さい。

社会科授業づくりの基礎基本。研究部と申し合わせた訳ではないんですけども。具体的に即してお話できたらなと用意しました。比較関連総合して考えるとは。

若干映像を交えて。

こっちで？

えー。本来的には香川の事例を使えばよかったのですが、ちょっと香川まで集める時間がなかったです。埼玉県を使わせていただきます。

先生方は同じ香川にあればそれで考えて、その点は4年生はたくさんありました。県内の特色ある町の実践ですね。その埼玉の町でですね。撮影されたものなのですが、この2枚を見ておやっと思われたことがありますか？ちょっと聞いて今します。せっかくの参加です。

参観者：電信柱がない

安野：おや？

参観者：人の動きがある。

参観者：看板がなくなっている。

安野：おや？

今いくつかの意見が出ましたよね。ちょっと整理してみましようかね。

早い話が同じと違うということですね。どこを見て同じ？

屋根？

屋根を言うと分かりにくいので、プリントを配りたいのですが、資源削減のため配られたらすぐに折ってください。一応ですね。写真のどことどこを見て考えたか○でつないでみてください。ちょっと念のため聞いていいですか？同じ場所かな？同じ場所だ！の人？

ありがとうございます。

社会科ってこれが大事なんですよ。おなじものを比較する。これを確かに同じと見る人と同じかな？と怪しいところがあるのか。

線でつないで証拠探しをして見てみましょうか。

(安野氏参観者を巡視する)

聴いてますね。

同じかな？の人。同じ場所だ！の人。

おなじ場所だ！の人、手を挙げてもらっていいですか？

参観者：建物の他に道の形が同じ。

加えて何かありますか？

もう一度聞きますね。同じ場所か？の人。同じ場所だの人。

ほんとはここで時間をかけて最終的に同じ場所じゃないのかなあと思考が傾いてくるまでするのですが。

でもし同じ場所だとすると何が違うんですかね？看板があるかないか。

今と昔。

人力車があるかないか。

「やまわ」とかいう商店があるかないか。

今の中に期待している応えがあります。

時代が違うということなんでしょうね。

時代が違うとするとどう違うの？

参観者：右の方が新しい。

どう違うの？

参観者：右の方が古い。

どう違うの？

参観者：右の方が新しい。

それじゃ全体がどうか確認しますね。

左から右っていうことは、左が古くて右が新しいとみてる人。

それだへ聞いてみますね。

はいありがとうございます。一応ですね。自分の推理自分はこう考えたという証拠を探して写真の所で見つけてください。

(安野氏巡視)

発言の仕方として右が古いとか自分の立場を言って自分がそう考えた証拠を挙げて下さい。

参観者：右が新しい。うつっている人が今時な雰囲気です。観光客に見えます。

参観者：右の方が新しい。人力車がわざとらしい。

参観者：右が新しい。女性の鞆が今っぽい。

参観者：右が新しいと思います。しいて言うなら昔の雰囲気を出そうとしている。

違う意見の人がいますかね。

参観者：左が新しいと思います。それば電柱があるからです。

参観者：右が新しいと思います。看板が無くなっているからです。

そろそろ種明かしをしましょうか。

ほとんどの人が右が新しく左が古いでしたね。

今言った中で納得できない意見はありませんか？ねえ。納得できない意見はありませんか？地中に電線を埋めたっていう意見は絶対に納得できません。私は。あるいは看板なくなったとかどう考えても納得できません。看板を下ろすって聞いたことがある？

くらしが便利になって、電柱を埋めているから新しい。そんなバカな話ないことはない。

この写真2枚やったからって、自分がちゃんと納得できるのかどうか。

一応、写真ではどうにもならないからね。

もうちょっとなんか欲しいものはないかな？もう少しあれば考えられるなあというものはないかな？

参観者：色？

色がほしい。

いやあ残念ながら色を付けようがないんです。

何かを資料として加えたい。

なーんてことを考えたりします。

昔、年表に整理して考えるという

未来の写真の変化を説明するのにこれは使えるぞっていう証拠を見つけて線を引いてください。

(安野氏巡視)

はい。これをじっくりやりたいんですが。時間の関係で割愛させていただきます。

実はあの解説しますとね、今やっていることは私にとって非常にありがたいことなんです。

なぜかという先生方が線を引くことによって、ああ多くの方はここに目を付けるのかと私の目に映ってくるんですね。

これが俗にいう見取りですね。多分なんですがいいますか。電柱関係に線を引いた人手を挙げてください。

この中に使ってほしいんですが、入っているかどうかですね。決まり関係どうですか？あ、結構いますね。それから入れたいことは生かして関係ですね。まだまだありますが、この三つを基準にしながら授業を構築します。

やっぱり電柱を埋めてるんだってなりますよね。次に決まりっていう話をしたときに多くはどこだと思います。

例えば決まりでどんなことを説明するのかになります。決まりによってどんなことが説明できますか。

ちょっと聞いてみていいですか、おそらくこうじゃないかなと・・・。

参観者：おそらく左の方が新しく見えるじゃないかといってくる時に決まりで右も古いものを残そうとしているから右も古いものなんだよと言えるんじゃないか。

参観者：左側の写真は雑然と置かれているけど看板をよく見るときれいにして下さいとあるからそれができたんじゃないか。

やはり右は古いけどすっきりしてますよね。

看板を揃える決まりを作ったんじゃないのかなあなど。電柱を埋めるっていうのも決まりでやったのかあ。

それからさっきの生かすっていうのに線を引いた人いませんか？

参観者：右側の写真で自動車ではなく人力車のようなものを使っているの、観光の為に生かそうとしているのではないか。

目的は観光のために生かしたのではないかということですね。

あと生かすっていうのは他にどうですか。

参観者：資料館にしたのかな。

子どもってなんていうんですかね。しんどい子がいって人力車で生かすっていうと邪魔なものがあるのですね。

ある邪魔なものとは何でしょう。

参観者：電信柱・看板。

どう考えてもでかい看板を付けられちゃうと見えませんからね。この看板をどかすっていうことはその裏側の蔵が見えるようにするということ。蔵そのものが見えるようにすることで生かしているのではないか。

先ほどおっしゃっていたようにこれは確かに右が新しくて左が古くてそれを生かそうとしてやっています。

観光客を増やそうとしているけど納得できますか。

皆さんの意見が本当に正しいかどうか見てみましょうか。

8km約62億円これだけかかっているんですね。当然のことながら、誰が出しているんでしょうね。こういうのをゆっくりと素朴に考えてみたいですよ。埋めてることは事実なんですよ。納得できますか。一応念のため。市が市民を説得するために使った構想図ですね。

この構想図を見て説得する側の市は何を言ったのか。

説得される側の市民は反論はしなかったのか。

意図的に両方をやってみる。

一応市の側だったら何を説明の根拠にしますか。

参観者：暮らしやすくする町。

ね。意見ありますよね。

参観者：決まりが増えすぎると逆に暮らしづらい。

絵を見て実は反論が出てきますよね。

参観者：建物がたくさんありすぎて、住みにくい。蔵に住んでいる人はいいけどおれは裏にいるから関係ないよ。別の所へ税金を使ってくれよとかね。もっと税金はみんなの為に使ってくれよとかね。

参観者：にぎやかになるよ。

具体的にはにぎやかになるよとは何でしょう？

参観者：この場合だったら国の保存地区を守ること。両方がにぎわえる。

なるほど。にぎわいとほこりでそれなら納得できます。

経済効果なんですかね。みんなが来てくれるから。

人がたくさん来てお金を落としてくれるのだから町が潤って経済効果があるかな。

今の中でなんとなくこれだったら説得力ありそうな意見ありますか？

参観者：観光客がたくさん来て町が賑わう。

どうです？

参観者：人がたくさん来てお金を落としてくれるのでそこにすんでいる人も潤う。

っていう意見なら納得できますね。

参観者：他にはないものを残すことでたくさんの人が来るのであればそれは経済効果があるかなと思います。

はい。なるほど。はたして本当に人が来たんですかね。裏側を見ると実際に、その先ほどの年表と見比べてちょっと人口の変化を関係付けてみませんか。

ポイントになるところ分かりますかね。来る人の人数が増えたことです。まずここ増えましたよね。88年から90。これ何があった時ですかね。

決まりを作ったときですよ。決まりを作ると増える。

1998年でもこの辺でも何かしましたかね。この辺から上がってくるんですよ。電柱ですよ。

電柱うめるとたくさん来ましたね。だけど大分お金かって電柱埋めましたね。

人が来るっていう効果はありそうですね。でも観光客が来てそんな賑わうことがありますかね。

市議会で説明した説明をまとめたものがあるので見てみましょうかね。

日帰りで一日使うのは 3245。宿泊客は 17621 円。でそうすると 1 万人なると次のような計算で 428 万 700 円。これで試算すると 2010 年には 28 億円。将来の目標 325 億円。というけいさんで市に説明なされた訳ですね。

当然のことながらも一度あなた納得できますか。2 時間かけてやりますから。比較関連して行う授業作りって小学校の場合って資料からどうにもならない状況になってきて時に何と関連付けたらいいのかなということが出来る資料入れたいんですね。その資料と関係付ける時に見えるように関係付けていく。

事実と事実を関係付けて推理させる。とうことをやりたんですね。

子ども達が何を繋いで何を考えているのかっていうのが見えます。見えるっていうことをきちんとしていないと思考ってのはなかなか育たない。全体がどうなっているか分からない。

ただし、単純な繋ぐという授業をやったりしないといけないんですね。教科書の資料を中心資料にして繋がせるか。実は種明かしなんですけどさっきの 2 枚の写真ですが、副読本のコピーですが、カラーと白黒を比較しちゃえば・・・カラーだとこっちはベンツが走ってますから一発で分かっちゃうんですね。だからわざと白黒にするんですね。白黒にすると古いベンツにみえるんですよ。

だからこの 2 枚で親っていうだけの発問で。同じ場所だから、時間が違うんだという意見になりますよね。時間軸空間軸出てますからね。今回は費用概念？物事に小学校ではお金とか費用とか書いてなかったんですね。だけど今回それを入れた理由は本当に納得できるのかということ。

ほんとに納得できるかっていうことになれば費用面が出てくるんですね。

町づくりって空気を食うような街ではできない。やはりその街の人達が維持していく為には観光資源を活用しなければだめだ。

さて、比較関連総合しながら考えるっていうのは色んなものでも応用できます。例えば室町の授業

でもこれで比較って言うことを考えていきますとこれあの京都御所の正御殿です。これ寝殿造りなんですね。これをよく見て下さいね。ここが天皇さんでここが皇后さんですね。で、こことこのところは密室というんですかね。こっちの方に用といわれるお付きの人がいますね。お付きの人は 24 時間勤務です。

その人が朝にやることはこの前とびらを開け広げること。夜になるとこれを閉める。隣にはけて一晩何にもなかったなと交代する。

これが寒いんです。こんな天気でもやるのですかと質問したことがあります。

室町の建物がこの中にあるのですね。

寝殿造りと書院造の中間の建物に出会うんですね。障子？障子障子が生み出されたっていうことを考えると、寝殿造りでどういう風な一日をしてきたか。どんな寒い日でも開けますよ。暗いから。そうすと障子は一体何なのかということになりますよね。閉めても明るいから。日本の気候風土と関係付けるとだから日本でこういうものが生まれてきたんだと関連づけられます。

沖縄に障子あるのですかね。僕は見たことないんだけど。

障子の発明によって。

寝殿造りで比較していかないとこういうことは見つけられません。

でも歴史の授業の多くは中学校の先生に聞いたんですけどなぜ障子が生まれたのと考えさせてはいません。

小学校では、先人がいろいろなことを実現しようとしているのだからその生み出されたものを学習しろというのですから。やってみたいと思いませんか。やるにあたっては色々悩むんですけど、その時代だけ見ては駄目なんですね。

ちょっと前の時代と比較すると何のために生まれたのかなって生まれてきますよね。

余談ですが比較するとこんなことを見えます。天龍寺さんのお寺なんですね。ここに室町の将軍が祀られてるんです。同志社大学の真裏にあります。ぼくがいつも 2 枚の写真を見せて大学生に聞くんですけど。

どっちが日本らしい？

左の庭の方が日本らしい。

右の方が日本らしい。

ありがとうございます。

座る場所によって景色の見え方が違うように造られていますよね。この辺なんかもやはり伝統文化を大事にしてきた日本人が生み出した障子や庭との関係、これがよく見えます。

ヨーロッパの庭は四季の中で冬になると何にも無くなってしまうとか結構多いらしいんですね。

だけど日本は これ真冬の庭ですよ。美しい。日本は四季をうまく生かしながらこういう風な文化を創ってきたんですね。どっかで気付かせたいですよ。

先ほど 50 分ほどまでの授業の話なので後 1 分で 50 分なんです。ですので社会科の授業といいますと思考がね考えてないんですよ。考える基本は比べる。全部をひっくりめるといってどうなんだろう。ってまとめてみると多分、賛否両論の意見は出てくるだろうし、そういうふうに比較関連総合するっていうのが丹念にやっていると子どもに分かり安い。その中で生み出す問う力を育てたいんですね。問う力がないとこの 2 つを見ても何も生まれません。だけどこの 2 つを見ながらどんなんだろうと考えるように育てていただきたい。ぜひ、問う力を育てながら日々の授業づくりの中でやってみてください。さらに教科書の活用でこの資料を比較する考える提案でしたが終わりにさせていただきます。以上です。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

